

平成30年9月
学校法人東成学園



独立行政法人 日本芸術文化振興会 委託事業

イングランド及びスコットランドにおける
文化芸術活動に対する
助成システム等に関する実態調査

報告書 別冊

独立行政法人 日本芸術文化振興会 委託事業

イングランド及びスコットランドにおける
文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査 報告書 別冊

.....

関連文献（日本語訳）
目次

- 別 -1 英国 文化・メディア・スポーツ省（現デジタル・文化・メディア・スポーツ省） p.002
DCMS
The Culture White Paper
カルチャー・ホワイト・ペーパー
2016年
〈原文献〉
https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/510798/DCMS_The_Culture_White_Paper__3_.pdf
- 別 -2 アーツカウンシル・イングランド 10年戦略 p.035
ACE
Great Art and Culture for Everyone
あらゆる人に素晴らしい文化芸術を
2013年
〈原文献〉
<https://www.artscouncil.org.uk/sites/default/files/download-file/Great%20art%20and%20culture%20for%20everyone.pdf>
- 別 -3 クリエイティブ・スコットランド 10年計画 p.051
CS
Unlocking Potential, Embracing Ambition
可能性の扉を開き、大志を抱く
2014年
〈原文献〉
https://www.creativescotland.com/_data/assets/pdf_file/0012/25500/Creative-Scotland-10-Year-Plan-2014-2024-v1-2.pdf

※日本語訳中、グレーに着色されている **p.1**、**p.2**、**p.3** 等は、原文献の頁を表しています。

- 日本語訳の公開は、本調査の報告書としての公開を目的として、一定の条件で各発行者から承諾を得ております。
- 原文献に用いられているコンテンツの内、著作権が第三者に帰属する写真・ロゴ・イラスト等は使用しておりません。
- 引用等に際しては、著作権者である各発行者にも必ずお問い合わせください。

表紙

文化・メディア・スポーツ省

The Culture White Paper

カルチャー・ホワイト・ペーパー

#OurCulture

見返し

表紙：サウスバンク・センターで演奏するロンドン・ミュージック・マスターズ・ブリッジ・プロジェクト (London Music Masters Bridge Project)

p.1

カルチャー・ホワイト・ペーパー

女王陛下の命により
文化・メディア・スポーツ大臣が
議会に提出

2016年3月

Cm 9218

p.2

© Crown copyright 2016

本書は特記のない限り、オープン政府ライセンス (Open Government Licence) v3.0の規定に基づき使用を許可されている。同ライセンスの内容を確認するには、nationalarchives.gov.uk/doc/open-government-licence/version/3にアクセス、または英国国立公文書館の情報政策チーム (Information Policy Team) まで郵便 (宛先: Information Policy Team, The National Archives, Kew, London TW9 4DU) あるいは電子メール (psi@nationalarchives.gsi.gov.uk) で問い合わせのこと。

第三者の著作権情報が示されている場合は、当該の著作権者から使用許可を得る必要がある。

本書の入手先: www.gov.uk/government/publications

本書に関する問い合わせ先: publiccorrespondence@cabinetoffice.gov.uk

印刷版 ISBN : 9781474129312

デジタル版 ISBN : 9781474129329

ID 24021615 03/16

古紙パルプ配合率75%以上の再生紙を使用

英国政府刊行物発行所の管理官 (Controller) に代わりウィリアムズ・リー・グループが英国で印刷

【本文奇数ページ共通：ヘッダ】

文化・メディア・スポーツ省 カルチャー・ホワイト・ペーパー 目次

【本文奇数ページ共通：フッタ】

#OurCulture

p.3

目次

文化・デジタル経済担当大臣による序文	5
概要	8
はじめに	12
1. 人生の出発点がどのようなものであろうとも、あらゆる人が、文化が提供する機会を享受できるようにしなければならない	18
1.1 文化は、学校の内外において、あらゆる子供の教育に欠かせない要素であるべきである	21
1.2 才能の芽を持つ者に対し、スキル開発へのアクセスを改善し、進路を明確化すべきである	24
1.3 公的助成を受ける文化は、我が国の多様性を反映すべきである	26
2. 我が国の文化の豊かさは、その恩恵を国中のコミュニティにもたらすものでなければならない	28
2.1 より強固で健全なコミュニティを構築し、経済成長を後押しする上で、文化が担う役割を拡大させる	32
2.2 地域と国のパートナーシップ強化は、場づくりにおける文化の役割を拡大させるために不可欠である。国立の機関に対し、地域のビジョンを後押しすることを求める	34
2.3 歴史的に意義深い建築環境は我が国特有の資産のひとつであり、地域のコミュニティは地元で大切にされる建物を最大限に活用するための支援を受ける	36
2.4 科学技術によって文化の創出と体験の方法は広がりつつあり、デジタルの世界はそれ自体が「場」となりつつある	38
3. 文化には、我が国の国際的地位を高める力がある	40
3.1 文化輸出を通じて英国を宣伝することにより、我が国の世界的評価とソフト・パワーをさらに高める	43
3.2 GREATキャンペーンは、文化を利用して「英国ブランド」を宣伝するとともに、世界最高峰のイベントを誘致することにより、観光客に対する我が国の文化的オファーをさらに向上させる	44
3.3 世界の文化遺産を保護するために世界規模でパートナーと連携する	46
4. 文化への投資、レジリエンス、改革	49
4.1 政府は引き続き、我が国の文化セクターの成長に投資する	52
4.2 文化団体の財源モデルの多角化を後押しするために政府が行う支援は、実証可能な変化をもたらす	53
4.3 公的機関に対し、本ホワイト・ペーパーに示された目的を達成するための支援を行う	56
付録1：インパクトの測定	58
付録2：協議先一覧	66

【本文偶数ページ共通：ヘッダ】

目次 文化・メディア・スポーツ省 カルチャー・ホワイト・ペーパー

【本文偶数ページ共通：フッタ】

#OurCulture

p.4

私が強く思っているのと同じように、あなたも文化芸術を公的に助成すべきであると思っただけならば、アクセスの平等性や、万人を惹き付けること、万人を歓迎すべきであることも、きっと大事だと思っただけではない。

デービッド・キャメロン (David Cameron) 下院議員

【写真キャプション】

エデン・セッションーコーンウォールのエデン・プロジェクト

p.5

序文

文化・デジタル経済担当大臣による

【写真キャプション】

エド・ベイジー (Ed Vaizey) 下院議員
閣外大臣

【左下囲み】

過去 70 年間、公的支援は万人のための文化を支えてきた。

【右上囲み】

本書は、文化に関して 50 年以上ぶりに、史上第 2 弾として発行されるホワイト・ペーパーである。そして、文化芸術への公的支援に対する我々のアプローチにもたらされた最新の寄与である。

【本文】

本書は、文化に関して 50 年以上ぶりに、史上第 2 弾として発行されるホワイト・ペーパーである。そして、文化芸術への公的支援に対する我々のアプローチにもたらされた最新の寄与である。

そのような支援に対する現在のアプローチは第二次世界大戦直後に開始されたが、実のところ、まだ戦闘が続いているうちから検討が重ねられていた。アーツカウンシル・グレートブリテンの初代会長であるジョン・メイナード・ケインズ (John Maynard Keynes) はかつて、自身の期待としてこう語っている。「劇場やコンサートホールやギャラリーは、万人の教育において生きていく要素となるだろう」

この願いは 1965 年、ジェニー・リー (Jennie Lee) による芸術に関するホワイト・ペーパーにおいて、さらに具体化された。ここで、芸術における最高の部分を維持し、強化するという政府の義務が示され、「最高のものは、より広く利用できるようにしなくてはならない」と述べられていた。

政府は 1992 年、現在の文化・メディア・スポーツ省に当たる国家遺産省を設立した。そして 1994 年には、国営宝くじ基金が発足した。その発足に当たり、ジョン・メジャー (John Major) はこう述べている。「受け継がれた遺産を育み、芸術に対する鑑賞眼を広く養ってこそ、一国は、強く、健全で、満たされた国となるのである。私はこの国の誰もが、かつては少数の特権階級にしか得られなかった機会を分かち合うようになることを望んでいる……。私は宝くじ基金によって、新たに何百万という人々が、より充実した人生を享受できるようになるものと確信している」

国営宝くじ基金は、文化芸術遺産関連の何千ものイニシアチブに対して助成を行い、英国全土の博物館・美術館、ギャラリー、歴史的建造物の新設や改装の費用を負担してきた。

文化に対する欲求の高まりは、クリス・スミス (Chris Smith) 文化大臣が 2001 年に博物館・美術館の入場無料化を導入することで明白になった。その後 10 年で来館者は急増したのである。

この 70 年間にわたり、公的支援は万人のための文化を支援することにより、どんな場所にいる人でも最善のものを期待する権利をもたらしえてきた。そして、我が国の文化遺産全体を守り、アクセスをさらに向上させている。

p.6

【左上引用】

彼女たちは書物であり、芸術であり、学校である
つまりはこの世界全体を物語り、内包し、育む存在なのだ……

『恋の骨折り損』より

【本文】

本ホワイト・ペーパーは、先例を土台としている。革命 (revolution) ではなく、進化 (evolution) である。国、地域、地方のレベルでの政治的リーダーシップだけでなく、文化セクターの内部、全体、そして文化セクター以外にもまたがるリーダーシップも重要であることを認識している。この文書は、カルチャー・イン・アクション (動いている文化) のビジョンであり、それは我が国の社会や、国・地域の経済を活性化する存在としての文化という意味である。このような文化の役割は、文化が思考の際に欠くことのできない一部となっている土地ならどこでも気付くことができる。ブリストルであれ、マンチェスターであれ、ティーズバレーであれ、ハルであれ、イーストリンゼーのような農村地域であれ、そのことには変わりはない。

我が国のクリエイティブ産業は、ジョージ・オズボーン (George Osborne) が 2015 年の秋季財政演説で述べたように、「国家としてできる最も良い投資のひとつ」である。

本ホワイト・ペーパーが 2016 年に発表されるのは吉兆である。というのも、2016 年はウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare) の没後 400 年目に当たる記念すべき年だからである。

シェイクスピアは『恋の骨折り損』でこう書いている。

「彼女たちは書物であり、芸術であり、学校である
つまりはこの世界全体を物語り、内包し、育む存在なのだ……」

我々とシェイクスピアの関係は、本ホワイト・ペーパーの目的を体現するものである。

本ホワイト・ペーパーでは、子供や若者のための機会の拡大について取り上げる。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー (RSC) の学校向けプログラムは、昨年 50 万人の子供たちが参加、全国の学校そして教員に教育サポートを提供した。

【中央囲み】

本ホワイト・ペーパーでは、子供と若者のための機会の増加について取り上げる。

【本文】

本文書では、文化を場づくりにどのように利用できるのかについても注目する。そして、文化によって形づくられた町があるとすれば、それは、シェイクスピアを目当てに毎年490万人の観光客が訪れる、ストラトフォード・アポン・エイボンの町である。

また、文化が我が国のソフト・パワーにいかにかに寄与するのかについても取り上げる。ブリティッシュ・カウンシルとGREAT Britain (グレート・ブリテン) キャンペーンは今年、140カ国の何百万という人々にシェイクスピア作品を届けるプログラム「シェイクスピア・リブズ (Shakespeare Lives)」を立ち上げた。このプログラムでは、マンチェスターのロイヤル・エクスチェンジ (the Manchester Royal Exchange) で上演され好評を博したマキシン・ピーク (Maxine Peake) 主演の舞台『ハムレット』の映像版も上映される。シェイクスピア・グローブ座は、196カ国もの異例の『ハムレット』世界巡業公演を、シェイクスピアの没後400年である本年に終える予定である。

助成の新たなモデルを検討する場合も、シェイクスピアに関する経験が道を示してくれる。バーキングでは、コミュニティを中心とした『ヴェニス商人』の野外上演のための資金8万ポンドをクラウドファンディングで集め、そのうち2万5,000ポンドをある地元の不動産会社から調達している。

本ホワイト・ペーパーが目指すのは、文化の栄養効果とも言うべきものを活用することである。若者の想像力に火をつけ、意欲と機会を燃え立たせ、コミュニティのエネルギーに刺激という燃料を与えることを目指す。

さらに、我が国の文化芸術遺産・文化といった贈り物を、より多くの人々、国内そして海外のコミュニティに行き渡らせ、すべての人のための、よりよい世界をつくることのできるクリエイティブな才能を解き放つことである。

【署名の下】

エド・ベイジーン下院議員
閣外大臣

p.7

【写真キャプション】

ロンドン博物館、ブースマップ・ルーム (Booth Map Room)

p.8

概要

1

人生の出発点がどのようなものであろうとも、あらゆる人が、文化が提供する機会を享受できるようにしなければならない

我々は、文化がもたらす機会から現時点で排除されている人々に特に重点を置いて、文化への参加を拡大するための

様々な方策を整備する。とりわけ、生育環境に恵まれない子供や若者が文化から刺激を受け、文化との有意義な関係を新たに結ぶことを確かなものとする。

新たな文化的市民プログラムを、アーツカウンシル・イングランドと文化遺産宝くじ基金主導のもと、文化への参加度が最低レベルにある70の地域で実施する。

職業実習賦課金 (apprenticeships levy) の導入に伴い、大手文化団体に対し、職業実習生を受け入れ、職場における多様性 (ダイバーシティ) と包摂 (インクルージョン) を推進することを期待する。

我々は、文化セクターのリーダー層と構成員の多様性を向上させる必要がある。そこで、文化セクターへの進路の明確化を推進する。その一環として、芸術の世界でプロとして働くことを妨げている障壁にも対処する。また、助成を受ける団体に対し、多様性を向上させるための戦略を公表することを求める。

【写真キャプション】

上：ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーのRSC教育ワークショップ、左：サウスバンク・センターの「イマジン・チルドレンズ・フェスティバル (Imagine Children's Festival)」

p.9

【左上囲み】

4,000万ポンド

文化はコミュニティを変える可能性を秘めている。「英国文化都市 (UK City of Culture)」や「グレート・エキシビション・オブ・ザ・ノース (the Great Exhibition of the North)」、新たな4,000万ポンドのディスカバー・イングランド (Discover England) ファンドをはじめとする我が国のプログラムは、その可能性を示すものとなるだろう。

【写真キャプション】

左上：大英博物館の「子供友の会 (Young Friends)」お泊まり会、右上：ヨークシャー・スカulptチャー・パークに展示されたトム・プライス (Tom Price) の作品「ネットワーク (Network)」、上：クイーンズ・ガーデンズ内「Hull英国文化都市2017」ブランド・スカulptチャー

【本文】

2

我が国の文化の豊かさは、その恩恵を国中のコミュニティにもたらすものでなければならない

我が国の文化セクターは、地域、都市、町村の再生、健康とウェルビーイングに大きく寄与している。

我々は、アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金、イングランド公衆衛生局 (Public Health England) その他のパートナーと連携して、健康とウェルビーイングの向上に対する文化セクターの寄与を拡大・推進する。

文化はコミュニティを変える可能性を秘めている。「英国文化都市 (UK City of Culture)」や「グレート・エキシビション・オブ・ザ・ノース (the Great Exhibition of the North)」、新たな4,000万ポンドのディスカバー・イングランド (Discover England) ファンドをはじめとする我が国

のプログラムは、その可能性を示すものとなるだろう。

新しい文化的パートナーシップの構築を推進し、国と地域の様々なパートナーを巻き込む。そして、経験豊かな全国レベルの文化的リーダーに対し、文化的パートナーシップの構築を進める人々に協力することを求めていく。

文化芸術遺産分野の英国宝くじ収益金分配機関 (Lottery funder) に、新たなグレート・プレース (Great Place) スキームに一致団結して取り組ませる。このスキームは、ビジョンの中心に文化を据えたいと考える地域のコミュニティを後押しすることで、雇用、経済成長、教育、健康、ウェルビーイングを支援しようというものである。

イングランドで「ヘリテージ・アクション・ゾーン (Heritage Action Zone)」を立ち上げる。国の文化遺産団体はコミュニティに対し、地元の歴史的建造物の所有権取得をはじめ、そうした建造物を最大限に活用する方法について助言を行う。

自治体 (councils) や所有者に対し、空いている事業用の土地・建物を文化団体が一時的に利用できるようなよう促す。

2017年度から2018年度にかけて、2,000万ポンドを第一次世界大戦開戦100周年記念 (First World War Centenary) の大聖堂修復の助成金として出資するとともに、イングランドの教会建物・大聖堂がどのように財政的な持続可能性を高められるのか調査するためのレビューを行う。

科学技術は、我が国の文化をより多くの人に多種多様な方法で届ける機会をふんだんにもたらす。関係文化機関と連携し、公的コレクションのデジタル化と、科学技術の活用による利用者のオンライン体験向上において、英国が世界をリードする国のひとつとなることを目指す。

p.10

3

文化には、我が国の国際的地位を高める力がある

英国は、ソフト・パワーに関して先駆的な存在である。その強固で安定した民主主義、個人の自由に対する信念、多様性、表現の自由を高く評価されている。我々の文化は、それらの価値観を称えるものである。

GREAT Britain キャンペーンのようなイニシアチブや、ブリティッシュ・カウンシルの活動を足掛かりとして、我が国の文化セクターのために新たな機会を創出することで、貿易、輸出、文化交流を促進することを目指す。我々は、GREAT キャンペーンへの出資額を拡大した。また、GREAT キャンペーンの財源を利用して、世界一流のイベントを英国に誘致することを目指す。

英国貿易投資総省 (UKTI) と共同で世界的な文化輸出プログラムを推進し、新市場の開拓を目指すとともに、UKTI のハイ・バリュー・オポチュニティ (High Value Opportunity : HVO) プログラムに文化セクターが確実に参加できるようにする。

2016年には、公演、上映会及びデジタル事業からなるシェイクスピア没後400年を記念する世界的プログラム「シェ

イクスピア・リブズ」を支援する。また、国際ボランティアサービス (VSO) にパートナーとして協力する。VSOは、このシェイクスピア記念プログラムを利用して、世界中の子供の識字能力を支えるための資金を調達する予定である。

世界中の文化遺産、とりわけ紛争地域に存在するものを支援するための法的手段を強化する。新しく「文化保護基金 (Cultural Protection Fund)」を創設し、文化破壊行為を受けた国の復興に助力する。

【写真キャプション】

上：ニュー・ロンドン・シアターで上演されたナショナル・シアター制作『ウォー・ホース〜戦火の馬〜』、中：戦没者追悼イベント「タワー・オブ・ロンドン・リメンバーズ (Tower of London Remembers)」、下：「シェイクスピア・リブズ」- 「ああ、哀れなヨリック」(『ハムレット』より)

p.11

【写真キャプション】

右上：文化遺産宝くじ基金による「サンドフォード文化遺産&コミュニティ・プロジェクト (Sandford Heritage and Community Project)」、上：ドーバー城で開催されたイングリッシュ・ヘリテージ (English Heritage) 「チルドレンズ・フェスティバル (Childrens Festival)」、右：大英博物館図書室

【本文】

4

文化への投資、レジリエンス、改革

我々は、公的助成が収益や民間セクターの融資、寄付と併存することで機能するという文化投資モデルを成功させている。このように多角的な収入源は、文化セクターを繁栄させ、レジリエンス (回復力・柔軟性) を保つための基盤をもたらしている。

出資と優遇措置を通じて、成長の支援を続けていく。

博物館・美術館を対象とした付加価値税 (VAT) 払い戻しスキームの拡大を進め、このスキームの恩恵を得られる博物館・美術館を増やそうとしている。2017年には、博物館・美術館及びギャラリーを対象とした新たな減税を導入することで、企画展や巡回展の支援を図る。

また、ギフト・エイド (Gift Aid) の寄付者優遇規定を変更し、簡素化することを検討する。

国家補助の許可を得ることを条件として、社会的投資減税の対象となる投資額を引き上げる。

新しい文化商業アカデミー (Commercial Academy for Culture) を創設し、文化セクターにおける商業的専門知識の向上と普及を図る。

企業寄付に対するアプローチを刷新したい。アーツカウンシル・イングランドは、我が国の文化セクターに対する、企業投資をはじめとする民間投資の最新の概況を明らかにすべく、新たな民間投資調査 (Private Investment Survey) の実施を外部委託した。

アーツカウンシル・イングランドと文化遺産宝くじ基金を対

象とした個別のテイラード・レビュー (Tailored Review) を実施する。また、博物館・美術館セクターを対象とした広範囲にわたる報告書の作成も実施する。

【右下囲み】

出資と優遇措置を通じて、成長の支援を続けていく。

p.12

はじめに

毎年、非常に多くの人々が、我が国の世界に通用する博物館・美術館を訪れ、優れた演劇、テレビ番組、映画に見入り、視覚芸術や建築の新たな展開に感嘆し、文化遺産や歴史的建造物を鑑賞し楽しい時を過ごしている…。我々には語るべき素晴らしい物語がある。

ジョン・ウィットニングデール (John Whittingdale) 下院議員 (大英帝国勲章第4位受勲)
文化・メディア・スポーツ大臣

p.13

【左上囲み】

本ホワイト・ペーパーは、政府が今後どのように文化セクターを支援するのか、そして、国際舞台で主導権を握るような、より公正かつ繁栄した国を築く上で、文化がいかに積極的な役割を果たすのかを示すものである。

【本文】

ジュニー・リー (Jennie Lee) が芸術に関するホワイト・ペーパーを発表して以来50年で、国民が芸術と文化遺産を享受する状況は、政府の政策により着実に進歩した。文化に対する我々の理解も変化した。

文化はもはや、単に美術や建築の名作リストに精通することではなく、創造性、芸術、博物館・美術館、ギャラリー、図書館、アーカイブ文化遺産が生活に及ぼす蓄積的な影響を意味することとなった。我々が「文化セクター」について語る際に参照しているのは、国家としての我々が何者であるのかを、我が国の豊かな多様性の中で共に守り、反映し、振興している人々や団体の非凡なネットワークのことである。

文化には美的な側面が様々な形で常に存在するものであり、政府は文化的卓越性を常に擁護していく。ただし、すべてのコミュニティには固有の文化——固有の歴史、博物館・美術館、伝統がある。現在のグローバルで入り組んだ経済において、その土地ならではのものごとには特別な価値があり、支援と奨励の対象とすべきである。我々がコミュニティの文化を操るべきではないことは、誰かに対して何をどのように創造するかを指図すべきではないと同様である。政府の役割は、素晴らしい文化と創造性を花開かせることである。そして、すべての人がそれにアクセスできることを確かなものとするのである。

文化セクターはすでに、我が国の経済と社会の一部としてきわめて重要なものになっている。我々は、文化への投資には多大な経済的価値があるばかりでなく、我々の日々の生活に及ぶ様々な便益をもたらすことを認識している。文化が子供の教育にどのような変化をもたらすかということは見て取ることができ、文化と健康とウェルビーイングの間にある強い関連性に対する我々の理解は深まりつつある。

【中央囲み】

あらゆる人は、文化を体験し、参加し、創造し、文化によって生活が変わることを経験するチャンスを持つべきである。

【本文】

あらゆる人は、文化を体験し、参加し、創造し、文化によって生活が変わることを経験するチャンスを持つべきである。本文書では、文化を体験する機会が比較的限られている人々を特に対象とし、より多くの文化的機会を生み出さなければならぬという課題に対処する。

本ホワイト・ペーパーでは、今後の課題と機会を検討する。政府が、我が国の社会における文化の役割を確固たるものにする一助として、文化を通じてどのように若者を刺激し、コミュニティを活性化させ、世界全体における我が国の影響力を高めることを目指すのかを説明する。また、財務的なレジリエンスと、文化セクター間及び他のセクターとのパートナーシップの必要性についても扱う。そして、強力なリーダーシップによって、この国家的ビジョンを地域レベルでいかに実現できるのかについて述べる。

ホワイト・ペーパーの作成中、わくわくするような画期的なイニシアチブの好例が文化セクター内で数多く見つかった。これらについては別途、事例報告書にまとめ、本ホワイト・ペーパーと同時に発表している。これは包括的な調査報告書ではないが、文化セクターで今何が起きているのかを示す事例研究集となっている。本ホワイト・ペーパーの電子版には、関連する事例へのリンクを収録している。

【写真キャプション】

左：シェイクスピア・グローブ座の2015年サム・ワナメイカー・フェスティバル (Sam Wanamaker Festival 2015)、上：アクセス・オール・エリアズ (Access All Areas) とキアン・ビンチー (Cian Binchy) による舞台『ザ・ミスフィット・アナリシス (The Misfit Analysis)』、右：リーディング・エージェンシー (The Reading Agency) による「サマー・リーディング・チャレンジ (Summer Reading Challenge)」

p.14

英国における文化のための、政府のフレームワーク

英国政府は、英国全体の各種文化セクターを振興・支援し、海外に広めていく上で一定の役割を担っている。英国全土の文化セクターに益する様々な政策やプログラムに対して責任を負っている。それらの政策やプログラムの例としては、減税・税制優遇措置、国営宝くじ基金による英国全体の宝くじ売上金を財源とした助成、高速ブロードバンドへのアクセスの改善、ビデオゲーム産業に対する支援、「英国文化都市」プログラム、GREATキャンペーン、英国文化の輸出促進などが挙げられる。

英国政府はまた、ビクトリア・アンド・アルバート・ダンディー (V&A Dundee) のファンドレイジングキャンペーンに協力するなど、特定の文化プロジェクトへの支援も行っている。

英国政府は、英国全土を活動範囲とする機関に対して公的助成を行っている。ブリティッシュ・カウンシル、英国映画協会、大英博物館や大英図書館をはじめとする国立の博物館・美術館及びギャラリーがその例である。また、国営宝くじ基

金の資金を英国の4カ国の文化遺産及び博物館・美術館セクターに分配している文化遺産宝くじ基金に対する責任も負っている。

スコットランド、ウェールズ及び北アイルランドにおいて、文化セクターに対する支援の上記以外の側面は、スコットランド政府、ウェールズ政府及び北アイルランド自治政府それぞれの責任である。これらの3政府はまた、文化関連の国際的な問題や、相互の利益に関するその他の事項に関して英国政府と緊密に連携している。

英国政府は、イングランドの文化セクターに対する責任を負っている。この責任の範囲には、アーツカウンシル・イングランド（イングランドの芸術を対象として国営宝くじ基金の助成金の分配も行っている）やヒストリック・イングランドといったイングランドのみで活動する機関への助成も含まれる。したがって、本ホワイト・ペーパーに示した政策及び提案の一部は、イングランドのみを対象としている。

下図は、アーツカウンシル・イングランドに対する政府及び国営宝くじ基金の助成と、ヒストリック・イングランドに対する政府の助成、文化遺産宝くじ基金に対する国営宝くじ基金の助成について、2009～14年度の6年間における金額の推移を示したものである。これらの図から分かるように、文化芸術遺産に対する¹⁾と国営宝くじ基金の助成の総額は全体的に増加している¹⁾。

【図：始まり】

図1：アーツカウンシル・イングランドに対する政府及び国営宝くじ基金の助成金

(凡例)

政府の助成金

宝くじ基金の助成金

単位：1,000 ポンド

図2：イングリッシュ・ヘリテージ²⁾に対する政府の助成金及び文化遺産宝くじ基金に対する国営宝くじ基金の助成金

(凡例)

政府の助成金

宝くじ基金の助成金

単位：1,000 ポンド

【図：終わり】

【脚注】

1) どちらの図でもインフレ調整前の金額を使用。政府の助成額の出典（年次の『DCMS資源会計報告書（DCMS Resource Accounts）』）：<https://www.gov.uk/government/organisations/department-for-culture-media-sport/about#corporate-reports>。国営宝くじ基金のデータの出典：https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/445563/National_Lottery_Distribution_Fund_Account_2014-15_print_file_.pdf

2) イングリッシュ・ヘリテージは2015年4月、政府の助成を受けて法定サービスを実施する「ヒストリック・イングランド」と、国家的な遺産・遺跡のコレクションを管理するチャリティ団体「イングリッシュ・ヘリテージ」に分割された。

p.15

文化の価値

文化は数多くの便益をもたらす。本ホワイト・ペーパーでは、以下の3つの領域を重点的に扱う。

—**本質的価値**：豊かさをもたらすという、文化それ自体の価値

—**社会的価値**：学力の向上、健康増進効果

—**経済的価値**：経済成長と雇用創出に対する文化の寄与

本セクションでは、文化がもたらす便益についてのエビデンスを示す。

文化の本質的価値

文化は着想を生み、生活を豊かにし、良い意味で人生観を変える。

文化には、個人的なウェルビーイングにプラスのインパクトを与えるという点で本質的な価値があることをエビデンスが示唆している。データが示すように、文化に関わる（足を運ぶ、出席する、参加する）ことで、人生の総合的な満足度は著しく上昇する³⁾。

文化の社会的価値

文化には、健康、教育、コミュニティの結束という点で重要な社会的便益がある。

芸術が心身の健康に有益な効果を及ぼすことを示すエビデンスは多数存在する。そのような改善効果の例としては、臨床的成果としての生理的ならびに心理的な好転、入院期間の短縮、精神衛生の向上などがある⁴⁾。

エビデンスが明らかにしているように、若者は文化に関わると、継続教育及び高等教育に進む可能性が高くなる⁵⁾。ある調査で、16～18歳のときに芸術に関わった若者と文化遺産または図書館を訪れた若者はその後、継続教育に進む可能性が高いことが明らかになった⁶⁾。

文化と学歴の間に明白な関係性があることを示す様々なデータが存在する⁷⁾。

文化への参加が、社会的な関係やコミュニティの結束に寄与し、コミュニティの安全性と力強さに対する印象を高める可能性があることを示すエビデンスも存在する。調査によって判明しているように、文化への参加と、さらに広いコミュニティへのエンゲージメント及び社会的スキルの向上との間にはプラスの関係があり、文化が防犯に役立つ可能性があるというエビデンスも存在する⁸⁾。

【脚注】

3) 収入、性別、年齢、居住地などのその他の要因をコントロールした上でのデータ。https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/304899/Quantifying_and_valuing_the_wellbeing_impacts_of_sport_and_culture.pdf

4) https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/416279/

A_review_of_the_Social_Impacts_of_Culture_and_Sport.pdf

5) 継続教育へ進む可能性が非常に高いと回答する16～18歳の割合は、芸術への参加に伴い14%増加した。https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/304896/Quantifying_the_Social_Impacts_of_Culture_and_Sport.pdf

6) https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/446273/Health_and_educational_benefits_of_sport_and_culture.pdf

7) <http://eprints.qut.edu.au/69164/1/69164.pdf> (https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/416279/A_review_of_the_Social_Impacts_of_Culture_and_Sport.pdfで引用)

8) 調査研究により、文化への参加と社会的な包摂の間のプラスの関係が明らかになっている。https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/416279/A_review_of_the_Social_Impacts_of_Culture_and_Sport.pdf

p.16

【左上囲み】

54億ポンド

2014年、博物館・美術館、ギャラリー、図書館、芸術の経済貢献額は54億ポンドであった⁹⁾。

【本文】

文化の経済的価値

2014年、博物館・美術館、ギャラリー、図書館、芸術の経済貢献額は54億ポンドであった⁹⁾。これは、英国経済全体の0.3%に相当する。2010年比の成長率は59%（名目値）で、同期間の経済全体の成長率が16%（名目値）であることに比べると、著しく増加している。

文化遺産観光は国内総生産（GDP）の2%を占め¹⁰⁾、年間260億ポンドの貢献をしている。

文化及びクリエイティブ・セクターの雇用者数は2011年から増加の一途をたどり、現時点で32万1,000人に達している。

【写真キャプション】

「ダンスシンドローム（DanceSyndrome）」創設者のジェン・ブラックウェル（Jen Blackwell）

【図：始まり】

図3：2008～14年の文化の価値（粗付加価値 [GVA]、単位：100万ポンド、名目値¹¹⁾）

GVA（単位：100万ポンド）

図4：2011年以降の文化セクターにおける雇用者数（音楽、実演・視覚芸術、博物館・美術館、ギャラリー、図書館）¹²⁾

【図：終わり】

【脚注】

9) 『文化・メディア・スポーツ省クリエイティブ産業経済評価（DCMS Creative Industries Economic Estimates）』：<https://www.gov.uk/government/statistics/creative-industries-economic-estimates-january-2016>

10) 観光・建設を含む。オックスフォード・エコノミクス（2013年）による『英国の文化遺産観光経済がもたらす経済的インパクト（The Economic Impact of UK Heritage Tourism Economy）』（<https://www.hlf.org.uk/economic-impact-uk-heritage-tourism-economy>）を使用して計算。

11) 『DCMSクリエイティブ産業経済評価』：<https://www.gov.uk/government/statistics/creative-industries-economic-estimates-january-2016>

12) 『DCMSクリエイティブ産業経済評価』：<https://www.gov.uk/government/statistics/creative-industries-economic-estimates-january-2016>

p.17

英国の文化が世界中できわめて好意的に受け止められているという事実は、文化の経済的な貢献を、文化が直接もたらすインパクト以上に拡大させている。このことが明白なのは、観光の分野である。ブリティッシュ・カウンシルによる調査が明らかにしているように、観光地としての英国の魅力を形成する要因として最も票を得ているのは、文化的な見どころなのである。同時に、芸術の得票率は第3位となっている。

英国は、ポートランド社による2015年の「ソフト・パワー30（Soft Power 30）」指数¹³⁾と、政府研究所（Institute for Government）とモノクル誌が2012年に実施したソフト・パワーに関する調査¹⁴⁾の両方で首位を獲得している。

【写真キャプション】

映画『007 スペクター』、ロリー・キニア（Rory Kinnear）、ベン・ウィショー（Ben Wishaw）、ダニエル・クレイグ（Daniel Craig）

【図：始まり】

図5：英国の魅力を形成する要因¹⁵⁾

文化と史跡
都市
田園地帯と風景
芸術
歴史
人
言語
安全で治安が良いとの評判
教育制度・機関
経済・ビジネス環境
科学技術とインフラ
社会・政治制度
気候
科学、研究、イノベーション力
ブランド、製品、サービス
スポーツチーム、スポーツイベント、スポーツ成績
現在・過去の政府の行動
上記以外

【図：終わり】

【脚注】

13) <http://softpower30.portland-communications.com/ranking>

14) <http://www.instituteforgovernment.org.uk/publications/new-persuaders-iii>

15) ブリティッシュ・カウンシル：<https://www>

britishcouncil.org/sites/default/files/as-others-see-us-report.pdf

p.18

1
人生の出発点がどのようなものであろうとも、あらゆる人が、文化が提供する機会を享受できるようにしなければならない

【写真キャプション】

ストップギャップ・ダンスカンパニーの舞台『アーティフィシャル・シングス (Artificial Things)』

p.19

芸術によって人生がいかに豊かになり得るかを知る機会を、ありとあらゆる若者に持ってもらいたい。文化教育へのアクセスは、社会正義上の問題である。

ニッキー・モーガン (Nicky Morgan) 下院議員
教育大臣

【右下囲み】

本章では、生涯にわたり文化的な体験をすることの重要性と、そうした体験を誰もが、生まれにかかわらずできるような状況をどう実現すべきかを説明する。政府は、アクセスと機会を拡大するための方策を整備していく。

p.20

【左上囲み】

我が国の文化は素晴らしい機会の源泉であると、政府は考えている。それは刺激を受け、体験し、コミュニケーションを取り、人生の可能性を高める機会のことである。

【本文】

このような機会は誰もが、人生の出発点のいかにかわかわらず、得られるべきである。そうした機会を万人が得られるようになって初めて、我々は人材という、我が国のかけがえのない資源のひとつを最大限に活用していると確信できるのだ。

我が国のあらゆる文化セクター、すなわち、各種芸術、博物館・美術館及びギャラリー、図書館、アーカイブ、文化遺産の全体にわたり、国民の参加度を高めたい。

特に、多くの文化的機会がもたらす恩恵を現時点で享受していないコミュニティでの参加度を向上させたい。具体的には、子育て世帯と、恵まれない境遇にある社会的孤立者を想定している。

文化への参加度は、社会経済的に下位の階層で生まれ育った人々のほうが有意に低い傾向にある。

キャリアパスがよりよいものになること、各文化セクターが多様性を受け入れ、その恩恵を享受すること、科学技術がもたらす機会への取り組みが全力でなされることを望んでいる。

これを実現するには、強力なリーダーシップと、各文化セクター間を横断した連携を向上させることが必要である。

【図：始まり】

図6：社会経済的集団別の活動参加度（『テイキング・パート (Taking Part)』より）¹⁶⁾

(凡例)

社会経済的上位層
社会経済的下位層

芸術

文化遺産
博物館・美術館及びギャラリー
図書館
デジタルでの参加
DCMSセクターへのチャリティによる寄付
ボランティア活動
アーカイブ

【図：終わり】

【脚注】

16) 『テイキング・パート』: https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/495586/Taking_Part_2015-16_Quarter_2_Report_2.pdf

p.21

1.1

文化は、学校の内外において、あらゆる子供の教育に欠かせない要素であるべきである

政府は、人と文化との生涯にわたる関係が、幼少時から始まるべきであることを理解している。

国費で賄われているすべての学校は、生徒の精神的、倫理的、文化的、知的、身体的な成長を促すような幅広くバランスの取れたカリキュラムを提供しなければならない。文化を体験し、理解することは、教育に不可欠である。素晴らしい芸術作品、音楽、文学、演劇、そしてその作者について知ることは、あらゆる子供の教育の重要な一部をなす。楽器演奏や図画工作、ダンス、演技を教わることも然りである。これらはいずれも、生涯にわたる情熱の対象となる可能性があり、文化セクター、クリエイティブ・セクターその他のキャリアへの扉を開く可能性もある。生育環境に恵まれない子供たちの多くは、こうした知識とこれらのスキルがないために、自分たちの文化や文化遺産との有意義な関わりから排除されている。

国のカリキュラムは、生徒が美術・デザイン、音楽、演劇、ダンス、設計・技術を学ぶことを求めている。これらの科目では、新たにゴールド・スタンダード中等教育修了一般資格試験 (GCSE) と大学入学資格Aレベル (上級) 試験が導入された。教育水準局 (Ofsted) の検査官は、芸術、音楽、スポーツその他の文化的な機会に対する生徒の参加意欲など、生徒の文化的な成長に配慮している。検査官は学校に対し、様々な芸術活動、クリエイティブ活動、スポーツ活動における生徒の知識、理解、スキルを広げるような、幅広くバランスの取れたカリキュラムとカリキュラム外の機会を提供することを期待している。

政府が支援する「アーツマーク (Artsmark)」は、優れた芸術教育を提供する学校を認定する制度である。これまでに認定を受けた学校は1,700校を超え、現時点で1,200校以上が

認定取得を目指している。

【中央囲み】

正規教育は、質の良い文化的体験によって補完されるべきである。

【本文】

正規教育は、質の良い文化的体験によって補完されるべきである。政府は2012年、123のミュージック・エデュケーション・ハブ (Music Education Hub) から構成される全国的ネットワークを設立した。このネットワークは、地域における音楽教育の改善を目的とした新たなパートナーシップである。その他の音楽教育支援スキームとしては、画期的プログラム「イン・ハーモニー (In Harmony)」、「ミュージック・フォー・ユース (Music for Youth)」、ナショナル・ユース・ミュージック (National Youth Music) 諸団体などが挙げられる。政府はほかに、ダンスやミュージカルを上演する国立のユースカンパニーや、ヒストリック・イングランドが運営するプログラム「ヘリテージ・スクールズ (Heritage Schools)」も助成している。後者は、子供たちが地元の遺跡や建物、記念建造物を通じて地域の歴史に触れることを促すプログラムである。政府はまた、ソレル財団 (Sorrell Foundation) による「ナショナル・アート&デザイン・サタデー・クラブ (National Art&Design Saturday Club)」も支援している。このクラブは14~16歳を対象に、英国全土の47の町・都市の高等教育機関で美術とデザインを無料で学ぶ機会を提供している。これは、博物館・美術館で実施されている公的助成を受けた様々な教育イニシアチブを補完するものである。

【写真キャプション】

ナショナル・ユース・ミュージック・シアター

p.22

クロア・ダフィールド財団 (Clare Duffield Foundation) は、全国の博物館・美術館、ギャラリーや、地域の建築遺産に設けられた学習スペースを支援している。

政府はアーツカウンシル・イングランドを通じて、学校と文化芸術遺産団体の仲介役を担う団体「ブリッジ (Bridge)」のネットワークに出資してきた。これらの団体は教員と連携して「文化教育における専門家リーダー (Specialist Leaders in Cultural Education : SLiCE)」プログラムを運営することで、学校における文化教育の発展を目指している。

アーツカウンシル・イングランドによる「文化教育チャレンジ (Cultural Education Challenge)」は、「文化教育パートナーシップ (Cultural Education Partnership)」の全国的なネットワークの設立を通じて、文化教育の実施のあり方を変えることを目的としている。

【左中囲み】

ほとんどの文化団体及び文化遺産団体は現在、幅広い教育イニシアチブを提供している。

【本文】

ほとんどの文化団体及び文化遺産団体は現在、幅広い教育イニシアチブを提供している。アーツカウンシル・イングランドと文化遺産宝くじ基金が支援する団体の大部分は、子供や若者に焦点を当てているが、子育て世帯が地域の文化団体、とりわけ図書館に接するきっかけを作るには、「ファミ

リー・アーツ・フェスティバル (Family Arts Festival)」や「サマー・リーディング・チャレンジ」のようなスキームがきわめて重要である。多くの親をはじめ、毎年何千人もの成人が、文化的なテーマの成人教育講座に参加している。そうした講座は、英国のボランティアセクターで最大の成人教育提供者である英国労働者教育協会 (Workers' Educational Association : WEA) とそのパートナーなどの提供者によって、全国のコミュニティスペースで開催されている。

ロンドンでは、「市長音楽基金 (Mayor's Music Fund)」が何千人もの子供や若者を支援している。同基金では、子供や若者の音楽的才能を伸ばすべく、奨学金と、プロの音楽家から指導を受け、彼らと共に演奏する機会を提供している。

政府は、アーツカウンシル・イングランドの「ミュージアムズ・アンド・スクールズ・プログラム (Museums and Schools Programme)」を通じて、エンゲージメントが平均よりも低い地域で質の良い校外見学ツアーを増やしつつある。文化的な志を持つ若者は、アーツカウンシル・イングランドが支援する「アーツ・アワード (Arts Award)」や、様々な芸術分野の専門的な等級試験を通じて、その情熱をさらに一歩先へ進めることもできる。

政府は、上質な文化的機会を子供や若者に提供するために必要とされる要素の多くはすでに存在すると考えているが、提供のネットワークは依然としてムラがあり、最も恵まれない環境で生まれ育った人々に対しては不利な地理・社会的障壁が立ちほだかっている。

我々は、現時点で最も冷遇されている人々に対し、さらに明確に焦点を絞る必要がある。

首相は、人生の可能性について語った2016年1月の演説で、新たな文化的市民プログラムを進展させることを約束した。

多くの人にとって、劇場へ足を運ぶことや展覧会を鑑賞することは家庭生活の一部としてごく自然な行為であり、克服すべき障壁はほとんど存在しない。しかし、生育環境に恵まれない人々にとって、そうした機会は容易に手に入るものではない。

【写真キャプション】

ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーによるRSCワークショップ

p.23

どんなバックグラウンド (生育環境・素性・家柄など) であろうとも、誰もが文化を体験する機会を持てるようにしたい。文化は様々な扉を開き、社会的流動性を高め、人生の可能性に多大なインパクトを与えるからである。

政府は、公的資金を受け取っているすべての博物館・美術館、劇場、ギャラリー、オペラ劇場その他の芸術団体に対し、バックグラウンドや学歴、居住地のいかにかわからず、あらゆる人に手を差し伸べることを期待している。

我々は文化芸術団体に対し、社会的に最も恵まれない人々が文化にアクセスする機会を確実に増やすための取り組みを、さらに強化するように促している。また、アーツカウンシル・イングランドと連携して、国民の血税を受け取っているすべての文化団体が、この義務を確実にやり遂げるように働

きかけて行く。そして、それらの団体は、進展について報告を行うこととする。

また、芸術への関与が最も低く、なおかつ貧困度が最も高いレベルであることが分かっている複数の地域において、新たなプログラムを立ち上げる予定である。2016年9月から、アーツカウンシル・イングランドは様々な文化機関と連携して、生育環境に恵まれない若者に積極的に働きかけ、幅広い文化芸術的体験に関与させる予定である。このスキームに参加する若者は、我が国の文化芸術団体が誇る世界一流の活動にどっぷりと浸り、それを形にする人々と出会うことになる。そして、その体験に刺激を受けて、自ら周囲に刺激を与えたいと思うようになるだろう。

このプログラムは、3つの地域で試験的に実施され、成功すれば、以後3年間で拡大展開される予定である。3年目が終了する頃には、全国の最大70の地域で運営され、毎年1万4,000人の若者の参加が得られる見込みである。

【中央上囲み】

25億ポンド

政府は毎年、児童特別給付を通じて約25億ポンドの追加助成を行っている。

【本文】

政府は毎年、児童特別給付 (Pupil Premium) を通じて約25億ポンドの追加助成を行うことで、最も恵まれない生徒たちの教育水準向上に取り組む学校を支援している。多くの学校がすでに児童特別給付を利用して、生徒の文化的体験の幅を広げようとしている。我々は、より多くの学校が児童特別給付を利用するよう促し、我々が共有する文化や文化遺産に対する恵まれない生徒たちの知識を高めることを目指す。我々は王立技芸協会 (RSA) と連携して、恵まれない生徒たちの学力を向上させる手段としての文化教育を推進する予定である。

今年、政府は文化を、権威ある「児童特別給付アワード (Pupil Premium Award)」各賞の中心に据えた。これらの賞は、恵まれない生徒たちの学力を高めることに成果を上げた学校を表彰するものである。今後は、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーやRSA、アーツカウンシル・イングランドの助成を受けた「ブリッジ」諸団体をはじめとする20以上の団体が、オーダーメイドのワークショップ、展覧会、見学ツアー、講演などの賞品を提供することで、生徒たちを教育・刺激することを目指す。我々は受賞校と連携して、これらの賞がもたらした影響を調べ、文化的な体験とエンゲージメントの便益を全国の学校に対して強調していく予定である。

【右下囲み】

我々が実行すること

新規の文化的市民プログラムを発足させ、宝くじ収益金分配機関 (Lottery distributor) の協力のもと、生育環境に恵まれない多くの若者のために新たな文化的機会を創出する。

RSAと連携して、学校による児童特別給付の利用を促し、恵まれない生徒たちの学力を向上させる手段としての文化教育を推進する。

児童特別給付アワードを利用して、恵まれない生徒に文化教育がもたらす便益を強調する。

p.24

1.2

才能の芽を持つ者に対し、スキル開発へのアクセスを改善し、進路を明確化すべきである

我が国の文化セクターとクリエイティブ産業は、才能を必要としている。これは、優れた実演技術と同様に、コンサベーション (文化財の保存・修復) のようなスキルについても言えることである。文化教育は、才能が表出する初期の機会をもたらすが、その才能の育成も、より明確な経路によって支援されなければならない。

劇場から文化遺産に至るまでの多くの文化団体はすでに、訓練やキャリア開発を提供するか、それらを専門的に扱っている。また、高等教育セクターとの新たな関係が生まれつつあり、文化スペースが学習の場となるケースも見られる。

政府の「音楽・ダンス制度 (Music and Dance Scheme)」と「ダンス・演劇奨学金制度 (Dance and Drama Awards Scheme)」は、資力調査に基づく支援を行うことで、才能ある青少年が生育環境のいかにかわかわらず、音楽、ダンス、演技の道で成功するために必要な世界一流の訓練を受けられることを確かなものとしている。

政府はまた、英国映画協会のフィルム・アカデミー (Film Academy) も支援している。同アカデミーでは、映画産業で求められる幅広いスキルの専門的訓練を実施している。

我々は、文化セクターにおける技術者と実演者双方のスキルとキャリアのために、連携の取れた明確な進路の存在を、確かなものにする必要がある。

文化セクターへの進路の定義・案内・支援は、特に、生育環境に恵まれない若者のために改善される必要がある。文化セクターへの就職は財力によって制限されるという認識を払拭せねばならない。現在、クリエイティブ経済の雇用者数は、社会経済的に恵まれた環境で生まれ育った人々のほうが極端に多い状態にある。

我々は低所得世帯及び参入率が低いグループの人々が、芸術の分野でプロになるのを妨げる壁が何なのか把握するために、アーツカウンシル・イングランドと連携していく。

アーツカウンシル・イングランドのブリッジ団体とともに、人々に刺激を与えるような人物を様々な文化セクターから選び、それらの人物に対し、学校を訪問して生徒たちに体験談を語るよう促す予定である。その目的は、若者を刺激して、自分も文化セクターで働くことを検討したいと思わせることである。

より多くの若者に対し、文化セクターの技術職に必要とされるスキルと知識を獲得するための支援を行いたいと考えている。そこで、技術職・専門職教育の改革に向けた計画の策定を進めている最中であり、セインズベリー卿 (Lord Sainsbury) が委員長を務める独立委員会 (Independent Panel) と緊密に連携して、より多くの人々に特殊技能職への就職支援を行うことのできるような、少数の技術・専門職雇用ルートを生み出す方法を検討している。

【図：始まり】

図7：クリエイティブ経済における社会経済分類別の雇用者

数¹⁷⁾

(凡例)

恵まれた層
恵まれない層
【図：終わり】

【脚注】

17) 政府によるクリエイティブ産業経済評価が明らかにしているように、クリエイティブ経済圏で働く人々の大多数は恵まれた生育環境の出身者である。2014年、恵まれた社会経済的集団に属する人々がクリエイティブ経済の雇用者全体に占める割合は91.9%にのぼった。『DCMSクリエイティブ産業経済評価』を参照：<https://www.gov.uk/government/statistics/creative-industries-economic-estimates-january-2016>

p.25

エセックス州パーフリートのバックステージ・センター (Backstage Centre) を拠点とする国立クリエイティブ・文化産業カレッジ (National College for Creative and Cultural Industries) は今秋、学生の受け入れを開始する予定である。同校では、照明、リギング、製作といった、オフステージやバックステージでのスキルに対する需要に対応し、職業実習制度 (アプレンティスシップ) と新たな専門ディプロマを通じて、文化セクターに就職するための的確かつ柔軟なルートを提供する。同校の管理は、ライブ・ネーション社、ロイヤル・オペラ・ハウス、ホワイト・ライト (White Light) 社、英国劇場技術者協会 (Association of British Theatre Technicians) などの雇用主・産業団体によるコンソーシアムの代理として、クリエイティブ&カルチュラル・スキルズ (Creative & Cultural Skills) が行う。

文化遺産宝くじ基金は、より多様な働き手を文化遺産の分野に新たに呼び込むことに特に焦点を絞って、同基金によるプログラム「スキルズ・フォー・ザ・フューチャー (Skills for the Future)」に1,000万ポンドの追加出資を行う予定である。

政府は、職業実習制度がスキル習得の優れた方法の一つであると確信している。このことは、文化及びクリエイティブ・セクター特有のニーズに特に当てはまる。

【左下囲み】

政府は、職業実習生を2020年までに300万人に増やすことを約束している。

【本文】

政府は新たな職業実習賦課金を財源として、職業実習生を2020年までに300万人に増やすことを約束している。すべての大手文化団体は職業実習生を受け入れる予定である。

ヒストリック・イングランドは、文化遺産分野の職業実習制度を独自に創設し、最もニーズが大きい諸領域に対応することで、文化遺産宝くじ基金の「スキルズ・フォー・ザ・フューチャー」と、教会保存トラスト (Churches Conservation Trust) が伝統建築物関連のスキルに対して行っている出資を補う予定である。

我々は、アーツカウンシル・イングランドとヒストリック・イングランドに対し、それぞれのパートナーと連携して、職

業実習制度の基準をいかに適用するのが最善か検討するよう求める予定である。

【写真キャプション】

クリエイティブ&カルチュラル・スキルズ

【右下囲み】

我々が実行すること

低所得世帯及び参加率が低いグループの人々が、芸術の分野でプロになるのを妨げる壁が何なのか把握するために、アーツカウンシル・イングランドと連携していく。

アーツカウンシル・イングランドとヒストリック・イングランドに対し、文化団体が職業実習制度を最大限に活用し、スキル開発とキャリア選択を支援できるようにサポートする戦略の策定を求める。

p.26

1.3

公的助成を受ける文化は、我が国の多様性を反映すべきである

政府は、文化セクターの芸術的才能、労働力、オーディエンスが我が国の多様性に富んだ社会を象徴することを、セクターに期待している。

多様性は成功に不可欠である。真に多様性に富んだ文化セクターとは、我が国の才能に秀でたあらゆる人材を活用し、自らを奮い立てて活性化させ、オーディエンスを増加させるものである。マイノリティ出身の若者や障害を持つ若者は、そうしたセクターこそ自分の居場所であり、自分が働ける業界であると確信することだろう。

多様性の拡大は、長年にわたる課題のひとつである。文化セクターにおけるジェンダーバランスとLGBT参加率への取り組みに関しては進展があったと言えるが、依然として改善の余地はある。多様性に関する数値は全体的に、国の平均値を反映するものとはなっていない。

アクト・フォー・チェンジ (Act for Change) のようなキャンペーン団体は、演劇学校への入学から舞台への出演、演出家から舞台裏で働く人々に至るまで、演劇分野のあらゆるレベルで多様性が欠如していることを浮き彫りにしてきた。音楽家のチチ・ワノク (Chi-chi Nwanoku) が設立した「チネケ! 財団 (Chineke! Foundation)」は、我が国のクラシックオーケストラ分野における同様の問題に焦点を絞っている。同財団は、欧州全土から優れた音楽家を集め、欧州初の黒人のみによるオーケストラを結成している。

我々は、黒人及びエスニック・マイノリティ (Black and Minority Ethnic, BME) と障害者が文化セクターへ参加するための経路を明確化したいと考えている。

多くの文化団体が現在、ようやく行動を起こしつつある。政府は改善に向けた戦略に関して放送事業者と連携を取っているが、英国映画協会は独自の方策を整備している。

アーツカウンシル・イングランドは最近、アプローチを大幅に転換し、「ザ・クリエイティブ・ケース・フォー・ダイバーシティ (The Creative Case for Diversity)」を発表した。

これは、アーツカウンシル・イングランドの助成を受ける団体に対し、団体自体とその活動を、それぞれが奉仕するコミュニティの多様性をより反映したものにするを求める取り組みである。この取り組みの進展は、将来の助成に影響を及ぼすことになるだろう。

アーツカウンシル・イングランドはまた、文化セクターにおける障害を持つ者の体験に対する理解を深めるような新たな調査を外部委託により実施する予定である。この調査によって、障害を持つ働き手が特に少ない文化セクターで、その人数を増やすための解決策が明らかになるだろう。

【写真キャプション】

チネケ！財団

p.27

政府は、劇場その他の芸術イベント会場向けに字幕及びリアルタイム字幕を制作する「ステージテキスト (Stagetext)」と、音声解説を手掛ける全国的チャリティ団体「ボーカルアイズ (VocalEyes)」が提供するサービスを、さらに広く普及させたいと考えている。我々はまた、引き続き文化セクターと連携して、イベント会場への物理的アクセスの改善を目指す予定である。

ただし、リーダー層が変革の持続にコミットしなければ、真に多様性に富んだ文化セクターが実現することはないであろう。文化団体の最上位層で働いているBMEや障害を持つ者はあまりに少ない。

【左中囲み】

文化セクターと引き続き連携して、イベント会場への物理的アクセスの改善を目指す予定である。

【本文】

アーツカウンシル・イングランドは2016年から、助成する団体の代表責任者 (Chief Executives)、芸術監督 (Artistic Director)、会長 (Chair) の多様性の状況を調査し、リーダー層に関するデータを発表する予定である。

ボランティア活動は、年齢や生育環境、立場を問わず、あらゆる人々が文化的活動に参加し、文化団体の活動を支援することのできる方法のひとつである。政府は、文化セクターに限らず、ボランティア活動や社会貢献活動に参加する人々を増やしたいと考えている。我々は、アーツカウンシル・イングランド、ヒストリック・イングランドその他の公的助成を受けた文化団体と連携して、文化セクターにおけるボランティア機会の拡大を促す予定である。

【図：始まり】

図8：人種別の活動参加度 (『テイキング・パート』より)¹⁸⁾

(凡例)

白人

BME

芸術

文化遺産

博物館・美術館及びギャラリー

図書館

デジタル参加

DCMSセクターへのチャリティ寄付

ボランティア活動

アーカイブ

【図：終わり】

【右下囲み】

我々が実行すること

アーツカウンシル・イングランド、ヒストリック・イングランド、国立の博物館・美術館及びギャラリーに対し、リーダー層における多様性の欠如という各種文化セクター共通の問題に取り組むための戦略を策定・共有することと、その取り組みの成果を定期的に報告することを求める。

BME及び障害を持つ者が文化セクターに参入するための経路を、より容易なものとするためのネットワークの役割について検討する。

文化遺産セクターに対し、文化遺産宝くじ基金によるプログラム「ヤング・ルーツ (Young Roots)」のような成功したプログラムの実績を踏まえて、若者が正規の教育環境以外で文化遺産を鑑賞・学習したり、文化遺産関連の社会貢献活動を主導したりする機会を増やすことを求める。

【脚注】

18) 『テイキング・パート』: https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/495586/Taking_Part_2015-16_Quarter_2_Report_2.pdf

p.28

2

我が国の文化の豊かさは、その恩恵を国中のコミュニティにもたらすものでなければならない

【写真キャプション】

ダービー・シアターで上演された『オデュッセイア』

p.29

我々は地方分権革命の真っ只中にいる。国と地域の文化機関には、一致団結して様々な場所を支援し、文化の力を利用して経済成長、教育、ウェルビーイングの水準を押し上げることを目指してもらいたい。

グレッグ・クラーク (Greg Clark) 下院議員

コミュニティ・地方自治大臣

【右下囲み】

本章では、文化がいかに国内のあらゆる地域のアイデンティティに欠かせない要素であり、場を変容させる可能性があるのかを説明する。文化を中心に据えた場づくりに向けて、より多くのパートナーシップが全国・地域レベル間で形成されることを望んでいる。

p.30

【左上囲み】

文化は、地域レベルで深く根付いたものであり、我が国のコミュニティの豊かな多様性を拠り所とし、反映するものである。

【左下囲み】

ロンドンと各地域間で助成のバランスを最適化することには、引き続き注意を払う必要がある。

【本文】

文化的な場づくりには、我が国の地域、都市、町村の命運を左右する力がある。

我々はハルにおいて、文化投資がハルという都市の自信の向上にいかにか寄与しているのかを目の当たりにしてきた。「英国文化都市 2017 (UK City of Culture)」に選ばれたハルは現在、ラフ・ガイド社の「世界の訪れるべき都市トップ 10」にランク入りしている。ハルが新たなビジネスや雇用を引き寄せていることは偶然ではない。「英国文化都市」としての指定が地域経済にもたらす効果は、2017年には約 6,000 万ポンドにのぼると見込まれている。

これは、直近の一例にすぎない。歴史的に見て、ロンドンのクリエイティブ面と経済面の成功は、芸術、劇場、文化遺産、博物館・美術館の力に負うところが大きい。しかし、マーゲートからリバプールに至るまでのロンドン以外の多くの町や都市もまた、強力な文化的オファーがもたらす便益を理解している。

こうした便益をさらに拡大させ、より多くの場所へ波及させたいと考えている。

ロンドンと各地域間で助成のバランスを最適化することには、引き続き注意を払う必要がある。アーツカウンシル・イングランドは、ロンドン以外の地域の文化を支援することに注力している。ロンドン以外の地域の団体に割り当てられる助成金の割合を増やし続けており、その宝くじ基金の助成金の割合を 2018 年までに 75% に増やすことを約束している。アーツカウンシル・イングランドは、助成金を提供するばかりでなく、戦略的な開発活動も実施することで、イングランド全土の各種文化セクターを支援している。宝くじ基金の助成をはじめとする公的助成が、あらゆる場所の文化芸術的なアンビションを支援する形で割り当てられることは重要である。

【右上囲み】

6,000 万ポンド

「英国文化都市」としての指定が地域経済にもたらす効果は、2017年には約 6,000 万ポンドにのぼると見込まれる。

【本文】

我が国のコミュニティはそれぞれ、景観と建築、伝統と行事、アルティザンとアーティストなどの独自の組み合わせによって形づくられてきた。地域のリーダーのより多くが、それぞれのコミュニティのビジョンを実現し得る文化のポテンシャルを理解し、文化を戦略の中心に据えることを望んでいる。

アーツカウンシル・イングランドは、地方自治協会 (Local Government Association) とパートナーシップを組み、文化リーダーシップ要件プログラム (Culture Leadership Essentials Programme) や図書館リーダーシップ (Libraries Leadership) セミナー、ピア・レビューを通じて、地方自治体で転換的変革を指揮する 150 人以上の文化ポートフォリオ・ホルダーを支援してきた。

公共図書館は、我が国の地域のコミュニティを構成する重要

な要素のひとつである。政府と地方自治体協会は 2015 年、図書館リーダーシップ・タスクフォース (Leadership for Libraries Taskforce) を設立した。その目的は、イングランドの公共図書館サービス全体のコラボレーション、ベストプラクティス、人材開発を支援することである。

p.31

【写真キャプション】

セージ・ゲーツヘッド

【本文】

リーダーシップと同時に、パートナーシップも必要である。ハルの成功は、地域と国の助成機関、さらに官民セクターのパートナーシップに負うところが大きい。

「英国文化都市」と「欧州文化首都 (European Capital of Culture programmes)」の両プログラムは、英国のあらゆる国のあらゆる都市に開かれている。どちらのプログラムも、ほかにはない新たな文化投資の機会をもたらすことで、新規オーディエンスを引き寄せ、我が国の文化の最も優れた部分を紹介している。

イングランドにおける政府の地方分権構想によって、地域のより多くの人々は、それぞれのコミュニティの未来を形づくる権限を与えられることになるだろう。我々は、我が国の文化機関と助成機関——官民及びチャリティ・セクターの——が協力して、地域のリーダーや地方自治体、地元企業、地域のコミュニティ、文化団体その他のビジョンを後押しすることを望んでいる。国による助成も、その一助となり得る。

多くの地域ではすでに、このような取り組みが進められている。イングランド北部では、新規の文化的なプログラムやパートナーシップが、リバプール、マンチェスター、ティーズバレーにおいて発足しつつある。

政府は、科学技術とデジタルインフラの向上とが、コミュニティ同士を結び、コミュニティが暮らしやすく働きやすい場所であると保証するのに、極めて重要な役割を果たすと確信している。科学技術によって、文化団体とそのパートナーは両者間のコラボレーションを改善できるようになり、より多くのオーディエンスに接触しやすくなるだろう。さらに、デジタル体験はそれ自体が、ユビキタス (遍在的) な「場所」となりつつあり、文化へのアクセスを誰もがどこからでも可能なものへと変貌させる可能性を秘めている。

【右上囲み】

図書館タスクフォース

図書館リーダーシップ・タスクフォースは、イングランドの公共図書館サービスを支援・活性化するための方策の整備に取り組んでいる。政府は現在、同タスクフォースと連携して、イングランドの全公共図書館に共通するビジョンの策定を進めている。このビジョンは、サービスの方向性と目的を定めるために、既存の優れた慣行を強調するとともに、図書館を支援するための協働的なアンビションを示すものとなる。これには、文化へのアクセス及びエンゲージメント、識字能力及び学習、デジタル・リテラシー、経済成長、健康及びウェルビーイング、コミュニティの結束を支援することなどが盛り込まれる予定である。

上：ペッカム図書館

p.32

2.1

より強固で健全なコミュニティを構築し、経済成長を後押しする上で、文化が担う役割を拡大させる

文化は、地域のコミュニティにおけるより良い生活の質とウェルビーイングを提供することによって、大いなる恩恵をもたらす。

我々はコミュニティに対し、ウェルビーイング、再生、経済成長のための各々の計画の中心に文化を据える方法の検討を望んでいる。

「ノーザン・パワーハウス (Northern Powerhouse)」に対する政府の支援は、イングランド北部の大都市と農村部を結束させるための助けになっており、輸送リンクとビジネスインフラの改善を通して経済発展を後押ししている。この地域が持つ文化的魅力は、新たな投資を呼ぶ主な要因のひとつとなるだろう。政府はこれを支えるために、例えば、マンチェスターの文化施設「ファクトリー (Factory)」に対して大規模な資本投資を行うとともに、2018年に新たに開催される、イングランド北部の文化や科学技術、イノベーション、デザインを紹介する「グレート・エキシビション・オブ・ザ・ノース (Great Exhibition of the North)」に出資している。

2016年度予算において、財務大臣は「ノーザン・パワーハウス」へのさらなる出資を発表した。これには、ノーズリーに新設されるシェイクスピア劇場兼教育複合施設に対する500万ポンドと、シェフィールドにおける新たな芸術拠点の開発に向けた100万ポンドの出資が含まれる。

アーツカウンシル・イングランドのクリエイティブ・ローカル・グロース・ファンド (Creative Local Growth Fund) は、様々な文化団体が地域産業パートナー (Local Enterprise Partnership) 及び主要な戦略的機関と協力して地域経済の成長に貢献するための支援を行っている。すでに約400万ポンドが全国の9地域に投じられており、これによって新たに840万ポンド以上の追加的な資金が他の財源からもたらされるものと見込まれている。

我々は2016年、4,000万ポンドのディスカバー・イングランド (Discover England) ファンドを新たに立ち上げる。その目的は、観光客がイングランドの国宝や秘宝に触れやすい環境を作るために、代表的な観光ルートの開発に向けて異なる地域のパートナー同士が連携することを促すことである。我が国の文化は、重要な観光資源のひとつであり、こうした新たな「必見ルート」においても重要な役割を担うことだろう。

文化は、我が国の海岸地域コミュニティの活性化に大きく貢献している。政府による9,000万ポンドの海岸地域コミュニティ再生ファンド (Coastal Communities Fund) は、様々な文化プロジェクトの支援に役立ってきた。文化は、イングランドの118の海岸地域コミュニティ・チーム (Coastal Community Team) によって策定された経済計画の多くにおいて重要な要素として扱われている。これらのチームは、海岸地域の町の成長や雇用、繁栄を後押しするための一助として、地元の人々と地方自治体、企業とをまとめるために設立されたものである。

我が国の国立の博物館・美術館はすでに、建物に関してだけでなく他の博物館・美術館とのコラボレーションに関して、ロンドン以外の地域でのプレゼンスを確立している。ロンドンにある所蔵庫「ブライス・ハウス (Blythe House)」から、政府からの1億5,000万ポンドの資本助成金を元手に退去するという最近の決定は、国有のコレクションへの公共のアクセス向上を目指す、我が国のアンビションを反映するものである。

【右上囲み】

4,000万ポンド

我々は2016年、4,000万ポンドの競争的資金「ディスカバー・イングランド・ファンド」を新たに立ち上げる。

【本文】

我が国の公立博物館・美術館の大半は、親しみやすくアクセスしやすい場所であり、様々なイベントを主催することで、そのコレクションと空間を公益のために利用している。一部の公立博物館・美術館では、ガバナンスと資金調達の仕組みの大幅な変革が進んでいる。公立博物館・美術館が、革新と繁栄を続けられることはきわめて重要である。アーツカウンシル・イングランドによる資金援助のもとで新たに発足した「公立博物館・美術館リーダーシップ・ネットワーク (Civic Museums Leadership Network)」は、博物館・美術館セクターのリーダーたちが、現代の公立博物館・美術館を繁栄させるための戦略を自ら策定するための一助となるだろう。

文化的介入が、医療と介護の結果に心身の健康面でどのような影響を及ぼし、個人とその家族、ひいてはコミュニティの利益になる可能性があるのかについては、多くの良い事例が存在する。例えば、認知症患者を含む高齢者を対象とした文化的活動の便益に関する事例研究と調査プロジェクトは増加しつつある。

臨床委託グループと地方自治体の多くの業務委託者は、医療と介護の結果を改善する上で文化が果たし得る役割に理解を示している。だが我々は、成功例のエビデンスと慣行に対する認知が両コミュニティでさらに広がり、業務委託者と文化セクター間の協力関係がさらに深まるところまで駒を進めたいと考えている。

p.33

アーツカウンシル・イングランドの助成を受け、全国ボランタリー団体協議会 (National Council for Voluntary Organisations) が主導するコンソーシアムによって実施されている「文化事業委託プログラム (Cultural Commissioning Programme)」は、文化団体が公共セクターの業務委託への関わり方を改善できるように手助けをするとともに、公共セクターの業務委託者が文化団体の可能性に対する認識を深め、成果を実現するための支援を行っている。我々は、アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金及びイングランド公衆衛生局と連携して、このプログラムから得た知見を踏まえ、公的助成を受けた文化的なイベントやプログラムが健康に対してプラスの累積的影響を及ぼすことを確かなものとするとともに、「芸術と健康に関する議員連盟 (All-Party Parliamentary Group on Arts and Health)」が来年、芸術・健康政策に関する報告を行う際、その勧告に対応する予定である。

文化的介入が、囚人、前科者及び犯罪に巻き込まれるリスクのある人々にどのような便益をもたらす可能性があるのかに

についても、多くの良い事例が存在する。文化には、自尊心や社会的スキル、ウェルビーイングを高める効果がある。そして、それらはいずれも、犯罪や再犯のリスクを減らし、我が国のコミュニティの安全性を向上させるために役立つ。我々はアーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金その他のパートナーと連携して、犯罪者やリスクを抱えた人々が文化的機会の便益を享受し続けることを確かなものとするつもりである。

【右上囲み】

我々が実行すること

英国文化都市、グレート・エキシビション・オブ・ザ・ノース、ディスカバー・イングランド・ファンドを通じて、文化にはコミュニティを変える力があることを示す。

2021年の次なる「英国文化都市」を発掘するためのコンペを2017年に開催するとともに、2023年の「欧州文化首都」を選出するためのプロセスを開始する。

アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金その他のパートナーと連携して、文化が健康、ウェルビーイング、コミュニティの安全向上にもたらす便益を向上・拡大させる。

【写真キャプション】

ハル市中心部、フリーダム・フェスティバル2015 (Freedom Festival 2015)

p.34

2.2

地域と国のパートナーシップ強化は、場づくりにおける文化の役割を拡大させるために不可欠である。国立の機関に対し、地域のビジョンを後押しすることを求める。

文化セクター間、文化団体間、そして文化セクター及び文化団体とそれのパートナーとの間のコラボレーションを地域、地方、国レベルで向上させれば、我が国のあらゆるコミュニティに文化の便益を十分にもたらすことができるだろう。

一部の場所では、このビジョンがすでに実現しつつある。イングランド北東部文化パートナーシップ (North East Culture Partnership) は、どのようなことを成し遂げられるか、その可能性を示すひな形である。同パートナーシップによる『ケース・フォー・カルチャー (Case for Culture)』は、今後15年間の文化的発展に対する意欲的なビジョンを打ち出したものである。その策定には、地域全体のビジネス、スポーツ、教育、観光、文化面の利益を代表する1,000以上の個人と団体が、12の地方自治体と5つの大学とともに寄与している。

政府は、同様の戦略が国内全体で策定され、地方自治体の計画と政策に組み込まれることを望んでいる。

文化戦略は、幅広いステークホルダーを巻き込み、意欲的、長期的で、持続可能なものであるべきである。

効果的なパートナーシップとは、文化的な団体、スキル、リーダーシップ及び知識を、国及び地域レベルの様々なパートナーと結び付けるものである。

地域レベルのパートナーとしては、以下が考えられる。

— 地方自治体：依然として最大の文化助成機関であり、地域のニーズに最も密接に対応している

— 地域産業パートナーシップ (Local Enterprise Partnership)：一部はすでに、観光、文化遺産及びクリエイティブ産業をその戦略の中心に据えている

— 地域の医療・介護業務委託者：文化が健康・福利に及ぼす有益な効果への関心を高めている

— 警察及び地域安全パートナーシップ (community safety partnership)：文化が行動にどのようなインパクトを与える可能性があるのかを説明できる

— 大学：重要な博物館・美術館のコレクションを管理するだけでなく、文化の重要な支援者であり、文化遺産保護・保存に関する画期的な調査を実施している

— 国立公園当局ならびに特別自然美観地域 (AONB) パートナーシップ (Area of Outstanding Natural Beauty Partnership) 及びAONB保護委員会 (Area of Outstanding Natural Beauty Conservation Board)：我が国有数の貴重な景観が様々な利用者によって享受されるとともに、後世のために保護されることを確かなものとしている

— 各地のボランティア及びコミュニティ・セクター：トラスト・基金など

【写真キャプション】

スパイク・アソシエーツ・スペース (Spike Associates space)、スパイク・アイランド、ブリストル

p.35

【左下囲み】

文化戦略は、幅広いステークホルダーを巻き込み、意欲的、長期的で、持続可能なものであるべきである。

【本文】

国レベルのパートナーとしては、以下が考えられる。

— 国営宝くじ収益金分配機関 (National Lottery distributor)：文化遺産宝くじ基金、アーツカウンシル・イングランド、大宝くじ基金 (Big Lottery Fund) など。大宝くじ基金による2014年度の助成総額は10億ポンド、そのうち95.6%は地域の文化団体を含むボランティア及びコミュニティ・セクターに対する助成金である

— ヒストリック・イングランド及びデザイン・カウンシル：ヒストリック・イングランドは、歴史環境の保護・管理方法に関する専門的な助言と、一般の人々がそれらの環境を利用・享受するための支援を行っている。デザイン・カウンシルは、人々がデザインを理解し、デザインを自らの戦略の一部として利用するための支援を行っている

— 国立の博物館・美術館：各地域で確立したプレゼンスをさらに拡大させることを目指している

— 全国的な芸術団体：我々はツアー公演や教育プログラムを通じて、これらの団体が国内全体に及ぼすインパクトを増

大きせたいと考えている

—全国的な文化遺産団体：イングリッシュ・ヘリテージ (English Heritage)、ナショナル・トラスト (The National Trust)、歴史住宅協会 (Historic Houses Association)、ランドマーク・トラスト (Landmark Trust) などが、我が国屈指の美しい景観や愛される建物の多くを管理している

我々は、宝くじ基金分配機関及び全国的な文化団体と連携して、新たに「グレート・プレース」スキームを立ち上げる予定である。このスキームは当初、12の地域で試験的に実施され、そのうち少なくとも4か所は農村地域である。このスキームは、地域レベルの強力なパートナーシップが存在し、かつ地方自治体の計画・政策に文化を組み込むことが約束された地域を支援するものとなる。ヒストリック・イングランドが試験実施地域に対し、企画・開発を利用して各地域の幅広い文化的オファーを支える方法について助言を行う。我々はまた、文化的リーダーに対し、地域が新たな文化的ビジョンを策定できるように支援を求める予定である。

【右下囲み】

我々が実行すること

経験豊富な全国レベルの文化的リーダーを特定して、新たな文化的パートナーシップを構築しようとする人々や、その構築を検討する人々と協業してもらう。

国営宝くじ基金分配機関及び全国的な文化団体と連携し、新たに立ち上げる「グレート・プレース」スキームを通じて、コミュニティが各地域の文化的ビジョンを実現できるように支援する。

p.36

2.3

歴史的に意義深い建築環境は我が国特有の資産のひとつであり、地域のコミュニティは地元で大切にされる建物を最大限に活用するための支援を受ける

我が国の歴史的に意義深い建築環境を開発すれば、再生の拡大や雇用の創出、ビジネスの成長、繁栄を後押しできる可能性がある。ただし、一部のデベロッパーは、扱うこととなる文化遺産の状態を理由に、これらのプロジェクトを引き受けるのはリスクが高すぎると考えている。これは、他の地域に比べて不動産市場が低調な地域と、頼るべき専門知識を持つ者が地元で不足している可能性のある地域に特有の問題のひとつである。ヒストリック・イングランド (Historic England) は、デベロッパーと地方自治体が自信を持って地元の史跡を変貌させることを確かなものとし、新たな開発がその史跡ならではの特異性を後押しし、強化するものとなるようにする上で、重要な役割を担っている。

貴重な建築遺産の所有権を引き受けたいと考えている地域のコミュニティ、起業家または第三セクターグループには、そうした建物を改装・修理した上で管理するという課題に取り組むために必要とされる力量や資金、スキルの一部が不足しているかもしれない。しかし、全国的な文化遺産団体が適切に支援すれば、それらの建物は有効に活用される可能性がある。

我々は、新たに300万ポンドを建築遺産基金 (Architectural Heritage Fund) に出資した。その目的は、文化遺産

団体がコミュニティに対し、地元の歴史的建造物の所有権取得をはじめ、そうした建造物を最大限に活用する方法について助言するための支援を行うことである。

我々はヒストリック・イングランドに対し、イングランドに「ヘリテージ・アクション・ゾーン」を新設するための支援を行う予定である。これらの地域においてヒストリック・イングランドは、地元のパートナーとの関係を構築し、向上させることで、変革と新規開発の管理を改善するとともに、再生と成長を通じて歴史環境の生産性を刺激することを目指す。

ヒストリック・イングランドは、地方自治体の考古学サービスに関する報告結果を踏まえて、地方自治体への支援強化策を特定し、ガイダンスを明確化することによって地域のサービスに対する要求を軽減するとともに、資源を最大限に活用する新たな実施モデルを奨励する予定である。

文化遺産宝くじ基金は、文化遺産事業プログラム (Heritage Enterprise Programme) に対する2,500万ポンドの出資を足掛かりとして、文化遺産の財政的な自立化を支援する予定である。

空きスペース・建物は、文化団体の実演や展示の会場として一時的に利用される場合がある。しかし、文化団体は、そのような利用を試みようとする際、企画や利用許可取得上の問題に直面することがある。

【写真キャプション】

イングリッシュ・ヘリテージによるスクールビジット (School Visits)

p.37

新たな開発が行われると、既存のエンターテインメント会場に悪影響が及ぶ恐れもある。シアターズ・トラスト (Theatres Trust) はすでに、地域のプランナー及びコミュニティと密接に連携して、劇場が将来的に本来の目的から外れることがないようにするための支援を行っている。我々はまた、文化団体が空きスペース・建物を活用できることと、新規の開発が既存の芸術・音楽イベント会場と、文化のための新しい空間を生み出す必要性とを考慮したものとなることを確実にする必要もある。

【左中囲み】

アーティストが新たな作品を開発し、創作することを可能にする施設は、支援されるべきである。

【本文】

芸術的なパフォーマンスや展示の場だけでなく、アーティストが新たな作品を開発し、創作することを可能にするスタジオや施設も支援されるべきである。シェフィールドの「ヨークシャー・アートスペース (Yorkshire Artspace)」やストックの「アートシティ (ArtCity)」のようなイニシアチブは、安価なスタジオや作業場をアーティストに提供している。ロンドンでは芸術起業家 (Entrepreneurs for the Arts) スキームにより、不動産デベロッパー、起業家及び中小企業を結集させ、スタジオの拠点を新たに生み出すことで、既存のスタジオ運営者を支援する予定である。このようなスキームが国全体で増える必要がある。

教会は何世紀にもわたり、我が国のコミュニティの中心に

位置してきた。英国国教会と教会保全トラスト (Churches Conservation Trust) は、教会が一般の人々によってどのように開かれ、教会の歴史にどのように息が吹き込まれるのかを証明しつつある。現在では、我が国の教会がコミュニティの生活の中心に位置し続けることを確かなものとするために、さらなる方策が求められている。2016年度予算で発表したように、政府は2016年度から2017年度にかけて2,000万ポンドを第一次世界大戦100周年 (First World War Centenary) の大聖堂修復の助成金延長として出資する予定である。また、イングランドの教会建物・大聖堂がどうすれば財政的な持続可能性を高められるのかを調査するための報告を設ける予定である。

【写真キャプション】

教会保全トラスト

【右下囲み】

我々が実行すること

ヒストリック・イングランドに対し、新しい「ヘリテージ・アクション・ゾーン」を設立するための支援を行う。

地域の歴史的な建築物を最大限に活用する方法について、文化遺産セクターが地元コミュニティに助言するための支援を継続する。

地方自治体と不動産所有者に対し、文化的活動の場として一時的に利用できる空きスペース・建物を増やすことと、新たな開発を計画する際にアーティスト向けスタジオのような文化的要素を検討することを促す。

2016年度から2017年度にかけて2,000万ポンドを第一次世界大戦100周年の大聖堂修復の助成金延長として出資する予定である。また、イングランドの教会建物・大聖堂がどうすれば財政的な持続可能性を高められるのかを調査するための報告を設ける。

p.38

2.4

科学技術によって文化の創出と体験の方法は広がりつつあり、デジタルの世界はそれ自体が「場」となりつつある

我が国及び地域の機関の多くは、公的コレクションのデジタル化や、コンテンツのオンライン上映を主導している。

ナショナル・シアターによる映画館上映プログラム「ナショナル・シアター・ライブ (NT Live)」は2014年度、120万人の観客を獲得した。NT Liveは、オーストラリアやタイから、アイスランドやチリに至る世界中で上映され、幅広いオンラインコンテンツによって補完されている。ロイヤル・オペラ・ハウスも、同劇場が制作するオペラ及びバレエ作品の公演を全国の何千人もの視聴者に向けて生中継している。

大英博物館はGoogle Cultural Institute (グーグル・カルチュラル・インスティテュート) とのパートナーシップの一環として、所有する文化財に世界中の人々がアクセスできるといふ、新たな技術を開拓している。

バーチャル・リアリティを利用することで、我々は今や、自然史博物館が紹介しているような青銅器時代の遺跡や先史時代の深海を体験できるようになった。

英国映画協会 (BFI) は、2017年に完了予定のナショナルアーカイブから10,000本の作品をデジタル化することによって、すべての人が映画遺産にアクセスできるようにしている。

多くの博物館・美術館はコレクションのデジタル化に積極的に取り組んでいるが、一般の人々が容易に目にすることができるのは、我が国の国立の博物館・美術館が擁する大規模かつ比類のないコレクションのごく一部にとどまっている。政府は今後5年間、1億5,000万ポンドの資本出資を、大英博物館、サイエンス・ミュージアム、ビクトリア・アンド・アルバート博物館に対して行う。その目的は、現時点でロンドンのプライス・ハウスに保管されているコレクションを保存・保護し、それらのコレクションへの公共のアクセスを変容させるために、しかるべき世界一流の施設にコレクションを移転させることである。この移転の一環として、収蔵されている作品の写真撮影が行われ、デジタルで閲覧可能となる予定である。

デジタル化は始まりにすぎない。アートUK (Art UK) やコレクションズ・トラスト (Collections Trust) のような例は、デジタルデータを利用可能にするために各機関が協力した場合、どのようなことを成し遂げられる可能性があるのかを明らかにするものである。

デジタル化の便益は明白である。展示や公演に物理的に足を運ぶことができない何百万もの人々は、デジタル化のおかげで、その内容を遠隔地で体験する機会を得られるようになるだろう。例えば、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーとナショナル・シアターは、Google (グーグル) と提携する60の国際的な芸術団体に名を連ね、没入型デジタル表示によって、オンラインのオーディエンスが舞台芸術を360度から体験できるようにしている。

【写真キャプション】

NT Liveで上映されたナショナル・シアターの『オセロ』に出演するエイドリアン・レスター (Adrian Lester)

p.39

【左上囲み】

アートUK

パブリック・カタログ基金 (Public Catalogue Foundation) と英国放送協会 (BBC) は共同でwww.artuk.orgを立ち上げた。3,000以上の公共の美術コレクションに収蔵されている20万点以上の油彩画を閲覧できるデジタルプラットフォームを提供する。このプラットフォームは全作品を検索可能で、現在も拡大を続けている。アーツカウンシル・イングランドからの助成のほか、ナショナル・トラスト、政府アート・コレクション (Government Art Collection)、イングリッシュ・ヘリテージ、文化遺産宝くじ基金、各種トラストからの支援を受けるアートUKは、一般の人々の目に触れにくい芸術作品を展示するためのプラットフォームを設けることで、教育用のリソースのみならず、潜在的な収入源を公的コレクションにもたらしている。

【本文】

デジタル化は、文化的な遺物に関してクラウドソーシングした知識を収集し、デジタルボランティアを活用することを可能にするだろう。国立公文書館は、第一次世界大戦の戦争日誌をデジタル化するプロジェクトにボランティアの「市民歴

史家」を参加させ、「フリッカー (Flickr)」に投稿された植民地時代の写真に写る人物や場所、出来事に関する知識と記憶の共有を世界中の人々に呼びかけている。

デジタル化によって、団体はどのような人々がコレクションを利用し、利用者が何に興味を持っているのかに関するデータを収集できるようになるだろう。また、オンラインの世界で利用者がいる場所へ、コレクション自らが出向くことができるようになるだろう。そして、キュレーターや研究者は、機械学習ツールとデータツールを利用してコレクションに関する知識を深められるようになるだろう。

我々は、さらに駒を進め、英国を公的コレクションのコンテンツのデジタル化で世界をリードする国のひとつにしたいと考えている。そして、利用者がオンラインでシームレスな体験を楽しみ、すべてのコレクションを横断して検索するだけでなく、特定のコレクションを掘り下げて利用する機会をも備えたいと考えている。

我々は、取り組むべき重要課題に関する報告書を委託作成する予定である。この報告書で扱う問題の例としては、共通の技術基準及び許認可、機関がコレクションをデジタル化するために必要とされる支援の内容、オンラインでコレクションを保管するために必要な容量、科学技術の進歩に応じてデジタルコレクションをアップデートする必要性、このような進展を実現させるために現在と将来において文化団体に求められるスキルなどがある。

我々は、助成機関及び全国的機関と連携し、デジタル・カタapult (Digital Catapult) や政府デジタル・サービス (Government Digital Service) のような組織や潜在的な民間の商業技術パートナーが持つ専門知識を活用して、このビジョンの実現を目指す。

【右下囲み】

我々が実行すること

英国を公的コレクションのコンテンツのデジタル化で世界をリードする国のひとつにするために、取り組むべき重要課題に関する報告書を委託作成する。

ヒストリック・イングランドに対し、地方自治体と連携して国と地域の文化遺産に関する記録を今後 10 年間で改善・合理化することを求める。これにより、コミュニティとデベロッパが歴史環境に関する記録に容易にアクセスできるようにする。

p.40

3

文化には、我が国の国際的地位を高める力がある

【写真キャプション】

2015 年ミラノ国際博覧会の英国館

p.41

英国は素晴らしい文化遺産を有することで名高く、世界中から何百万もの人々を引き寄せている。国家として幸運にも、豊かな文化の歴史を継承してきた。この戦略によって我々は、今後もその歴史を称えるばかりでなく、よりいっそう刺激的で活気に満ちた何かを未来の世代へと伝えることもでき

るようになるはずである。

トレイシー・クラウチ (Tracey Crouch) 下院議員
スポーツ・観光・文化遺産担当閣外大臣 (Minister for Sport, Tourism and Heritage)

【右下囲み】

本章では、文化を通じて英国のソフト・パワーをさらに高める方法について探る。その例としては、我が国の文化芸術遺産を海外に宣伝すること、文化芸術の影響力を国際外交に利用すること、世界の文化遺産を保護することなどが挙げられる。

p.42

【左上囲み】

英国は、ソフト・パワーを牽引する国のひとつである。2015 年には、ポートランド社による総合指数ランキング「ソフト・パワー 30」の第 1 位を獲得した。我々の強く安定した民主主義、個人の自由に対する信念、多様性、表現の自由が高く評価されている。我々の文化は、そうした価値観を称えるものである。

【本文】

文化は、英国の影響力を拡大させ、貿易と投資を促進するとともに、我が国の美しい景観、貴重な国家遺産、町や都市の生活を体験する観光客を引き寄せている。

このような関心と影響力により、我々は世界的なネットワークと国際機関において高い地位を得ている。そして、そうしたネットワークのおかげで、我が国の文化的でクリエイティブな才能を知らしめる機会がもたらされている。

今年、シェイクスピア没後 400 周年に当たる。シェイクスピアのリーチと影響力は時とともに拡大し、英国の印象を形成し続けている。異例の長期ツアーとなるシェイクスピア・グローブ座による『ハムレット』の巡回公演は、2016 年 4 月までに世界各国を訪れる予定である。

政府は、GREAT Britain キャンペーンのようなイニシアチブや、他国との互恵的プログラムを足掛かりとして、我が国の文化セクターがその作品を紹介する機会を新たに創出するとともに、貿易・輸出を促進することを目指す。

我々には、文化破壊行為を含む人道危機に対応する義務がある。政府は、文化保護を通じて社会の安定と経済的繁栄を取り戻そうとする国を支援する方策を新たに講じる予定である。

2015 年、政府は新たなプロスペリティ・ファンド (Prosperity Fund 社会繁栄基金) を創設することを発表した。その主な目的は、開発途上国の経済発展と福祉を促進することである。文化は、その上で重要な役割を果たし、発展と貧困削減を推進するとともに、これまでにない世界的な機会を切り開くだろう。

【写真キャプション】

ストラトフォード・アポン・エイボンでのロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの公演

3.1

文化輸出を通じて英国を宣伝することにより、我が国の世界的評価とソフト・パワーをさらに高める

英国はすでに、ソフト・パワーや国家ブランドに関する調査で上位に位置している。政府は文化によって、我が国の世界的評価をさらに高めたいと考えている。

我々はブリティッシュ・カウンシルを通じて、国際関係の強化と教育機会の創出のために文化を役立てている。ブリティッシュ・カウンシルは100カ国以上で活動し、文化と教育を通じて知識を共有するとともに、友好関係を築いている。また、芸術団体や博物館・美術館の国際的な活動を支援する上で重要な役割を果たしている。

2016年を通して我々は、実演、上映会及びデジタル活動からなる世界的プログラム「シェイクスピア・リブズ」を支援する予定である。

我が国の放送産業も、英国文化の海外進出を支援する強力な存在である。BBCは、世界で最も高いリーチを誇る放送事業者である。主要な世界市場における世界的なビジネスリーダーのうち、50%以上は毎週BBCとのコンタクトがあり、79%はBBCを「英国の優れた大使」とみなし、他のどの機関よりも上位に位置付けている。

政府は2015年の歳出報告において、歳出報告対象期間にBBCワールドサービスへの追加助成を行うことを発表した。助成額は年間8,500万ポンドにのぼり、そのうち7,000万ポンドは政府開発援助（ODA）に計上する予定である。この追加助成によってBBCは、世界的な活動範囲とリーチを維持することが可能となり、世界全体のグッド・ガバナンスに寄与するとともに経済・社会・政治的な発展を支えるようなニュースや情報への人々のアクセスを増加させることができるだろう。また、豊かな芸術作品の制作と、英国の文化シーンにBBCが焦点を合わせることも可能となるだろう。

英国映画協会は、映画及びアーカイブの国際的な専門家を対象とした幹部教育プログラムを立ち上げている。このプログラムは、同協会が擁する世界一流のスタッフの専門知識とスキルを利用して海外のパートナーを支援し、映画の保存、デジタル化及びアーカイブ活動の分野におけるリーダーとしての英国の評価を高めることを目指すものである。

政府アート・コレクションは、国内外の英国政府の建物に展示される英国の芸術作品のキュレーションを行っている。我々は引き続き、同コレクションの芸術作品を人々が目にし、楽しむ方法をさらに増やすことを目指す。

「ザ・カルチャー・ダイアリー（The Culture Diary）」は、文化セクターに属する団体が外務・英連邦省の世界的ネットワーク、英国貿易投資総省（UKTI）及び実業界と連携することを可能にしている。我々は、ザ・カルチャー・ダイアリーの報告と改善を行い、このツールの効果の高さが保たれることを確かなものとする予定である。

【右上囲み】

ザ・カルチャー・ダイアリー

「ザ・カルチャー・ダイアリー（The Culture Diary）」は、

文化のマスターリストであり、すべての芸術分野の国際的な予定表であり、政府との交流の場である。「ザ・カルチャー・ダイアリー」により、あらゆる文化セクターのあらゆる規模の文化団体は、国際的な進出を拡大することができる。「ザ・カルチャー・ダイアリー」は、文化機関を他の文化機関、GREATキャンペーン、政府の世界的な大使館・高等弁務団のネットワークと結び付けることによって、英国の文化団体が国際的な活動の便益を実現し、海外における英国の文化及び文化遺産に対する需要を満たすことを可能にしている。

www.theculturediary.com

【右下囲み】

我々が実行すること

UKTIと共同で世界的な文化輸出プログラムを推進し、新市場の開拓を目指すとともに、UKTIの高価値機会（HVO）プログラムに文化セクターが参加することを確かなものとする。

我が国の公的機関に対し、文化セクターが国際交流やパートナーシップ、事業、イノベーションを通じて新たな機会を追求する能力を高めるために、助成が役立てられることを確実にするよう求める。

ヒストリック・イングランドに対し、他の文化遺産団体と連携して、文化遺産セクターの国際的な商業的オファーを発展させるよう求める。

3.2

GREATキャンペーンは、文化を利用して「英国ブランド」を宣伝するとともに、世界最高レベルのイベントを誘致することにより、観光客に対する我が国の文化的オファーをさらに向上させる

GREAT Britain キャンペーンは2011年9月、2012年ロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会によって創出された機会を踏まえて立ち上げられた。その目的は、観光、学問、ビジネスに最適な場としての英国を紹介することで、我が国の貿易、輸出、対内投資を拡大させることである。同キャンペーンは2015年、世界190カ所以上における約1,100件の独立したイベントや活動を支援した。

2012年から2015年の間で、1億1,350万ポンドがGREATキャンペーンに投じられた。同キャンペーンはすでに、18億ポンドの経済的利益を英国にもたらすことが確定している。

政府は、GREATキャンペーンに対する2019年度までの出資額を年間6,000万ポンドに拡大した。

【左下囲み】

1億1,350万ポンド

2012年から2015年の間で、1億1,350万ポンドがGREATキャンペーンに投じられた。

【本文】

我が国の祭りや大規模な文化イベントは、観光客を引き寄せる主な要因のひとつであり、地域と国に経済的便益をもたらしている。ロンドンとエディンバラには由緒ある文化の祭典

が存在するが、それ以外の地域のイベントの中でも特にマンチェスター国際フェスティバルの成功は、心強い例である。同フェスティバルは2007年、アーティスト主導の隔年イベントとして開始された。現在では、国際的に注目を集める一流イベントとなっている。

政府が新設したイベント産業委員会 (Events Industry Board) によって打ち出された協調的アプローチにより、我々はこれらのイベントがもたらす機会をさらに活用できるようになるだろう。この取り組みは、GREATキャンペーンが世界一流のイベントを英国に惹き付けるための投資によって強化される。

【右中囲み】

政府は、GREATキャンペーンに対する2019年度までの出資額を年間6,000万ポンドに拡大した。

【本文】

クリエイティブ産業における英中間のビジネス関係の進展は、2015年3月に上海で開催されたGREATフェスティバル・オブ・クリエイティビティ (GREAT Festival of Creativity) と、2015年10月に習近平 (Xi Jinping) 国家主席が英国に公式訪問した際に開催されたクリエイティブ・ショーケース (Creative Showcase) によって強固なものとなった。

財務大臣が2015年の中国における経済・財政対話の際に発表したように、大英図書館は2016年から2019年にかけて、シェイクスピアやディケンズ、ブロンテ姉妹、アーサー・コナン・ドイル卿による作品の手稿や初期版を含む、特に重要な国宝の一部を中国で初めて展示する予定である。

【写真キャプション】

GREAT Britain キャンペーン

p.45

その他の主要な文化機関も引き続き、2015文化交流年 (2015 Year of Cultural Exchange) を足掛かりに、中国との文化協力を強化していく予定である。また、我が国の世界的な文化外交プログラムでは、ブリティッシュ・カウンシルその他と連携して、2015英メキシコ交流年 (2015 UK/Mexico Dual Year) 及びロシアとの2016英言語・文学年 (2016 Year of English Language and Literature) の文化的なレガシー (遺産) を発展させるとともに、2017年にはインド、韓国及びアラブ首長国連邦との文化協力を祝う予定である。

【右上囲み】

我々が実行すること

ブリティッシュ・カウンシル及び各種文化セクターと連携して、あらゆる国との文化協力を支援し、アーティストの自然享受権 (right to roam) を擁護するとともに、文化が政治・地理的な境界を超越したものであり続けることを確実にするために助力する。

GREAT Britain キャンペーンのパートナー、ブリティッシュ・カウンシル及びボランティア・サービス・オーバースーズ (VSO) と連携して、英国の各種文化セクターがシェイクスピアの感動的な作品と遺産を通じて現代の英国文化の最高峰を世界に紹介するための支援を行うとともに、VSOが

記念イベントを利用して世界中の子供の識字能力を支えるための資金を調達できるように力添えをする。

2017年、インド、韓国及びアラブ首長国連邦との文化シーズン (seasons of culture) を祝う。

【写真キャプション】

GREATフェスティバル・オブ・クリエイティビティ上海 (GREAT Festival of Creativity Shanghai)

p.46

3.3

世界の文化遺産を保護するために世界規模でパートナーと連携する

英国は、文化を含む国際開発の支援に関して、誇るべき実績を有している。様々な国際的文化条約の署名国であり、欧州評議会や国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ) をはじめとする多数の文化支援組織と緊密に連携している。

文化遺産は、国家のアイデンティティとその国民にとって不可欠なものであり、教育と研究を支え、長期にわたる経済・社会的便益をもたらす。我々は国内外において、文化保護の先頭に立ち続けるべきである。

世界遺産委員会は、世界遺産の指定を行っている。世界遺産は、世界全体で1,000カ所以上あり、そのうちの29カ所は英国に存在し、先史時代のストーンヘンジやエーブベリーから、ブレナボンの鉱業遺産やフォース橋にまで及ぶ。

我々は、世界遺産の管理の分野におけるグローバル・スタンダードを打ち立てたいと考えている。ユネスコ世界文化遺産センター、ヒストリック・イングランド及びその他の世界遺産の運営機関と協力して、遺跡を保護しながら持続可能な発展を促すつもりである。

立法を条件として、武力紛争の際における文化財保護に関する1954年ハーグ条約と、その2つの議定書を批准する予定である。この条約は、武力紛争の影響から文化財が保護されることを確実にするための一連の措置を規定したものである。

また、ユネスコの水中文化遺産保護に関する条約をはじめとする、文化遺産や文化財の保護を目的としたその他の国際条約の批准に関して、我が国の立場を報告する予定である。

政府は2015年、文化保護に関するサミットを主催した。このサミットでは、国会議員、専門家、関連組織、チャリティ団体が一堂に会し、世界中の文化遺産保護を支援するために、どのような方策を講じられるのかを探った。これに応じて、我々は3,000万ポンドの「文化保護基金 (Cultural Protection Fund)」の創設を進めている。この基金の管理はブリティッシュ・カウンシルが行う予定である。

【右中囲み】

3,000万ポンド

我々は3,000万ポンドの「文化保護基金」の創設を進めている。

【右下囲み】

我々が実行すること

国際援助の支援の範囲を文化遺産・古代遺物の保護にまで拡大し、新たに設立する3,000万ポンドの文化保護基金を通じて、文化破壊行為を受けた国の復興に助力する。

立法を条件として、武力紛争の際における文化財保護に関する1954年ハーグ条約と、その2つの議定書を批准する。

文化の開発と保護の分野における我が国の専門知識を、開発途上国及び紛争中または紛争から脱却中の国々を中心に、世界中のパートナーと共有する。

p.47

【写真キャプション】

空から見たストーンヘンジ

p.48

4

文化への投資、レジリエンス、改革

【写真キャプション】

コーンウォールのミナック・シアター

p.49

国家として行うことができる最善の投資のひとつは、我が国の、目を見張るべきクリエイティブ産業への投資である。

ジョージ・オズボーン下院議員
財務大臣

【右下囲み】

本章では、最も効果的な文化投資モデルを支えることと、我が国の文化機関が繁栄するための最善の土台を作ることについて、公的助成がいかに役立つ可能性があるのかについて考察する。

p.50

【左上囲み】

我々は第二次世界大戦以来、公的助成が民間投資、チャリティ、勤労所得と共存するという独自の文化投資モデルを進展させてきた。

【本文】

こうした多角的な収入源は、文化セクターが繁栄するための土台を作る。

政府は、文化に対して公共投資を行うべきであると確信している。財務省と宝くじ基金という中核的な助成金のほか、税制優遇措置を通して文化を支援し、チャリティ活動を奨励している。

政府は、国立の博物館・美術館及びギャラリーの常設コレクションの無料公開を支援している。

文化遺産宝くじ基金、国家遺産記念基金 (National Heritage Memorial Fund)、アートファンド (ArtFund) のような主要な助成機関は、英国全土の博物館・美術館及びギャラリーに対し、重要な芸術作品や、その他の文化的重要性の高い物を取得するための支援を続けている。

政府はまた、チャリティ団体による資金調達に信用性と信頼性を確かなものとし、長期的なチャリティによる寄付を支援するための規制のフレームワークも設けている。

チャリティ・セクターが、責任ある資金調達と、新たな資金調達規制機関を通じた自主規制の強化・厳格化について改めて確約したことを政府は歓迎している。

文化団体がチャリティ活動や民間寄付からさらなる恩恵を得て、商業収入を含む助成金以外の財源の利用を拡大する余地があることを確信している。

近年、多くの文化団体は、その構造やガバナンス、運営モデルを見直し、資金調達の流れを多角化することで、変化する経済情勢に対応している。

【図：始まり】

図9：文化・メディア・スポーツ省が助成する文化機関の現金収入の推移¹⁹⁾

(凡例)
公共投資以外の合計
DCMSの助成金の合計
総収入

単位：100万ポンド

【図：終わり】

p.51

そうした文化団体は、新たな寄付者を育て、新たなパートナーシップを形成してきた。これらの戦略は各団体にとって、厳しい金融環境の中で舵取りをするための一助となっている。

政府の支援を受ける団体に限って見た場合、収入全体に占める助成金 (grant in aid) の割合に対するファンドレイジングの割合の比率は、2009年度の22%から、2014年度には55%以上まで増加している。助成金1ポンドごとに、その半分以上の収入をファンドレイジングまたは事業所得によって得ている計算である²⁰⁾。

レジリエンスは依然として、特に地域や地域のレベルでは、重要な問題の一つである。文化団体は、すべての公共投資が可能な限り有効に活用されるようにする必要がある。また、資金面の潜在的な課題に対処するためにビジネスモデルと財務戦略をいかに適合させるかについて、さらに広い視野で考えなければならない。

【左中囲み】

文化団体は、すべての公共投資が可能な限り有効に活用されるようにする必要がある。

【本文】

政府は文化団体に対し、2010年に初めて発表された「文化のためのチャリティ計画10項目 (10-point philanthropy plan for culture)」のレガシーを足掛かりとして自らのレジリエンスを強化するための支援を行うとともに、収入源を拡大・多角化する新たな方法を検討するよう促す予定である。

また、政府から直接助成を受ける文化団体が、それぞれが属するセクターのニーズと本ホワイト・ペーパーの優先事項に

どうすれば最大限に寄与できるのか検討する予定である。

【中央囲み】

民間の文化支援源²¹⁾

文化セクターに対する民間投資の総額は、2011年度に6億6,000万ポンドを上回った。

チャリティ活動の一環として文化を支援している英国の主要なトラスト・基金は、毎年5,000万ポンド以上を文化プロジェクトに出資している。文化に対するトラスト・基金の総出資額は、2011年度に1億7,380万ポンドを記録した。

文化セクターは、年間100万ポンドを超える寄付の合計額の約7%を受け取っている。2012年の場合、これは9,540万ポンドに相当する。2011年度には、3億7,200万ポンド以上に相当する個人寄付を受け取っている。

文化セクターは2011年度、ビジネスセクターから1億1,300万ポンド以上の支援を受けた。また、企業との関係もいくつか大成功を収めており、その恩恵を享受し続けている。テート・モダン・タービン・ホールに展示する作品の制作をヒュンダイ (Hyundai) 社から受託していることは、その一例である。

上：ポール・ハムリン・ファウンデーション (Paul Hamlyn Foundation)

【右囲み】

チャリティ計画10項目

2010年に発表された、「文化のためのチャリティ計画10項目」は、寄付の長期的な増加を促すことで、文化団体がより多角的な財源モデルを構築できるよう後押しし、将来の計画を立てるために必要な財務面の長期的な持続可能性と確実性を、文化団体にもたらすことを目的としたものである。この計画には以下のような内容が盛り込まれていた。

— 最初の「カタリスト (Catalyst)」プログラム：2012-15年に文化セクターを対象に実施された8,000万ポンドの大規模なマッチファンディング・スキーム。政府、アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金が共同で出資した。その目的は、寄付基金の設立や、民間の資金源の利用拡大などにより、文化団体が収入源を多角化できるよう支援することであった。

— 文化セクター全体での個人・企業による寄付の促進、寄付者の表彰強化、デジタル技術の活用、ファンドレイジングスキルの向上を目的とした一連の補足的な方策。

— 文化セクターのファンドレイジングを後押しする方法について考察した、独立した著者による3件の調査報告書²²⁾。

上：ロンドンのグレート・ジョージ・ストリート (Great George Street) にある政府庁舎

【脚注】

19) DCMSによる『チャリティ寄付指標 (Charitable Giving Indicators)』：https://www.gov.uk/government/statistics/charitable-giving-indicators-201415

20) https://www.gov.uk/government/collections/charitable-giving-indicators

21) アーツ・アンド・ビジネス (Arts and Business) による『民間投資調査2012 (Private Investment Survey 2012)』 (http://artsandbusiness.bitc.org.uk/research/latest-private-investment-culture-survey-201112) 及びクーツ (Coutts) 社による2014年のレポート (http://philanthropy.coutts.com/) を参照

22) 『遺贈への障壁を取り除く (Removing Barriers to Legacy-Giving)』：http://www.legacy10.com/sites/default/files/downloads/Removing%20Barriers%20to%20Legacy-Giving_0.pdf、『ロンドンを超えるフィランソロピー (Philanthropy Beyond London)』：https://www.gov.uk/government/publications/philanthropy-beyond-london、『芸術分野のデジタル寄付：チャリティの大衆化 (Digital Giving in the Arts – Democratising Philanthropy)』：https://www.gov.uk/government/publications/digital-giving-in-the-arts-democratising-philanthropy

p.52

4.1

政府は引き続き、我が国の文化セクターの成長に投資する

政府は、我が国の主要な文化団体の一部に対し、財務省と宝くじ基金の中核的な助成金を付与している。その団体とは、アーツカウンシル・イングランドと文化遺産宝くじ基金などであり、それらの団体がさらに、全国の博物館・美術館及びギャラリー、文化芸術遺産団体、図書館・文書館 (アーカイブ) を支援するための助成金を支給している。

政府から直接助成を受けている18の文化機関の内訳は、国立の博物館・美術館及びギャラリー、大英図書館、国立公文書館、ヒストリック・イングランドである。

我々はまた、マンチェスターの「ザ・ファクトリー」のような資本スキームへの直接出資や、「博物館・美術館・ギャラリー改善基金 (Museums and Galleries Improvement Fund)」実現のためのウォルフソン財団 (Wolfson Foundation) とのパートナーシップをはじめとする重要なパートナーシップの形成、「英国文化都市」のようなプログラムへの出資、芸術・人文学研究会議 (Arts and Humanities Research Council) を通じた研究助成も行っている。

政府はここ数年で、文化団体とフィランソロピストを対象とする重要な税制優遇措置を導入した。これらの措置は、英国全土の文化団体に益するものである。我々は2011年度予算において、課税遺産の10%以上をチャリティ団体に寄付した場合の相続税率を40%から36%に引き下げた。2014年には、社会的投資減税を新たに導入した。また、簡素化された新たなギフト・エイド申告 (Gift Aid declaration) や、映画、テレビ、アニメ及びビデオゲーム産業を対象とした、様々な減税も導入している。

2014年9月には、舞台芸術減税が導入された。これは、演劇、ミュージカル、オペラ、バレエ、サーカス、ダンスなどの、様々な芸術形態の作品制作を支援するものである。

2014年の秋季財政演説で発表された新規のオーケストラ減税は、2016年4月の導入を予定している。

2016年度予算で発表された新たな博物館・美術館・ギャラリー減税は、その設計に関する正式な協議を経て、2017年

4月に開始される予定である。この減税は、博物館・美術館及びギャラリーが新しい展覧会を企画し、全国でコレクションを展示するための支えとなる予定である。

「文化財寄付控除 (Cultural Gifts)」と「文化財寄付による相続税控除 (Acceptance in Lieu)」のスキームは、重要な芸術作品や文化遺産、手稿、記録文書が公有化される機会をもたらすものである。これらのスキームは、英国全体を対象としている。また、控除税額として4,000万ポンドの年間予算を共有している。

付加価値税 (VAT) 払い戻しスキームは2001年、英国全土の博物館・美術館及びギャラリーの無料公開を支援する目的で導入された。このスキームを利用すれば、国立及び大学の博物館・美術館及びギャラリーは、コレクションを無料で公開することを目的として、ほとんどの物品・サービスの売り上げに対して発生したVATを取り戻すことができる。

我々は2016年度予算において、VAT払い戻しスキームの適格性基準を緩和することで、コレクションを無料公開する博物館・美術館及びギャラリーのより多くが恩恵を受けられるようにすることを発表した。

あらゆる減免税措置を検討する事業税 (business rates) 報告の結論は、2016年度予算で下された。財務大臣は、小規模事業税軽減措置 (small business rates relief) を拡大する予定であることを発表した。その他の既存の減税措置としては、チャリティ団体を対象とする80%の強制的な減税があるが、これは今後も従来通り実施される予定である。また、地域自治体の管轄である自由裁量の減税にも変更はない。政府は引き続き、実施されるあらゆる減税のコストの50%を助成する予定である。

我々は、ギフト・エイドの寄付者優遇規定の変更に関する協議を進めている。

また、組織が受けることのできる社会的投資減税について、対象となる投資額の引き上げも予定している。これにより、文化セクターへの社会的投資の機会をさらに魅力を増すだろう。

【右下囲み】

我々が実行すること

2017年4月に導入予定の博物館・美術館及びギャラリーに対する新減税に関して正式な協議を実施する。

ギフト・エイドの寄付者優遇規定の変更を、現在進行中の協議の結果を踏まえて検討する。

国家補助の許可を得ることを条件として、社会的投資減税の対象となる投資額を引き上げる。

p.53

4.2

文化団体の財源モデルの多角化を後押しするために政府が行う支援は、実証可能な変化をもたらす

文化セクターに対する民間と企業の支援を強化する必要があると認識した我々は、「文化のためのチャリティ計画10項目」を2010年に発表した。この計画の中核をなすプロ

ラム「カタリスト (Catalyst)」は、政府、アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金が幅広くパートナーシップを組み、文化団体が民間の資金源の利用を拡大できるような支援を行うというものだった。49団体が「カタリスト」の寄付基金スキームの支援を受け、厳しい資金調達環境にありながら6,400万ポンド以上を調達した。これまでに合計で1億ポンドを上回る新たな資金が投じられ、400以上の文化団体の資金調達を多角化し、能力やスキルを向上させるために役立っている。

アーツカウンシル・イングランドは2015年から2018年にかけて、2,600万ポンドの戦略的事業助成の資金をチャリティとファンドレイジングのために費やすことを約束している。そのうち1,760万ポンドは、ファンドレイジングの経験に乏しい団体を対象としたプログラム「カタリスト：エボルブ (Catalyst: Evolve)」に費やされる予定である²³⁾。

アーツカウンシル・イングランドはまた、博物館・美術館の持続可能性とレジリエンスの向上も支援している。「博物館・美術館レジリエンス・ファンド (Museum Resilience Fund)」は、アーツカウンシル・イングランドによる主要パートナー博物館・美術館 (Major Partner Museum) への投資、博物館・美術館開発及び全国的プログラムへの投資を補うものであり、こうした投資の恩恵を受けていない認可済み博物館・美術館を特に対象としている。

同助成を通じて、アーツカウンシル・イングランドは2015年から18年に3,000万ポンドを博物館・美術館セクターのレジリエンスと能力を向上させるプロジェクトに投資する予定である。

「博物館・美術館・ギャラリー改善基金」の実現に向けたウォルフソン財団とのパートナーシップの成功は、公的助成を民間のチャリティ事業とマッチさせた場合にどのようなことを成し遂げることができるのかを示す絶好の例である。同基金は発足以来、5,800万ポンド以上を博物館・美術館及びギャラリー・セクターに出資することにより、様々な博物館・美術館及びギャラリーが展示や施設を改善することを可能にしてきた。同基金はまた、博物館・美術館及びギャラリーが他の出資者への働きかけを成功させ、さらなる支援を呼ぶという触媒の役割も果たしている。我々は今後も、400万ポンドの共同出資によるパートナーシップを継続し、イングランド全土の博物館・美術館及びギャラリーのさらなる設備改善を支援する予定である。

政府、アーツカウンシル・イングランド及び文化遺産宝くじ基金は、チャリティ計画10項目の背景にある原則を守り続けており、文化団体が助成金の多角化、助成金以外の収入源と画期的なファンドレイジングの手段を探るよう支援・奨励する予定である。

文化遺産宝くじ基金は、2016年度に新たな寄付基金のため1,000万ポンドを投資することを発表している。また、年間700万ポンドを新規の能力開発プログラム「レジリエント・ヘリテージ (Resilient Heritage)」に投資し、現状では移行助成 (transition funding)、スタートアップ助成 (start-up grant) 及び「カタリスト」の少額助成を通じて実施されている支援を統合することになっている。

政府は、文化セクターではまだ比較的活用されていない、新たな社会的投資その他の代替的な資金調達モデルからの収入生成を探る機会が存在すると考えている。

【写真キャプション】

国立公文書館

【脚注】

23) <http://www.artscouncil.org.uk/funding/apply-funding/funding-programmes/catalyst-arts/catalyst-evolve/>

p.54

我々は、アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金その他のパートナーと連携して、これらの新たなモデルの便益とリスクを探るとともに、より多種多様な文化団体に対し、新たな収入源を獲得することや現在受けている助成を拡大できる可能性はあるのか、あるとすればどのような方法が考えられるのかを検討するよう促す予定である。

クラウドファンディングは、大勢の人から資金を調達することによって、プロジェクトまたはベンチャー事業の資金を賄う行為である。文化セクターの一部にとっては、大きな可能性を秘めている。クラウドファンディングは急成長中であり、あらゆる規模のプロジェクトの資金調達手段として主流の一つになりつつある。寄付ベースのクラウドファンディングは2015年、すべての代替的な資金調達モデルの中で最も急成長を遂げ、507%の前年比成長率と1,200万ポンドの流通総額を記録した。我々は、国立科学・技術・芸術基金、アーツカウンシル・イングランド及び文化遺産宝くじ基金とのパートナーシップのもとで新たな試験的スキームを立ち上げ、文化プロジェクトに対する画期的な助成方法の一つとしてマッチド・クラウドファンディング (matched crowd-funding) の機会を模索するとともに、この資金調達手法の成長を支えるエビデンス・ベースを構築する予定である。

社会的投資は、例えば健康や教育など、実証可能な社会的成果が出ている領域における文化の発展支援に関心のある投資家に団体を引き合わせることで、持続可能な財務に対する文化セクターの需要を満たすための一助となる可能性がある。

—700万ポンドの「アーツ・インパクト・ファンド (Arts Impact Fund)」は、民間資金と公的資金の両方で支えられており、社会的インパクトを実証できる芸術団体に対して融資を行っている。

—アーツカウンシル・イングランドの助成を受け、全国ボランティア団体協議会 (The National Council for Voluntary Organisations) が主導するコンソーシアムによって実施されている「文化事業委託プログラム (Cultural Commissioning Programme)」は、文化団体が文化事業委託を乗り切り、公共サービスのためにいかに成果を出すことができるのかを実証するための支援を行っている。

—「皇太子の再生トラスト (Prince's Regeneration Trust)」は、再生プロジェクトの支援を目的とした4,000万ポンドの社会的投資基金を創設しようとしている。

—小規模な例では、建築遺産基金が、地元の建築遺産の所有権を取得するコミュニティ団体への融資を行っている。

【右上囲み】

アーツ・インパクト・ファンド

「アーツ・インパクト・ファンド」は2015年に運用を開始

した。アーツカウンシル・イングランド、バンクオブアメリカ・メリルリンチ社、国立科学・技術・芸術基金及びエスメ・フェアバン財団 (Esmée Fairbairn Foundation) による700万ポンドのパートナーシップであり、返済が必要となるが再利用・再投資が可能な融資を15万~60万ポンドの範囲で行うことで、英国全土の芸術団体を支援している。

【写真キャプション】

セント・アイブスのバーバラ・ハップワース美術館・彫刻庭園

p.55

政府はまた、ソーシャル・インパクト・ボンド (社会的インパクト債) その他の事業委託モデルを利用して社会的な課題に対処する方法も探りたいと考えている。

政府は、文化セクターが商業的知識をさらに活用することを望んでいる。我々は、クリエイティブ産業評議会 (Creative Industries Council) が策定した *CreateUK (*クリエイティブUK) 戦略に示された、クリエイティブ産業にはより幅広い資金源へのよりよいアクセスが必要であるとの所見を支持している。文化及びクリエイティブ・セクターの企業は財源の確保に成功するために、ビジネスモデルの知識を増やし、強力な計画立案のスキルを通じて「投資受け入れ態勢」を向上させ、潜在的な出資者に対する自社の価値の伝え方を改善する必要がある。

我々は、バーチャルな「文化商業アカデミー」を創設することで、文化セクターにおける商業的知識の強化を促す予定である。これは、公共セクターと商業セクターの専門家の連携により実現される予定であり、既存のネットワークフォーラムを利用するとともに、新たなネットワークフォーラムを設立して、文化セクターにおける商業的知識の強力な拠点を築くことを目指す。

そして引き続き、文化セクターとその多くの寛大な民間寄付者との関係を、企業、トラスト、財団、個人のフィランソピストの別にかかわらず、強調・奨励する予定である。我々は、そのようなパートナーシップが双方にどのような便益をもたらすか、文化団体と国民一般の生活にいかにして持続的な変化をもたらすのかについて、さらに語る必要がある。特に、文化団体との関係構築に対する企業セクターの関心を刺激するためのアプローチを刷新したい。

主要な寄付者グループの関心を改めて引くためには、寄付の現在の動向を理解することが不可欠である。アーツカウンシル・イングランドは、イングランドの文化セクターに対する企業投資をはじめとする民間投資の最新の概況を明らかにすべく、新たな「民間投資サーベイ」の実施を委託した。その初回の報告書は、今秋の発行を予定している。

【右下囲み】

我々が実行すること

さらに200万ポンドを「博物館・美術館・ギャラリー改善基金」に出資する。これにはウォルフソン財団からの200万ポンドが上乗せされる。

クラウドファンディングの試験的スキームを策定し、アーツカウンシル・イングランド及び文化遺産宝くじ基金と共同で実施して、この方法で資金を調達する文化団体を対象にマッ

チド・ファンディングを行う。

バーチャルな「文化商業アカデミー」を創設して文化セクター全体の商業的知識の拡大を支援する。

アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金その他のパートナーと連携して、助成金以外の収入源や画期的な資金調達手段を探ることも含め、文化団体が財源を多角化するための支援を行う。

アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金その他のパートナーと連携し、文化団体との関係構築について、重要な資金提供グループの関心を引くための方策を刷新する。文化セクターが企業とのエンゲージメントを向上させる方策を特定することも含める。

p.56

4.3

公的機関に対し、本ホワイト・ペーパーに示された目的を達成するための支援を行う

前政権は公的機関の改革に大々的に取り組み、一部の公的機関を廃止するとともに、すべての公的機関に対して説明責任と効率を向上させることを求めた。

この改革プログラムは、政府機関と公的機関に対し、ミュージアムファンドや合併事業のような代替モデルによってサービスの提供改善や新たな収入の創出を実現できる可能性がないか探ることを促した。

2015年に「イングリッシュ・ヘリテージ」は、8,000万ポンドの寄付基金を擁し、国家的な遺産・遺跡のコレクションを管理するチャリティ団体「イングリッシュ・ヘリテージ」と、法定の文化遺産サービスを提供する「ヒストリック・イングランド」に分割された。

政府は現在、王立公園（The Royal Parks）を王立公園財団（Royal Parks Foundation）と統合して単一のチャリティ団体にする計画に取り組んでいる。

また、リバプール都市圏権限移譲協定（Liverpool City Region Devolution Agreement）の一環として、政府はリバプール都市圏及びリバプール国立美術館と連携して、リバプール国立美術館の持続可能かつ実行可能なビジネスモデルの選択肢を探っている。

政府は折に触れて公的機関に関する報告書を作成しているが、現在は以下の2種類の報告に焦点を絞ろうとしている。

— 個別の公的機関を対象にしたテイラード・レビュー：2010-15年のトリエンニアル報告（Triennial Review）プログラムをさらに発展させるもので、執行機関と非大臣省（non-ministerial department）は対象に含めるが、諮問機関は除外する。これらの報告の目的は、個別の公的機関が引き続き必要であるかどうかを、その機能と形態の両面で検討するとともに、統制とガバナンスの仕組みを報告することである。

— 公的機関のグループを対象にしたテーマ別または分類別報告：新しいタイプの報告であり、類似の機能、顧客またはプロセスを有する公的機関がどうすれば業務の効率・効果を

改善できるか、その可能性に注目する予定である。

我が国を最も象徴する公的文化機関の効率性向上を促すために、政府は2013年歳出報告において国立の博物館・美術館を対象にした試験的な運営自由化プログラムを立ち上げた。この試験の成功を踏まえ、我々は2015年歳出報告において、これらの自由化を恒久化するとともに、その対象を英国映画協会、教会保全トラスト（Churches Conservation Trust）、ヒストリック・イングランドにも拡大した。

この自由化パッケージに盛り込まれた措置としては、中央の調達プロセスへの参加・不参加を公的機関が柔軟に選べるようにすることや、過去に生じた蓄えを使うことの許可、政府からの助成金以外の収入を投資する権限、昇給率に対する1%の制限の撤廃といった、経済的自由などがある。

【右囲み】

公的機関改革

2010年から15年にかけて、政府は文化セクターにおける公的機関の数を削減した。これには主に、機関を廃止し、その機能を既存の他機関へ移管するという手段が取られた。公共セクターから除外された機関は次の通りである。

- 歴史的沈没船遺跡諮問委員会（Advisory Committee on Historic Wreck Sites）
- 国有歴史的船舶諮問委員会（Advisory Committee on National Historic Ships）
- 政府アート・コレクション諮問委員会（Advisory Committee on the Government Art Collection）（専門家委員会として再設立）
- 図書館諮問評議会（Advisory Council on Libraries）
- 建築都市環境委員会（Commission for Architecture and the Built Environment）
- 法定納本諮問委員会（Legal Deposit Advisory Board）
- 博物館・図書館・文書館国家評議会（Museums, Libraries and Archives Council）
- パブリック・レンディング・ライト（Public Lending Right）
- UKフィルム・カウンシル（UK Film Council）

さらに、マンチェスター科学産業博物館は、サイエンス・ミュージアム・グループ（Science Museum Group）の傘下に入った。

上：科学産業博物館

p.57

改革は、文化セクター全体に拡大する必要がある。我々には、地域レベルで文化サービスを実施するための新たなモデルが必要である。そうしたモデルによって地域文化の持続可能性を保護できることを、多くの団体が証明している。

強力で先見性のあるリーダーシップとガバナンスが、あらゆる文化団体に備わっていることは不可欠である。団体や資金調達の環境の変化に応じて、リーダーや理事達には然るべきスキルと経験が必要になる。

リーダー層がいかに多様化される必要があるのかについては、すでに述べてきた。これは、理事会にも当てはまるはずである。理事もまた、ファンドレイジングのスキルや商業的

スキル、デジタルスキルといった具体的なスキルに基づいて選ばれるべきである。政府は、助成対象機関における良きガバナンスを確保する上で担っている重要な役割を果たすために、理事会のメンバーを任命し、また、機関を運営する上で外れてはならない財務や管理のフレームワークを設定している。

我々は2016年度、アーツカウンシル・イングランドと文化遺産宝くじ基金を対象としたテイラード・レビューを実施する予定である。これらの報告では例えば、文化セクターを支援する上で役割を各団体がどのように遂行しているのか、ヒストリック・イングランド及びVisitEngland（ビジットイングランド）とどのように協力・連携しているのか、地方自治体その他のパートナーとどのように連携しているのかなどについて検討する。

我々はまた、博物館・美術館セクターを対象とした広範囲にわたる報告も実施する予定である。この報告では、同セクターを育てる上で政府、アーツカウンシル・イングランド及び文化遺産宝くじ基金が果たすべき役割や、本ホワイト・ペーパーのテーマを支える上で博物館・美術館が果たすべき役割など、国家インフラをめぐる大きな問題について検討する。さらに、政府から直接助成を受ける博物館・美術館について、また、地域・地方の博物館・美術館が直面する課題と機会についても考察する。

【右上囲み】

博物館・美術館報告

博物館・美術館及びギャラリーは人気がある。調査『テイキング・パート』によれば、成人の半数以上（51.6%）は2015年9月までの1年間で博物館・美術館またはギャラリーに足を運んでいる。博物館・美術館及びギャラリーは全国の人々を刺激して魅了し、その卓越性は国際的に評価されている。

我々は、多種多様な博物館・美術館に関して、どのような成功を収め、どのような志を持ち、本ホワイト・ペーパーのテーマに最大限に寄与することを妨げかねないどのような障壁を抱えているのかについて、大量のエビデンスを得ている。そこで、博物館・美術館を個別に検討することを決定した。今後、アーツカウンシル・イングランド及び文化遺産宝くじ基金と緊密に連携して、国、地方、地域の博物館・美術館を対象とした広範囲にわたる報告書を作成する予定である。そのために、ふさわしい時期を迎えた。我々が博物館・美術館セクターの分析を最後に行ってから10年以上が経過し、状況は当時から大きく変化している。

この報告は3つの柱から構成され、以下の点に着目する予定である。

— 博物館・美術館のための国家インフラをめぐる大きな問題：博物館・美術館のための国家インフラとはどのようなものなのか。どのようなものであるべきで、どのようなものになる可能性があるのか。それを育てる上で、政府、アーツカウンシル・イングランド、文化遺産宝くじ基金が担う役割とは。イングランドのインフラは、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドのインフラとどのように関係するのか。本ホワイト・ペーパーのテーマに対して成果を出す上で、博物館・美術館が担う役割とは。

— 政府から直接助成を受ける博物館・美術館：中核的な助

成に対してどのような成果で応えるべきなのか。他の博物館・美術館との協力・連携をどのように改善できる可能性があるのか。

— 地域及び地方の博物館・美術館：課題と機会。これらの博物館・美術館同士がさらに緊密に連携するにはどのような方法が考えられるのか。政府から直接助成を受けていない博物館・美術館を支援する上で、アーツカウンシル・イングランドと文化遺産宝くじ基金が担う役割。

本ホワイト・ペーパーのテーマは、この報告の3つの柱すべてにまたがるもので、シェアードサービス、保管、デジタル化、レジリエンスに特に重点が置かれる予定である。

この報告では保管に関して、アクセスしやすい共用の保管施設を増やす余地についてだけでなく、ロンドンに保管されている文化財が別の地域で展示される機会を増やすことを確かなものとするために何ができるのかも検討する。

この報告は2016年度中に完了する見込みである。

博物館・美術館は、我が国という王冠の宝石であり、我々は、博物館・美術館がそのような存在であり続けることを確実にしたいと考えている。また、可能な限り最適な場所に設置していくことで、アクセス、場づくり、ソフト・パワーに対する我々の志を支え続けてもらう。

【右下囲み】

我々が実行すること

2016年度、アーツカウンシル・イングランドと文化遺産宝くじ基金を対象とした、テイラード・レビューを実施する。

イングランドの博物館・美術館を対象とした報告を作成する。

p.58

付録1

インパクトの測定

【中央上囲み】

この測定のフレームワークのねらいは、文化の価値に関するエビデンスを集約することと、より多くの人々が——その属性や居住地のいかんにかかわらず——文化の恩恵を享受することを可能にするという我々の目的の達成度を測定することである。

【本文】

この測定のフレームワークには、文化の本質的、社会的、経済的便益に関連した指標が盛り込まれている。第4章「文化への投資、レジリエンス、改革」については、アウトカム指標は存在しない。というのも、文化機関が繁栄してこそ、我々は第1～3章で示された成果を達成できるからである。例えば、持続可能な文化団体が存在しなければ、文化に関わることでウェルビーイングに対してもたらされる便益を人々は体験できないだろう。

文化は、これらの成果に対して国レベルでインパクトを与える唯一の要因というわけではない。インパクトを文化政策に帰するには、文化が各地域で具体的にどのようなインパクトを生んでいるのかを証明しなければならない。現時点で、こ

のインパクト評価の土台となる理解が最も強固なのは、経済発展の領域である。個人的なウェルビーイング、学歴、人生の可能性、ソフト・パワーの領域については、文化が生む具体的なインパクトの測定法を改良すべく、さらなる努力が必要である。こうしたエビデンスの一部は、本文書で提案したスキームを評価することによって得られるだろう。とりわけウェルビーイングに関しては、我々はさらなるエビデンスを集めることを確かなものとするつもりである。政府とその公的機関は、数あるイニシアチブの中でも特に、新設されたホワット・ワークス・センター・フォー・ウェルビーイング (What Works Centre for Wellbeing) と連携して、こうしたギャップを埋めることを目指す。

p.59

第1章

人生の出発点がどのようなものであろうとも、あらゆる人が、文化が提供する機会を享受できるようにしなければならない

アンビション

すべての人の生活を豊かなものにする

【右上表】

(029 頁参照)

【右下表】

(029 頁参照)

【左下注記】

略語の説明

ONS：国家統計局 (Office for National Statistics)

DCMS：文化・メディア・スポーツ省 (Department for Culture, Media & Sport)

BAME：黒人及びエスニック・マイノリティ (Black and Minority Ethnic)

p.60

第2章

我が国の文化の豊かさは、その恩恵を国中のコミュニティにもたらすものでなければならない

アンビション

コミュニティの繁栄

【右上表】

(029 頁参照)

【右下表】

(029 頁参照)

【左下注記】

略語の説明

ONS：国家統計局 (Office for National Statistics)

DCMS：文化・メディア・スポーツ省 (Department for Culture, Media & Sport)

GVA：粗付加価値 (Gross Value Added) (すなわち、英国経済に対する文化の貢献額)

RSA：王立芸芸協会 (Royal Society for the encouragement of Arts, Manufactures and Commerce)

p.61

【ページ上半分】

第3章

文化には、我が国の国際的地位を高める力がある

アンビション

英国に対する評価を高める

【右上表】

(030 頁参照)

【右下表】

(030 頁参照)

【左下注記】

略語の説明

SP30：ポートランド・コミュニケーションズ「ソフト・パワー30」指数 (Portland Communications Soft Power 30 Index)

Anholt NBI：Anholt (アンホルト) 国家ブランド指数 (Anholt Nations Brand Index)

DCMS：文化・メディア・スポーツ省 (Department for Culture, Media & Sport)

ALBs：外郭団体 (Arms Length Bodies) (この文脈ではDCMSのALBsを指す。例えば、アーツカウンシル・イングランド、ヒストリック・イングランド)

【ページ下半分】

第4章

文化投資、レジリエンス、改革

アンビション

文化機関を繁栄させる

【右上表】

(030 頁参照)

【右下表】

(030 頁参照)

【左下注記】

略語の説明

DCMS：文化・メディア・スポーツ省 (Department for Culture, Media & Sport)

NPO：National Portfolio Organisation (アーツカウンシル・イングランドが助成)

NPM：National Portfolio Museum (アーツカウンシル・イングランドが助成)

DCLG：コミュニティ・地域自治省 (Department for Communities and Local Government)

p.62

インパクトの評価

【左囲み】

本ホワイト・ペーパーで我々は、「文化的市民 (Cultural Citizens)」プログラムの新設を提案する。その目的は、恵まれない環境で生まれ育ったとしても、質の良い文化体験をする子供や若者の数を増やすことである。

【p.59 右上表】

アウトカム（成果）指標	
主観的なウェルビーイングの向上（ONSの4つの指標）	<i>Taking Part</i> （全国的指標）またはONSの人口調査（地域的指標のために）
教育または職業実習を受けている16～18歳の人数の増加及び教育、雇用、訓練のいずれにもない16～18歳の人数の減少	教育省：教育、雇用または訓練への参加に関する統計
失業率の低下	<i>Labour Force Survey</i>

【p.59 右下表】

アウトプット（活動）指標	
成人・子供全体のうち、過去12カ月間で文化に関わった人の割合の増加	<i>Taking Part</i>
成人全体のうち、過去12カ月間で文化にデジタルな方法に関わった人の割合の増加	<i>Taking Part</i>
恵まれない集団及びBAME層出身の成人のうち、過去12カ月間で文化芸術に関わった人の割合の増加	<i>Taking Part</i>
低所得層出身の子供・若者のうち、文化に関わった人の割合の増加	子供の参加に関する新しい指標
文化団体で活動するボランティアの人数の増加	<i>Taking Part</i> （新規）
文化セクターの雇用者数の増加	文化セクターの雇用者数に関するDCMSの統計（新規）
文化団体が雇用する職業実習生の人数の増加	助成機関に報告されたデータ（新規）
文化団体の理事を務めるBAME（及びその他の恵まれない集団）の人数の増加	

【p.60 右上表】

アウトカム指標	
主観的なウェルビーイングの向上（ONSの4つの指標）	<i>Taking Part</i> （全国的指標）またはONSの人口調査（地域的指標のために）
経済成長率の上昇	国内総生産（GDP）の変化に関するデータ
貧困状態にあると定義される世帯の割合の減少	<i>Family Resources Survey</i>
失業率の低下	<i>Labour Force Survey</i>

【p.60 右下表】

アウトプット指標	
文化のGVAの増加	文化のGVAと雇用に関するDCMSの統計（新規）
所属するコミュニティへの帰属感の向上	<i>Understanding Society</i>
ボランティア活動（種類不問）をする人の割合の増加	<i>Understanding Society</i>
文化団体で活動するボランティアの人数の増加	全国については <i>Taking Part</i> （新規）、ただし地域については個別の調査が必要
文化セクターの雇用者数の増加	文化セクターの雇用者数に関するDCMSの統計（新規）
文化を中心に据えた地域計画の増加	2016年度にGreat Placeスキームへの申請を通過した12件
文化遺産主導の再生の増加	Heritage Action Zoneプログラムにおいてヒストリック・イングランドが特定し、3年～5年間運営される予定の「ヘリテージ・アクション・ゾーン」4～5カ所
「リスクにさらされた」遺跡の数の減少	ヒストリック・イングランドの <i>Heritage At Risk</i> リスト
文化遺産を最大限に活用している場所の数の増加	RSAのHeritage Index：下位の場所のスコアの改善
文化団体のうち、既存の記録または展示をデジタルで（ソーシャルメディアプラットフォームまたは団体自身のウェブサイト）利用できるようにしている団体、同時配信またはライブストリーミングを行っている団体、及び実際の展覧会のインタラクティブな見学ツアーをオンラインで提供している団体の割合の増加	<i>Digital Culture Research programme</i>

【p.61 上半分 右上表】

アウトカム指標	
ソフト・パワーに関する英国のランキングを上昇させるか維持する	SP30 または Anholt NBI

【p.61 上半分 右下表】

アウトプット指標	
文化面でのソフト・パワーに関する英国のランキングを上昇させるか維持する	SP30
文化交流の数の増加	The Culture Diary に掲載されるイベントの増加
英国文化の輸出数の増加	ALBs と協力して新たに収集するデータ（新規）
英国文化の輸出額の増加	DCMS の Creative Industries economic estimates
「文化保護基金」の初年度のマイルストーンを達成する *これらのマイルストーンを達成後、アウトプットの指標をさらに策定する予定	同基金の3つの成果（文化遺産保護、訓練・能力開発、擁護・教育）を網羅した、しかるべき既存文化遺産保護プロジェクトを策定・強化する。 革新的な新規プロジェクトの実行可能性について綿密に計画するプロジェクトを支援することで、文化遺産保護を通じて開発途上国の社会・経済的福祉を促進させることを目指す。

【p.61 下半分 右上表】

アウトカム指標	
独自のアウトカム指標なし：本章のアウトプットは第1～3章のアウトカム指標を支える	

【p.61 下半分 右下表】

アウトプット指標	
公的助成を受けている文化団体に対する公的助成以外の出資額の増加	チャリティによる寄付に関するDCMSの指標、NPO・NPMに関するアーツカウンシル・イングランドのデータ
ロンドン以外の文化団体に対する民間の出資額の増加	チャリティによる寄付に関するDCMSの指標、アーツカウンシル・イングランドのデータ、アーツ・アンド・ビジネスによる文化投資に関する調査の最新版（新規）の組み合わせ
ロンドン以外の文化団体に対する出資額全体の増加	チャリティによる寄付に関するDCMSの指標、アーツカウンシルのデータ、DCLGのデータ、アーツ・アンド・ビジネスによる文化投資に関する調査の最新版（新規）の組み合わせ
減税を受ける文化団体の数の増加	HMRCのクリエイティブ産業に関する統計
文化財寄付控除のスキームを通じて寄付された文化財の数及び金額の増加	アーツカウンシル・イングランド：文化財寄付控除のスキームと文化財寄付による相続税控除に関する報告書

【中央上囲み】

一部のハイレベルの成果に文化が与えるインパクトを理解するには、さらなる努力が必要である。とりわけ、主観的なウェルビーイングと、若者の学力及び人生の可能性に対しては然りである。本文書に概略を示した多数の提案のインパクトを測定する個別仕様の評価を行えば、このエビデンス基盤は大幅に拡大することだろう。

【本文】

「文化的市民」プログラム
本ホワイト・ペーパーで我々は、「文化的市民（Cultural Citizens）」プログラムの新設を提案する。その目的は、恵まれない環境で生まれ育ったとしても、質の良い文化体験をする子供や若者の数を増やすことである。このスキームのインパクトを測定するには、「イン・ハーモニー」を全国的に評価するためにすでに実施している評価と同様の個別仕様の評価を行う必要がある。そのような評価では、文化に関わる

若者の人数の変化を考慮するが、そのインパクトについて検討する際には、参加者の学歴、将来に対する意欲、自己効力感（セルフ・エフィカシー）などの自信や能力に関する自己申告の指標も利用する。変化がスキームに帰するものかどうかを評価するためには、スキームを少数の地域で試験実施した上で、試験に参加しない「コントロール」地域と比較対照する必要があるだろう。個別仕様の調査は、提案した指標に関する試験実施地域とコントロール地域のデータを、ベースライン時点とスキーム実施後の定期的な間隔を置いた時点で入手して、経時的変化を評価するために利用することになる。測定する指標としては、学力の水準、文化へのエンゲージメントの水準、教育を終えた後の進路に関する意向、自己効力感の水準などが考えられる。

グレート・プレーススキームとヘリテージ・アクション・ゾーン
新たなグレート・プレーススキームとヘリテージ・アクション

ン・ゾーンのインパクトの測定にも、オーダーメイドの評価が必要である。グレイト・プレーススキームは当初、12の地域で試験実施される予定であるため、これを利用すれば、試験実施地域の成果をスキームに参加しない類似の地域と照らし合わせて検討することで、スキームのインパクトを確実に評価できるだろう。我々は、同様の試験的アプローチをヘリテージ・アクション・ゾーンでも採用することを提案する。オーダーメイドの評価を行えば、それぞれの地域でスキームのインパクトを見極めるために使用される成功基準を、その地域に合わせて部分的に調整することも可能になるだろう。これは、このスキームの目的が地域ごとに異なり、それぞれの地方自治体の優先事項に基づいて決定されるものであるという点を踏まえると、不可欠なことである。ただし、この評価では以下に挙げる指標（アウトカム指標の案全体にも盛り込まれている）の一部または全部を利用する可能性が高く、これらの指標については、地方自治体レベルで報告を行うことを可能にするデータがすでに十分に収集されている。

— 個人的なウェルビーイング（年次人口調査 [Annual Population Survey]

— 失業率（労働力調査）と地域経済成長率（各地域のGVA評価額）の両方またはいずれか

— 地域への帰属意識とボランティア活動への参加率（アンダスタンディング・ソサイエティ [Understanding Society]²⁴⁾

— 貧困世帯（住宅費控除後所得の中央値の60%未満と定義）の割合（家庭資源調査 [Family Resources Survey]

p.63

政府はさらに、様々な文化機関と連携して、ウェルビーイング評価と仮想評価の手法を利用する予定である。これらの手法は、芸術・人文学研究会議が最近発表した報告書において、自然史博物館とテート・リバプールの経済的価値²⁵⁾を測定するために試行しているものであり、その目的は、当該の団体が利用者而非利用者両方のウェルビーイングと生活の質にどのようなインパクトを与える可能性があるのかを、より適切に測定することである。

英国文化都市

「英国文化都市」と「欧州文化首都」のインパクトはいずれも、オーダーメイドの評価を通じて「インパクト08 (Impacts 08)」に合わせて評価する予定である。ただし、成功の指標は、グレイト・プレーススキームの評価用に提案したのと同じ指標に、観光客数の増加と、当該地域への経済効果を加えたものになる可能性が高い。

【中央上囲み】

新たなアウトプット指標の策定

一部のケースでは、表に「新規」と注記されているように、新たなアウトプット指標を現時点で策定中であるか、これから策定する必要がある。

子供の関与

文化に対する子供全体の関与は、既存の調査『テイキング・パート』で測定可能である。しかし、低所得層出身の子供の参加状況の変化を正確に分析するために、政府はアーツカウンシル・イングランドと連携して、子供の関与と参加状況に

関するデータ源を新たに開発する予定である。この新たなデータを利用すれば、層別や地域別に参加状況を分析できるようになる。

職業実習制度

政府は、アーツカウンシル・イングランド、ヒストリック・イングランド及び文化遺産宝くじ基金と連携して、これらの機関から助成を受けている団体が、それぞれの団体に雇用している職業実習生の人数を報告することを徹底させる。

理事会の多様性

アーツカウンシル・イングランドはすでに、そのNational Portfolio OrganisationsとNational Portfolio Museumsに対し、多様性に関するデータの報告を義務付けている。政府はヒストリック・イングランドと連携して、文化遺産団体も同様の報告を行うことを徹底させる。

文化及び文化遺産セクターのボランティア活動

ボランティア活動に関する『テイキング・パート』の現行の指標では、ボランティア活動の水準が他の多くの調査に比べて低く示されている。なぜそのような結果が出るのかを調査したところ、質問の仕方に問題がある可能性があることが分かった。我々は現在、この質問の仕方について報告と修正を進めているところであり、これによって今後、文化及びスポーツセクターのボランティア活動に携わる人の割合に関するデータの正確性は大幅に高まるはずである。

文化及び文化遺産セクターのGVAと雇用

我々は国家統計局と連携して、文化セクターの経済的価値(GVA)と雇用者数に関する新たな統計を発表することを目指している。というのも、このような情報は現在、クリエイティブ産業に関して発表されている統計では入手できないからである。最初の発表は2016年7月を予定している。

【脚注】

24) これは、あらゆるボランティア活動に関する指標である。『テイキング・パート』で使用されている文化セクターのボランティア活動に関する指標のサンプルサイズは、地域自治体レベルのボランティア活動について報告するには不十分である。したがって、文化セクターにおけるボランティア活動に関する何らかの指標をこの評価に盛り込む場合は、オーダーメイドの調査が必要になるだろう。

25) <http://www.ahrc.ac.uk/newsevents/news/economicvaluereport/>

p.64

文化輸出の件数

『DCMSクリエイティブ産業経済評価』は、文化サービスの輸出額については報告しているが、輸出される各種のサービスの件数は扱っていない。したがって我々は、政府が助成する機関と連携して、このデータを報告する必要がある。

文化投資に関する情報：ロンドン対その他の地域

文化団体に対する全体の総投資額に関するデータを報告するために、文化・メディア・スポーツ省、アーツカウンシル・イングランド及びコミュニティ・地域自治省のデータをひとつにまとめる必要がある。この報告は地域レベルで行うことができ、したがって、ロンドンを国内の他の地域から切り離すことができるだろう。

文化団体への民間投資に関する地域レベルのデータについて

は、アーツカウンシル・イングランドによる「文化への民間投資 (Private Investment in Culture)」に関する調査を利用する予定である。初回の調査結果は、2016 年秋に入手できる見込みである。

p.65

【写真キャプション】

ブリストル国際バルーン・フィエスタ (Bristol International Balloon Fiesta)

p.66

付録 2 協議先一覧

【中央上囲み】

2015年8月から2016年2月にかけて、政府は多数の団体・個人と協議し、本ホワイト・ペーパーの作成に向けて情報を収集した。

【本文】

ロンドン、バーミンガム、ギルフォード、リバプール、マンチェスター、ノッティンガム、ニューカッスル、ピーターバラ、シェフィールドで、円卓会議を実施した。また、文化外交、多様性、文化遺産、助成、イノベーション、若者といった、特定の話題に関する円卓会議も設けた。

円卓会議には計 232 団体の代表者からの参加を得た。また、書面による意見提出 63 件と、オンラインディスカッションへの意見投稿 87 件を受領したほか、多数の団体と個別に面談し、協議を行った。

スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの地域分権政府とも協議した。

協議への参加者各位に感謝の意を表する。

【中央下囲み】

232

円卓会議には計 232 団体の代表者からの参加を得た。

【本文】

協議に参加した団体・組織：

A

Action for Children's Arts, ACEVO, Action Transport Theatre, Active Northumberland, AIM, Aldeburgh Music, All Party Parliamentary Group on Arts, Health and Wellbeing, A New Direction, Archaeology Forum, Architectural Heritage Fund, ARC, Stockton Arts Centre, Artiscape Magazine, Arts and Business, Artscape, Arts Council England, Arts Development UK, Arts in Criminal Justice, Artsworld Limited, Artsy, Assemble Studio, Association of British Orchestras, Association of Local Government Archaeological Officers (England)

B

Baby People, bait - Northumberland Creative People and Places, Bank of America Merrill Lynch, Barbican, Baring Foundation, BBC, Beamish, Beam, Farrells and the Place Alliance, Belgrade Theatre, Ben Uri Gallery,

Big Lottery Fund, Big Society Capital, Birmingham Arts, Birmingham Hippodrome, Birmingham Museums Trust, Birmingham Royal Ballet, Black Country Living Museum, Bluecoat, Bradford Museums and Galleries, Bridges, Brighton and Hove Council, Bristol Museums, British Council, British Film Institute, British Land, British Library, British Museum, British Property Association, B Sharp

p.67

C

Cambridge City Council, Canals and Rivers Trust, Cardboard Citizens, Cardiff Council, Children and the Arts, City of Birmingham Symphony Orchestra, Chartered Institute for Archaeologists, Cheshire East Council, Chief Cultural and Leisure Officers Association, Children's Media Foundation, Churches Conservation Trust, Church of England, Circus Central, City Bridge Trust, Civic Voice, Clore Duffield Foundation, Cockpit Arts, Colchester Mercury Theatre, Collective Encounters, Colston Hall, Coney, Conservatoire for Dance and Drama, Contact Theatre, ContactMCR, Contemporary Visual Arts Network, Council of British Archaeology, Council of British Archaeology London, Countryside Land and Business Association, Crafts Council, Creative England, Creative Industries Federation, Creative Industries Finance, Creative Scotland, Crowdfunder, Cultural Commissioning Programme, Cultural Learning Alliance, Curious Minds, Curve (Leicester Theatre Trust)

D

Dada, Dance City, Dance East, Dance 4, Dance UK, Dazed, Department for Culture, Media & Sport Science Advisory Council, Derby Museums Trust, Donald Insall Associates, Durham County Council, Durham University

E

East Riding Museums, English Heritage, English National Ballet, English National Opera, Esmée Fairbairn Foundation, Everyman and Playhouse

F

Foundation for Art and Creative Technology (FACT), Family Holiday Association, Farnham Maltings Association Ltd, Fertile Ground Dance Company, Foyle Foundation, Future Arts Centres, Future Everything

G

Galleries of Justice, Gagosian Gallery, Garden of Ideas, Gate Theatre, Gateshead College, Gateshead Council, Google Cultural Institute, GPS Culture, Graeae Theatre Company, Greater London Authority, Greater Peterborough and Cambridgeshire Local Enterprise Partnership, Gulbenkian Foundation, Guy's and St. Thomas' Charity

H

Halle Orchestra, Hampshire Cultural Trust, Hannah Barry Gallery, Heart of Glass, HEI, Heritage Alliance, Heritage Lottery Fund, High Peak Borough Council,

Historic England, Historic Houses Association, Historic Royal Palaces, Historic Towns Forum, HomeMCR, Honor Frost Foundation, Horniman Museum and Gardens

I

ICOMOS, Idea Motel, Imperial War Museums, Institute of Historic Building Conservation, INTOFILM, Ironbridge Gorge Museum Trust, Independent Theatre Council

J

Jerwood Charitable Foundation, John Ellerman Foundation, Joint Committee National Amenity Societies, Joint Nautical Archaeology Policy Committee

K

Kent County Council, Kettle's Yard, Kids in Museums, Kirklees Museums and Galleries

p.68

L

Lake District National Park Authority, Leeds Museums and Galleries, Legacy West Midlands, Leicester City Council, Leicester and Leicestershire Local Enterprise Partnership, LIFT, Line, Live Theatre, Liverpool Biennial, Liverpool City Council, Liverpool John Moores University, Liverpool Museums, Liverpool Sound City, Local Government Association, London Contemporary Music Festival, London Councils, London Symphony Orchestra, Luckley House, Luton Culture

M

mac, Magna Vitae, Manchester City Galleries, Manchester International Festival, Merseyside Dance Initiative, Mighty Creatives, Metal, MUBI, Museums Association, Museum of English Rural Life, Museums Sheffield

N

National Gallery, National Glass Centre/University of Sunderland, National Museums Directors' Council, National Museum of the Royal Navy, National Museums Liverpool, National Theatre, National Portrait Gallery, National Trust, Natural History Museum, NESTA, New Adventures & Re:Bourne, New Art Exchange, NIE Theatre, Norfolk Museums Service, North Lincolnshire Museums Trust, Northamptonshire County Council, Northern Stage, Northumberland County Council, North East Culture Partnership, Nottingham Contemporary

O

Orange Tree Theatre, Oxford University Museum of Natural History

P

Place Alliance, Paul Hamlyn Foundation, Participation People, Peckham Platform, Peel Holdings, Penlee Art Gallery and Museum, People's History Museum, Peterborough City Council, Peterborough 900, Prince's Regeneration Trust, PRS Foundation for Music

R

RAF Museum, Ratesetter, Reality Productions, Remix Summits - Global Summit for Culture, RESCUE - the British Archaeological Trust, Rifco Arts, Romantic Novelists' Association, Roundhouse, Royal Albert Memorial Museum, Royal Armouries, Royal Liverpool Philharmonic Orchestra, Royal Museums Greenwich, Royal Opera House, Royal Pavilion and Museums, Royal Shakespeare Company, Royal Society for the Encouragement of Arts, Manufactures and Commerce, Rural Media Company, Rutland County Council

S

Sadler's Wells, Save Our BBC, Scarborough Museum Trust, School of Fish, Science Museum Group, Seachange, Second Home, Secret Cinema, Sheffield City Council, Sheffield Industrial Museums Trust, Sheffield Theatres, Sheffield University, Shuffle Festival, Society of Antiquaries, Society of Authors, Society of London Theatre, Southbank Centre, Station 12 - Venture Capital, Stockton Council, Suffolk County Council, Surrey Arts (Surrey County Council)

T

Tate, Tate Liverpool, Thackray Medical Museum, The National Archives, The NewBridge Project, The Place, Town Hall - Symphony Hall Birmingham, The Theatres Trust, Tullie House Museum and Gallery Trust, Turner Contemporary, Tyne and Wear Archives Museums, Tyneside Cinema

U

UK Association of Preservation Trusts, UK Music, UNESCO, University of Cambridge Museums, University of Hertfordshire Galleries, University of Kent, University of Liverpool, University Museums Group, University of Oxford, Unlimited Productions

V

V&A, Vivacity Peterborough, Voluntary Arts

W

Wakefield Museums, Warwick Commission, Whizzkidz, Wigmore Hall, Woodhorn Charitable Trust, Workers' Education Association, Writers' Centre Norwich

Y

York Archaeological Trust, York Museums Trust, Young Patrons of the Royal Academy, Young People in the Arts, Young Vic Theatre, Youth Dance England

p.69 (裏見返し)

Image credits

Cover : Southbank Centre/London Music Masters Bridge Project, p4 : APEX/The Eden Project, p7 : VisitBritain/Pawel Libera, p8 : Royal Shakespeare Company/Rob Freeman, Southbank Centre/Belinda Lawley, p9 : The British Museum/Benedict Johnson, Yorkshire Sculpture Park/Jonty Wilde, Hull UK City of Culture 2017/ Lorne Campbell/Guzelian, p10 : National Theatre/ Brinkhoff

Mogenburg, Historical Royal Palaces, Shakespeare Lives/
Zoya Ignatova, p11 : Heritage Lottery Fund/Jim Wile-
man/UNP, English Heritage, The British Museum/David
Ilf, p12 : Shakespeare's Globe/Cesare De Giglio, p13 :
Access All Areas/Stuey Burnett, The Reading Agency/
Dave Warren Picture Team 2015 for The Reading Agency
and with thanks to Southwark Libraries, Canada Water
Library and the children from Alfred Salter Primary
School, p16 : DanceSyndrome/William Fisher, p17 :
2015 Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc/Danjaq, LLC/
Columbia Pictures Industries, Inc/Jonathan Olley, p18 :
Stopgap Dance Company/Chris Parkes, p21 : National
Youth Music Theatre/Matt Hargraves, p22 : Royal
Shakespeare Company/Rob Freeman, p25 : Creative &
Cultural Skills/Warren Page, p26 : The Chineke! Foun-
dation/Eric Richmond, p28 : Derby Theatre/Robert
Day, p31 : Sage Gateshead/Mark Savage, VisitBritain/
Britain on View, p33 : Hull UK City of Culture 2017,
p34 : Spike Island/ Stuart Whipps, p36 : English Her-
itage, p37 : The Churches Conservation Trust, p38 :
National Theatre/Johan Persson, p40 : UK Trade &
Investment/Crown Copyright, p42 : VisitBritain/Britain
on View, p45 : UK Trade & Investment, p47 : English
Heritage, p48 : Minack Theatre/VisitBritain/Britain on
View, p51 : Paul Hamlyn Foundation/Courtesy Theatre
Royal Stratford East, Carlos Delgado; CC-BY-SA, p53 :
The National Archives, p54 : VisitBritain/Britain on
View, p56 : Museum of Science and Industry/Jonty
Wilde, p65 : VisitBritain/Rod Edwards

デザイン : red-stone.com

p.70 (裏表紙)

文化・メディア・スポーツ省

文化・メディア・スポーツ省
4th Floor, 100 Parliament Street
London SW1A 2BQ
www.gov.uk/dcms

表紙

アーツカウンシル・イングランド

GREAT ART AND CULTURE FOR EVERY-ONE

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を
10年戦略フレームワーク

2010-2020
第2版 2013年改訂

本文偶数ページ共通：ヘッダ

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

p.1

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

目次

p.02
文化芸術のビジョン

p.04
『あらゆる人に素晴らしい文化芸術を』達成に向けて

p.08
10年戦略フレームワーク

p.12
私たちの組織と活動

p.22
現状

p.38
私たちの戦略目標

p.62
結論

第2版-2013年改訂

p.2

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

文化芸術の ビジョン

第1章

p.3

文化芸術のビジョン

サー・ピーター・バザルジェット (Sir PETER BAZALGETTE)

2013年10月

なぜ10年戦略フレームワークが作られたのでしょうか。私たちアーツカウンシル・イングランドは、芸術、博物館・美術館、図書館を支援し、発展させるためにあります。公的な投資 (investment) を管理し、そこから最大の価値を引き出す責任があるのです。例えば、文化芸術がもたらす啓発とエンターテインメント。生活を豊かにし、教育に活気を与えること。健康とウェルビーイングに不可欠な貢献、地域再生・観光・海外事業の推進。こうしたすべてを網羅するような目標を設定し、実現するための戦略を、これから詳しく説明していこうと思います。当初のフレームワーク公開から3年経ち、戦略が改訂されたのは喜ばしいことです。

すべての納税者、宝くじ購入者、寄付者、読者、演劇の後援者、コンサート愛好者は、世界に通用する私たちの文化芸術のステークホルダーと言えます。つまり、この戦略フレームワークは、私たち皆にとってのマニフェストであると同時に、実行計画でもあるのです。公的資金への圧力が高まる中、文化芸術団体は、オーディエンスを魅了し、新たな収入源を獲得するための、今までにないアプローチを必要としています。冴えわたるクリエイティブなアイデアや、鋭い方向感覚、市場を見抜く力で、アーティストは私たちの生活に変化を与え続けてくれると確信しています。

p.4

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

『あらゆる人に 素晴らしい文化芸術を』の達成に向けて

第2章

p.5

『あらゆる人に素晴らしい文化芸術を』の達成に向けて

アラン・デイヴィ (ALAN DAVEY)

2013年10月

2010年に『あらゆる人に素晴らしい芸術を (Achieving great art for everyone)』、通称『ピンクブック』を発表した当時、10年のフレームワークを設定することに懐疑的な人達もいました。世界は変わってしまうものだからと。このフレームワークが、10年間も通用するものであり続けられるだろうかという疑問を呈したのです。

確かに、その通りです。私は、世の中が変化するということを理解した上で、芸術に関する一連のアンビションを明確にし、共有したいと思ったのです。予算の引き締めが発生し、

そしてテクノロジーというものが、アーティストの活動の仕方やオーディエンスの関わり方を変えていくであろうと思っていました。それを見据えた上で、私たちは嵐の中を航海に出たわけです。無事に成し遂げるためには、本当に重要なことに焦点を合わせ、進路を決めなくてははいけません。それは、アーティストのアンビション、オーディエンスの好奇心と渴望です。

振り返ってみれば、このフレームワークの最初の3年間は、緊縮財政とチャレンジの時でした。芸術に携わる人は皆、仕事や作品を存続させるために、できる限りの創意工夫を凝らさなければなりません。そして、それは功を奏したのです。2012年のオリンピックとパラリンピック関連の壮大な文化の祭典を思い返してみてください。また他方では、サム・カーター (Sam Carter) のようなフォークアーティストが頭角を現し、その才能、つまり絶妙にチューニングされた創造性が育っていったのです。

p.6

こうして、芸術がもたらす癒しや、芸術の挑戦が、地元の数百の、そして世界中の何百万もの人々に届けられました。

しかし同時期に、別の変化もありました。行政上のありがちな変更のようであり、実は大躍進となる出来事です。アーツカウンシルは、博物館・美術館と図書館を発展させる責務に加え、文化財保護に対する法的な責務も負うこととなりました。私たちが影響を及ぼすことのできる範囲は、イングランド内のより多くの場所へと拡大しました。私たちの活動に、意義深いレイヤーがまた新たに加わったのです。

既存のフレームワークは、私たちの責務の一部しか扱っていませんでした。暫定的な処置として、私たちはエステル・モリス (Estelle Morris) を招聘し『あらゆる人に素晴らしい芸術を (Achieving great art for everyone)』という信条を、新たな担当責務にどのように適用していくか助言を求めました。その結果、発表されたのが『ブルーブック』と呼ばれる文書『文化、知識、理解 (Culture, knowledge and understanding)』であり、博物館・美術館の資産配分や、図書館のための包括的なアンビション設定の助けとなりました。

そして今、私たちが担う文化的な責務のすべてをひとつの文書にまとめる時がきました。10年のフレームワークを継承しつつ、より広い視野で文化を捉えた『あらゆる人に素晴らしい文化芸術を』をここに新たに発表します。中心に据えたのは、次のような戦略目標です。文化芸術を発展させ卓越したものとし、そのための適切な環境を、私たちや他の人々が作り出すこと。そして、できるだけ多くの人々が、どこにいても、文化芸術から刺激を受けられること。さらに、子供や若者が文化に触れることができ、オーディエンスあるいは才能を持ち将来性のある者が、文化から何かを得られることも重要です。こうした3つの主要な戦略目標に内在するのは、次の2つの目標です。文化提供モデルのレジリエンスを高めること。そして、リーダー層と従事者が、人口構成通りまさに多様となり、この国に素晴らしい芸術をもたらすにふさわしい才能を、支援できるようにすることです。

以上が、2020年までの文化に対するアンビションです。地域の劇場であれ、図書館や博物館・美術館であれ、文化に関連するセクターがアンビションを抱き続けられるよう、支援していきます。

p.7

そして、人々のエンゲージメントを得るために努力し、妥協策に甘んじることがないようにもしていきたいのです。芸術とは、未知なるもの、思いがけないものを発見する行為です。アーティストは、革新を続け、不可能を可能にします。博物館・美術館は、過去を理解し、未来を創造する手助けをしてくれるはず。図書館は、知識への渴望を満たす場所になるはず。文化施設は、逃げ込める場であり、刺激をくれる場でもあるために最善を尽くしていると、信頼されるようになるでしょう。

1946年に彫刻家のレイノルズ・ストーン (Reynolds Stone) によってデザインされたアーツカウンシルのオリジナルの印章には、魔法の森を歩くユニコーンの姿が描かれています。このようなロマンティックな紋章は、現在の実用主義的な時代にはそぐわないように思えるかもしれませんが。しかし私は、今こそ、かつてない程に、ユニコーンのような架空の生物が象徴する驚きの感覚が必要とされていると考えます。芸術は、この驚きの感覚を私たちに与えてくれます。未知の場所に私たちを連れていき、ひらめきを与え、不可能と思えるものも実現できることを教えてくれるのです。このフレームワークは、人間の創造力を拘束するものではありません。むしろ、クリエイティブな精神が自由に羽ばたくことのできる環境をつくりだすものになることを願っています。

芸術は、世界にはまだやるべきことがあるということを思い出させてくれる

マダニ・ユニス (Madani Younis)
ブッシュ・シアター 芸術監督

p.8

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

10年戦略 フレームワーク

第3章

p.9

10年戦略フレームワーク

イントロダクション

この文書は『あらゆる人に素晴らしい芸術を (Achieving great art for everyone)』(2010) 及び『文化、知識、理解 (Culture, knowledge and understanding)』(2011) で設定された、芸術、博物館・美術館、図書館のための私たちの戦略フレームワークを更新するものです。

この2つの文書は、アーティスト、文化芸術団体、社会やその他の様々なステークホルダーの視点を統合し、今後10年間の私たちの活動について明確で統一的な方向性を示す

ことで、文化芸術におけるパートナーシップと目標意識の共有を促すものでした¹⁾。『あらゆる人に素晴らしい芸術を (Achieving great art for everyone)』は、2012年4月から2015年3月までの期間における新しい運営助成ナショナル・ポートフォリオの、10億ポンド近い投資の基盤を形成しました。『文化、知識、理解 (Culture, knowledge and understanding)』は、ここ1年ほどの間の図書館開発イニシアチブ (Libraries Development Initiative) やグラント・フォー・ジ・アーツを含むスキームによる59の図書館のプロジェクトと、ルネッサンス・プログラムによる227の博物館・美術館に向けた投資の指針となりました。カルチュラル・オリンピアードに対しては、この2つの文書を通じて3,600万ポンドの投資を発表しました。投資は5,370の新しい芸術作品や委嘱作品の創作につながり、40,464人のアーティスト、6,160人の新進アーティスト、806人の聴覚またはその他の障害を持つアーティストが参加しました。

【脚注】

1) 「文化芸術 (arts and culture)」という用語は、芸術、博物館・美術館、図書館のすべてにおける私たちの総合的な責任を簡潔に意味する表現として使用しています。しかし、混乱を生じる可能性がある場合には、個々のセクターをすべて挙げました。

p.10

また、これらの文書は私たちの戦略的な事業助成についてもまとめています。例えば、文化芸術セクターにおける資金調達スキルを育成し、全国規模の巡回公演を支援する助成のことについてです。

『あらゆる人に素晴らしい文化芸術を』では、先行する文書のアンビションに基づき、私たちのミッションと5つの戦略目標に対する継続的なコミットメントを設定しています。また、各種の芸術とより幅広い文化セクターにおける私たちの責任を統合しています。何をもちて成功とするか、目標の達成度をどのように評価するかを説明しています。芸術と博物館・美術館に対する投資の根拠を提示し、今後の助成に関わる決定を報告します。さらに、図書館の戦略的育成における私たちの役割の案内書にもなるでしょう。

長期的で協調的な活動に焦点を当てたこの改訂版戦略フレームワークでは、アーツカウンシルがパートナーと共働するよう指示し、芸術、博物館・美術館、図書館に良い変化をもたらすことを目指します。このフレームワークは、イングランドのできる限り多くの人々によって、素晴らしい文化芸術が上演・提供され、生み出され、体験され、楽しんでもらえる状況を作る助けとなるでしょう。この文書により、私たちは最大の効果を上げる投資に重点的に取り組むことが可能となるでしょう。そして多様な利用者とのエンゲージメントを築く、世界に誇る博物館・美術館と素晴らしい図書館の発展を支えていくでしょう。また、このフレームワークの下、文化力の維持と強化に取り組んでいくことで、イングランドはこれからも世界を牽引する文化的な影響力を持つ存在であり続けられるでしょう。

公的投資の抑制がかけられている時期にあつて、このような長期的戦略目標を達成するには、アーツカウンシルと多くのパートナーとの緊密で協調的な努力が求められます。私たちは皆、活動のあり方に疑問を持ち、変えていく心構えをしなければなりません。

p.11

芸術とは、過去と現在、世界や感情を探求し、理解することを可能にする手段である。自ら芸術を行うことによっても、芸術を楽しむことによっても、あるいはその両方を行ってもそれが叶う。図書館、博物館・美術館、アーカイブは、何百年あるいは何千年という時を超え他者と共感できるという驚きを与えてくれる。これは、私たちが歴史や人間の有り様を理解し、そのどこに、どのように自分を位置付けるかを知る方法のひとつである。

マイケル・ローゼン (Michael Rosen)
アナウンサー、児童文学作家

p.12

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

私たちの組織と活動

第4章

p.13

アーツカウンシル・イングランドは、イングランドの芸術、博物館・美術館、図書館を対象とした全国規模の育成機関です。

私たちの「芸術」に対する権限は、ビジュアルアート、実演芸術、音楽、ダンス、演劇、文学など幅広いジャンルを対象としています。私たちには、地域の博物館・美術館を助成する責任と、図書館と広い意味での博物館・美術館セクターを育成する役割があります。文化・メディア・スポーツ省の出資により、芸術や博物館・美術館、図書館を含む幅広い文化を世の人々の日常生活になくしてはならないものとし、また、すべての人にアクセス可能なものとし、それらが国の経済及び社会の健康と幸福に欠かせないものであるという理解を広めることを目的としています。

私たちは、教育省と密に連携し、ナショナル・プラン・フォー・ミュージック・エデュケーション (National Plan for Music Education) と文化教育計画 (Cultural Education Plan) の推奨事項に従って、イングランドの音楽・文化教育の水準、リーチ、そして持続可能性を向上させるための各種プログラムのポートフォリオを管理しています。

また、私たちには、特定のテーマに沿った物品やコレクションが公的な所有となるよう働きかけ、英国の長期的便益につながるよう、保護し共有する法定責任があります。こうした目的の下、政府の支援を受けたスキームには、公共のコレクションを充実させるための優遇税制、展覧会や陳列、貸出事業を支援する保険制度、コレクションを保護することを目的とした警備面での国からの助言、文化財の自由な移動と英国の文化遺産保護の必要性を両立するための輸出ライセンス制

限などが含まれます。

私たちのミッションは『あらゆる人に素晴らしい文化芸術を』です。私たちは、アドボカシーとパートナーシップ、育成と投資を通じて、このミッションを達成するために活動します。

p.14

私たちの組織と活動

アドボカシーとパートナーシップ

私たちは調査を行い、パートナーシップを築き、文化芸術の価値を高めています。地域再生、観光客誘致、才能の育成とイノベーション、健康とウェルビーイングの改善、そして主要な公的サービスの提供において、文化芸術が重要な役割を果たすことを私たちは知っています。私たちはイングランドにおける文化芸術の影響力に対する理解を深め、公的助成を受けた文化芸術と、より広い意味でのクリエイティブ経済との関係づくりを計画し強化していきます。

適切な公的投資はイングランドにおける芸術、博物館・美術館、図書館助成の基盤であるということ。それは個人や社会、国の経済に影響を及ぼす文化芸術の公共的な価値を維持するためには大変重要であるということ。こうした主張を政府、自治体、パートナーと社会に対して実証していくことが、私たちの活動の中心となります。

私たちだけの活動で、文化セクターを活況に導くことはできません。現在の経済情勢において公的投資を最大限に活用するには、パートナーシップが不可欠です。私たちは、映画からオペラ、ロック音楽から図書館の本に関するものまで、実に幅広い活動を網羅した文化芸術の生態系をなす数多くのプレーヤーの一員にすぎません。私たちは、自らの果たす役割と、この生態系のどの部分に最も良い形で付加価値を与えられるかを、明確に理解しなくてははいけません。

p.15

また、私たちの投資がその他の助成金の財源と補完し合う関係にあることも重要です。

責務の拡大により、博物館・美術館や図書館の育成も含むこととなったため、私たちは今や、文化芸術を取り巻く社会における横断的な対話を強化する機会を得ることとなりました。イングランドの文化芸術の社会的または経済的ポテンシャルを最大限に引き出すような協業を促進する時なのです。

政府における私たちの主要なパートナーとしては、文化・メディア・スポーツ省と教育省が挙げられます。自治体の政府は、イングランドの文化芸術に対する最大の公的投資機関であり、私たちは、ミッションを共有してくれるイングランド全域の地方自治体と協働しています。私たちの関心は、これらの地域企業パートナーシップ (LEPs) や継続教育機関、高等教育機関とますます重なってきており、これらの組織と地域レベル、そして国レベルで効果的なパートナーシップを構築するよう努めています。私たちは、イングランドで宝くじの売上を配分する責任を、英国映画協会、国営宝くじ基金、文化遺産宝くじ基金、スポーツイングランドと共に担

っており、これらの組織と協力して、宝くじ資金を効果的に割り当て配分していきます。また、BBC及びブリティッシュ・カウンシルとは、優先度の高い事項を数多く共有していることを認識しており、これらの組織と活動に関する公式な合意を形成することで、より大きな公共的価値を届けていきたいと思っています。

芸術や博物館・美術館と異なり、図書館は法令に準拠した公益事業です。これは、地方議会が「包括的で効率的なサービス」を提供し助成する義務を負っていることを意味しています。図書館への助成に対する責任は地方自治体にあります。私たちは、図書館の有益性と潜在的な能力を支援する役割を担っています。

2012年、私たちは、公共図書館の価値と目的を明らかにするための調査の委託事業を行いました。この『*Envisioning the library of the future*』²⁾が明らかにしたのは、図書館はすべての人に開かれた信頼できる空間であり、読書をし、情報を共有し、世界について知識を深められる場所であるということでした。私たちは、図書館が国及び自治体の政府の文化的・社会的・経済的目的に貢献していることについて声を上げていきます。

【脚注】

2) <http://www.artscouncil.org.uk/what-we-do/supporting-libraries/library-of-the-future/>

p.16

そして、図書館セクターを代表する組織や図書館の主なステークホルダーと協力し、このセクターにおける戦略の方向性を決めていきます。図書館という空間が人々を他の文化的活動と結びつけている（またはその逆も）点に、特に関心を寄せています。

また、自治体政府及び中央政府と協働し、文化セクターが繁栄する環境を作り出す手助けをします。例えば、税制やビザ等の仕組みは、クリエイティブティや才能を妨げるものであってはならず、むしろ英国の革新と国際的交流を支援するものでなくてはなりません。エンターテインメントのライセンス許可と知的財産権は、文化芸術セクターに対して不利に働くのではなく、セクターを支援するものとなるよう、慎重に検討せねばなりません。ブロードバンドのインフラに対する助成など、地域での計画と投資への取り組みは、イングランド全体の文化的で創造的な企業活動を可能にし、支援するものでなくてはなりません。

このセクターの成功は、文化に対し共感性の高い方向性を示す物理面、デジタル面、財政的、法的など各方面のインフラの有効性に左右されます。私たちはこうしたインフラの改善を積極的に支援していきます。

すべての活動は、国の政策と研究プログラムによって導かれることとなります。研究プログラムは、包括的な知識の構築を試み、私たちが活動する環境の理解に役立つものです。文化芸術は、社会・経済状況全体に影響力を持ち得ます。私たちの研究プログラムは、その理解を深める助けとなり、政策に関して正しい判断をするためのエビデンスを提供してくれます。

p.17

私たちの組織と活動

育成

私たちは、イングランドの最高水準の文化芸術に助成するだけではありません。芸術、博物館・美術館、図書館が最善の形で運営されるように、慎重な投資を行い、プログラムを提供し、これらのセクターを戦略的に育成するという責務も担っています。

私たちの役割は、次の3つのセクターごとに大きく異なります。

芸術

私たちは、公的補助金の賢明な投資によりイングランドの芸術を育成する責任を担っています。全国的なリーチと、地域の文化的な専門知識のネットワークによって、芸術セクターが私たちの共有する戦略目標を達成する上で直面している困難と、成長の機会とを特定できる有利な立場にあります。戦略的事業助成によってこれらの問題に対処し、知識と専門性を用いて活動を立案します。近年の例としては、デジタルの活動や巡回公演活動に対する助成が挙げられます。

博物館・美術館

中央政府、地方自治体、そして文化遺産宝くじ基金は、独立した博物館・美術館セクターを含む各博物館・美術館に対する助成の中心です。

私たちには、地域の博物館・美術館に投資を行う責任があり、博物館・美術館セクターの健全な運営を支えるために多数の全国的スキームを提供しています。

p.18

そのひとつである、適格性認定スキームは、博物館・美術館を対象とする助成プログラムの基盤となっています。また、育成スキームは、ゴール達成のため、地域に特化した支援を博物館・美術館に提供します。

図書館

図書館は地方自治体の助成を受けているため、私たちの役割は育成になります。アドボカシーとしての役割と、少額の補助金を含む資源を利用して、すべての人がアクセスでき、地域のその他の文化芸術インフラと結びついた中核拠点としての図書館の活動を支援しています。

文化と芸術は、個としての人間、コミュニティの一員としての人間、どちらにとっても生命線です。

博物館・美術館や画廊への訪問も、合唱団への参加も、信じられないほど素晴らしい音楽家の演奏を鑑賞することも、詩を読むことも、
ストリート・パフォーマンスを
楽しむことも、人生を
価値あるものにしてくれるのです。

サンディ・ネアン (Sandy Nairne)
 ナショナル・ポートレート・ギャラリー
 ディレクター

p.19

私たちの組織と活動

投資

アーツカウンシルは、政府と国営宝くじ基金を財源として、イングランドの文化芸術に投資しています。その対象には、演劇からデジタルアート、読書やダンス、音楽や文学、工芸品や美術コレクションなど、幅広い活動が含まれています。

私たちの投資は、3種類の助成を通じて行われています。

運営助成

イングランドの芸術団体や博物館・美術館が、私たちの掲げる戦略目標達成の支援のために必須となる、コア・ファンディングです。現在、ナショナル・ポートフォリオ・オーガニゼーションズ・プログラム (National Portfolio Organisations Programme) を通じて数百の芸術団体に、メジャー・パートナー・ミュージアム・プログラム (Major Partner Museums programme) を通じて多数の博物館・美術館に、運営助成を行っています。

事業助成

この助成は、芸術関連活動を行うすべての人を対象としており、国営宝くじを財源とするグラント・フォー・ジ・アーツ・プログラム (Grants for the Arts Programme) を通じて行われます。キャリアの初期段階にあるアーティストや新しい団体、質の高い文化芸術と人々を結びつける活動を推進する地域コミュニティ・グループに投資すると同時に、既に世に認められたアーティストまたは団体による単発プロジェクトを支援します。

p.20

戦略的事業助成

私たちにはイングランドの文化セクターを育成する責任があるため、対象を絞った戦略的な投資を行い、前述の2種の助成では取り上げられていない課題や機会に対処していきます。設備投資や巡回公演プロジェクトなどがここに含まれます。

助成の種類に関する詳細や申請については、私たちのウェブサイトをご覧ください³⁾。私たちの活動と投資の詳細については、『Arts Council plan 2011-15』で確認いただくことができます⁴⁾。2015-20年を網羅する今後の計画の発表も予定されています。

【脚注】

3) <http://www.artscouncil.org.uk/funding/>

4) http://www.artscouncil.org.uk/publication_archive/artscouncil-plan-2011-15

p.21

私があなに伝えたかったことは
芸術は、傷をふさぐことができるということ
そして望遠鏡よりも遠くを見つめ
インターネットよりも早く届き

愛する人の鼓動のように脈打つのだと
訴えを起こすこともできるということ

私があなただに伝えたかったことは
芸術がまるで金槌であるかのように愛されている
ということ
なぜなら芸術は巧みに嘘を打ち砕き
真実を語るからだ
ある時は何かしらのこと
たぐさんのこと
どんなことでも、
饒舌に、または言葉少なに、
最良の方法で語るからだ
そして芸術の価値は、必ずしも値段に
結びつけられるとは限らないと思う

ティム・エッチェルズ (Tim Etchells)
芸術家、作家、パフォーマンス作家
フォースド・エンターテインメント

p.22

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

現状

第5章

p.23

過去15年間、イングランドの芸術と広い意味での文化セクターは目覚ましい成功を収めてきました。事業助成による持続的な投資は、国営宝くじ基金の財源にも大いに助けられ、文化を取り巻く状況を一変させました。その結果、作品やプログラムなど提供されるものの質が、より多くの人々を惹き付けるようになったのです。2006年から2013年にかけて、イングランドにおける総合的な芸術へのエンゲージメントは10%向上し3,400万人となりました⁵⁾。2012年にロンドンで開催されたカルチュラル・オリンピアードには、国全体で4,300万人を超える人々が関与し、テレビ放送とインターネットを通じてさらに多くの人々が文化芸術に関わりました⁶⁾。

博物館・美術館も賑わいを見せ、スタッフには前向きで先進的な気質が育ち、自らの社会的インパクトを強め示していきたいというアンビションが見られました。政府による助成を受けたこれら公共の施設は、都市部及び郊外における地域再生の中心となることが多く、イングランド全域のコミュニティに活気を呼び戻しました。同時に、デジタル空間における文化芸術の可能性も認識され始めました。多くの団体が新しいテクノロジーやデジタルインフラを使って、イングランド内外の観客にリーチしようとしています。

図書館に対する助成は圧力にさらされていますが、博物館・美術館と同様に、多くの図書館は順応し、革新し、コミュニティにとって重要な動脈であり続けています。本を借りる人の数は減っていますが、子供の読書の推進など、図書館への戦略的な投資によって来館者数が増加しているとのエビデンス

があります。利用パターンも変化しており、公共機関がデジタルによる業務の運用を加速度的に取り入れていることを受け、図書館もそれに応じて進化しています。

1995年以来、芸術セクターに対して14億ポンド以上の設備投資への助成が行われ、1,000棟以上の建物の建設または改修を支援してきました。

【脚注】

5) 出典: Taking Part survey

6) オリンピック委員会によれば、開会式だけでも世界中の9億人の人々が視聴しました。

p.24

アーツカウンシルの投資は、変化の時代に安定を提供し、芸術団体が将来の計画を立て、アンビションを抱き続け、実験的な試みをする余裕を与えてきました。

また、最も高い水準で、最も革新的な文化芸術が生み出される環境をもたらしてきました。より多いジャンルの質の高い芸術が、巡回公演によって、また近年ではデジタル配信を通じて、より多くの人に届けられるようになってきました。博物館・美術館におけるプログラム開発の過程で改善を行い、より幅広い層に届き、より深みのあるものとなりました。図書館の育成においては、図書館が知識と文化の中心となるよう、またコミュニティ全体が共有し称賛する場所となるよう改善しました。この国の文化芸術が、国際的な喝采を浴び、イングランドを卓越した創造性の中心地と位置づけ、観光客を呼び込み、国益を増大させ、国の繁栄とアイデンティティ確立に貢献しています。

次のセクションでは、第6章「私たちの目標」で詳述する戦略的ビジョンと戦略目標の背景を示します。

芸術は、人間同様複雑だ。

私たちは何者で、何をするために
生まれてきたのかを理解することは
芸術家であるなしにかかわらず、
どんな人間にとっても難しい。
創造的なカオスから生まれる芸術は、
私たちが置かれた状況を
映し出してみせてくれるし、
その変化形にも気付かせてくれる。
私たちがどんな風に他者や場や
アイデアとつながり合ったり、
離れたりしているのか、
そういうことに。

ショバーン・デイビス (Siobhan Davies)
アーティスト、振付家

p.25

現状

卓越性の追求

私たちの戦略フレームワークの基盤は、文化芸術セクターが

あらゆる活動において行う卓越性の追求を支援する際の強い意志です。それは、芸術的かつ文化的に卓越した作品を創り出すことや、作品と観客との関わり方を意味しています。博物館・美術館は、コレクションを通じて人生に豊かさを届けることにより卓越性を示してくれるよう、私たちは願っています。そして、すべての図書館が、人々の知識を深め、審美眼を磨き、求めている技術や情報を得られるような、卓越したサービスの数々を開発できるよう支援したいと考えています。

「卓越性」が何かを定義することは難しく、極めて当然のことですが、今後も常に議論的になるであろうとの認識を持っています。

また、演劇における卓越性の基準は、博物館・美術館の展示のための基準とは異なるものであることも理解しています。卓越性が意味するところは、芸術の分野、団体、作品の制作や提示の方法によって異なりますが、私たちはそのことに誠実であろうと思っています。卓越性は、それを評価する人々と切り離すことはできず、この関係性は相対的で、微妙で複雑であることを、私たちはよく分かっています。

文化芸術セクターとの協業において、できることはまだまだあると考えています。「卓越性」と「リーチ」のより厳密な定義について合意を形成し、それらの定義を利用して私たちの活動の有効性を測定し、投資に関わる私たちの判断に手を貸してもらおうことなどが挙げられます。

p.26

2012年のロンドンオリンピック・パラリンピックは、文化芸術がイングランドの動脈としていかに重要であるかを人々が理解した大きな転機となりました。カルチュラル・オリンピックアードは、イングランドの多様な才能と博物館・美術館コレクションを世界の舞台に送り出し、グローバルなつながりを生んだ特別な機会でした。私たちはこの成功を起点にさらなる積み重ねを行いたいと思っています。私たちのクリエイティビティ、オリジナリティ、そしてアンビションを大切にしたいのです。文化芸術団体に対して、彼らが実験的な試みでリスクを取ることを可能にするコミットメントを提示し、自由を提供したいと考えています。そして団体には、自らの分野で最高の作品——文化芸術に何ができるか、誰が参加できるかということについての通説に、異議を唱えるようなものを創り出して欲しいと望んでいます。文化交流を支援することにより、国際的な文化芸術の中でも最高水準のものをイングランドの人々が定期的に楽しめるように、そしてイングランドの文化芸術の粋を集めた作品が、海外で新しいオーディエンスと出会うことを望んでいます。私たちの仕事は、イングランドが国際的な文化のリーダーとしての地位を保ち、強化できるよう、こうした卓越性が花開く条件を整えることです。

アーティストなくして、芸術セクターが存在することはできません。才能は、私たちにとって最も重要な資源です。私たちは、才能を支援・育成するとともに、あらゆる分野のアーティストが社会に対して行う貢献を、人々が理解し評価するよう努めなければなりません。現在の経済的背景においては、創造に携わる者がキャリアを積みプロとして成長することが難しい状況が続くでしょう。私たちは、個々のアーティストに助成金を授与することに加え、パートナーと協力することで、才能溢れるアーティストたちが革新的な作品を生み出し、新しいオーディエンスとの出会いを得ながら、生計を立てられるようにしていきます。

イングランドは、世界で最も多様性のある社会のひとつです。私たちの多様性は強みであり、卓越性と平等に対するアーツカウンシルの責任の下、この国の人々ができる限り多様な文化芸術経験を享受できるよう期する必要があります。

p.27

多様性と平等に対する私たちの責任には、長い歴史があります。私たちは、芸術団体、博物館・美術館、そして図書館の活動が、イングランド社会に存在する多様なバックグラウンドや視点を参考にし、反映するものであるよう努めなければならないと考えます。このような多様性への取り組みが団体のDNAに組み込まれている優良事例をいくつか挙げるのができる一方で、私たちが支援する活動・作品のすべてが、然るべきレベルでの取り組みを行っているわけではないことも認識しています。私たちは、助成、育成、アドボカシーにおける役割を通して、これらの素晴らしい実例が模範となり、基準となるよう努めます。

文化芸術セクターにおいて、多様なバックグラウンド、団体、分野、観点を横断する協業の事例は不足していると言わざるをえません。図書館や博物館・美術館に対する新しい戦略開発の責任を担った今、各分野内外の模範的な事例を活用しつつ、文化的足跡を問わず、協業を実現している活動を支援していきます。そうしたつながりが生まれる時、素晴らしい文化芸術とは何であるか、誰のためのものか、それはどんな働きをするのかということについて、認識を変えてしまう力を呼び起こすことに、私たちは気付いているのです。

世界中の人々のつながりが加速的に進むことにより、世界は変化しています。垣根やカテゴリーの浸食は、文化芸術において明らかです。そこでは、クリエイター、キュレーター、そして消費者の役割が今まさに再定義され、図書館で展覧会が行われ博物館・美術館でパフォーマンスが行われています。新しいデジタル技術によって牽引されるこの変化は、好機であり脅威でもあると認識しています。人々が文化芸術を体験する方法は変化しています。同様に、私たちが楽しむ文化芸術の形も変化しています。私たちは、自らの影響力と助成を活用し、また、BBC、英国映画協会、Channel 4、その他のテクノロジー企業などの組織と連携し、文化芸術団体が文化を取り巻く新たな環境への対応力を養う手助けをします。世界が進化するにつれ、アーツカウンシルの支援の対象となる文化芸術団体やアーティストの幅（そして文化芸術の形）もまた、進化させねばならないのです。

p.28

現状

人々をつながる

文化芸術は、生活を豊かにしてくれます。私たちの想像をかきたて、ひらめきや刺激を与え、教育し、楽しませてくれます。誰もが、質の高い博物館・美術館、図書館、ライブパフォーマンスに訪れ、体験し、あるいは文化活動に参加することが可能であるべきです。これらの経験は、私たちに内省を促し、新しい議論やクリティカル・シンキングを生み、世界に対する理解を深めてくれます。

芸術、博物館・美術館、図書館を体験し、それらに貢献する

人々を増やすことは、社会にとって良いことだと考えています。文化的体験を共有することは、コミュニティの一体感を生みます。私たちは、文化芸術の社会的インパクトをよりよく理解するべく活動していきます。

公的投資が行われているにもかかわらず、イングランド内での文化芸術に対する機会とエンゲージメントの水準には依然として大きな格差があることを、私たちは認識しています。私たちが投資している文化芸術に最も積極的に関わっている人々は、社会において特権に最も恵まれた人々である傾向が高いのです。エンゲージメントの度合いは、教育水準、社会経済的バックグラウンド、そして居住地域によって大きく左右されます。その理由は、適切なエンゲージメントの機会の欠如、もしくはコミュニティに受け入れられるものを提供できていない、などにあります。

p.29

こういった問題の一部は、私たちが適切な活動を支援することや、文化芸術とのエンゲージメントが低い人々に、その制作に協力する機会を提供することで対処できると考えています。人口構成が変化する中で、より幅広く多様なオーディエンスへのリーチを成功させるには、コミュニティの進化や人々のエンゲージメントの度合いの差と、その理由を正しく理解することが不可欠です。すべてに明確な答えを出すことは不可能ですが、私たちは新しいアイデアを受け入れて支援し、イングランド全体において機会を増やし、エンゲージメントを高めなければならないことを認識しています。

ニーズは場所によって異なることを考慮する必要があるため、私たちは、イングランドの文化芸術に対する最大の投資家である地方自治体とパートナーシップを組みます。また、都市部とそれ以外の地域双方のコミュニティそれぞれのニーズを十分に考慮し、人々が住む場所によって不公平が生じないようにします。

イングランドの多くの人々が楽しんでいる様々な文化芸術には、アーツカウンシル・イングランドの直接的な投資をほとんど受けていないものがあることを認識しています。日々、大勢の人々が、ポップスやロック音楽を生放送またはオンラインで聴いたり、映画を観たり、商業演劇を鑑賞したり、アマチュアの芸術活動に参加したりしています。しかし、公的投資を受けている文化芸術と商業的な文化芸術の間には、密接なつながりがあることが、私たちが行った調査を通じて明らかになっています。私たちはこれからも、様々な文化・クリエイティブ産業間が互いを頼りにし合う関係を明確にし、それらと文化セクター内外のオーディエンスや団体とのつながりを強化する機会を追求します。

私たちは、デジタル技術を利用し、新しい観客とのエンゲージメントを生み出し、届け、文化芸術のデジタルプラットフォームによる配信を拡大させ、人々がデジタルで作品をつくりだすことを可能にし、新しい芸術のジャンルの発展・新しい芸術的体験の開発を支援します。

p.30

**創造力には、常に栄養を
与える必要があり、
その中心的役割を
果たすのが図書館だ。
図書館は、信頼**

できる知識の源として、
コミュニティを支えて
いる。そして、
児童から研究者、起業
家から家族史の専門家
まで、あらゆる人々が
新しいアイデアや
洞察、未来のビジョンを
描くために必要な
資源を与えてくれる。

ロリー・キーティング (Roly Keating)
英国図書館長

p.31

現状

レジリエンスと持続可能性

文化芸術における公的投資は相当な圧力にさらされており、その状況は本戦略の適用が終了する時まで続くと考えられます。この圧力は、全国的なレベルでも、地域的なレベルでも発生しています。地方自治体の予算がますます緊縮路線となる中、私たちは各自治体と協力し、文化芸術に十分な公的投資を行い、助成が実際に効果を生むように努めます。私たちが芸術、博物館・美術館、図書館などを横断して、「ひとつの対話」を可能にする資格を得たことにより、地方自治体やその他の公的投資家と、生産的なパートナーシップを築くことができると考えています。また、公共セクターと民間セクターとの関係の重要性、そしてこの関係から生まれるパートナーシップや共有される学びについても認識しています。

文化芸術セクターが成長するためには、本質的な価値観及び作品の質について妥協することなく、このように変化を続ける環境に適応しなければなりません。レジリエンスを高めるような新しい考え方、働き方を作り出していかなければならないのです。ここでいうレジリエンスとは、「好機をとらえ、リスクを特定・緩和し、資源を効果的に配置することにより、経済・環境・社会の変化を予想し、それに適応していくための団体の洞察力と能力のこと」です。団体が、自らのミッションに合致する質の高い活動を継続して行うために必要な力です。

p.32

文化芸術セクターは、これまで新規または既存の収入源の獲得に成功してきた団体の事例から学ばなくてはなりません。具体的には、技術がもたらす、高い費用対効果によるデータの収集、分析、適用のチャンスを活かすことです。そして、既存もしくは潜在的なオーディエンスに関してより多くを学ぶことで、マーケティングと資金調達において、効果的な目標設定を行わなくてはなりません。優良事例を踏まえ、デジタルプラットフォームの使用を通じてイングランド内外の新規観客にリーチする必要があります。

地域のコミュニティでの自らの役割を理解し、特別な場所を築くために他者と協働する文化芸術団体は、セクター全体のレジリエンスのためには不可欠です。このような団体は、コ

コミュニティが熱意を表現しアイデンティティを育むことを手助けし、対立を解消し、地域社会の結びつきという社会資本を築くことで、高く評価されるようになります。こうした団体はまた、コミュニティに欠かせない動脈となり、文化芸術の公共的な価値を体現することができるのです。

私たちは、セクターの長期的な持続可能性について考えなければならず、それは単に財政上の問題に留まりません。気候変動を受けて文化芸術団体に求められているのは、慎重に資源を活用すること、未来の世代を犠牲にした短期間の利益の追求を控えることです。いくつかの分野では、物理的なインフラに深刻な格差があり、その他の分野では修復やリニューアルが必要とされています。このことは、特にコレクションを保有する団体にとって重要な問題であり、このような団体の保守と維持のための長期的取り組みの計画を立てる必要があります。

p.33

現状

成功を支える人材

文化芸術セクターの心臓部は人材です。アーティスト、キュレーター、図書館司書、技師、プロデューサー、管理部門担当者、教育者、アーキビストなどの人々です。これからの10年間の最優先事項のひとつは、私たちの共有するミッションを達成するために必要とされるスキルを維持し育成するべく、こうした人々を支援することです。その際大事なのは、彼らが努力の末に修得した、文化セクターの活動にとって欠かせない専門スキルを評価し尊重することです。

私たちの長期的ビジョンは、文化芸術団体が、そこで働く人々のスキル育成に責任を持つようになるということです。私たちは、教育機関等と協業し、急速に変化する環境で成功するために必要とされる適切なスキルと経験を持った人材が、文化芸術セクターに集まるよう努めます。そして継続教育・高等教育においてパートナーと連携し、職業訓練の重要性と社会における文系教科の役割の重要性を訴えていく必要があります。文系教科の知識は、科学やテクノロジーと組み合わせられることが多く、創造活動とイングランドのクリエイティブ経済の要となっています。

文化芸術の従事者層は、彼らが奉仕する社会の姿をより適切に反映していく必要があります。

p.34

私たちは、2010年の平等法（Equality Act 2010）のもとで、機会の平等を推進する一般的義務を負っています。オーディエンスやアーティスト、そしてより広い意味でこのセクターに従事する人々にとって、社会経済的状況及び教育が、エンゲージメントを阻害する可能性があることを認識し、法律上の最低基準に留まらないつもりです。特に、雇用の入り口と、従事者がキャリアをさらに積み重ねるための機会とを、すべての人にとってより公平でアクセスしやすいものにしなければなりません。このことは、セクターのリーダー層やガバナンスの本来あるべき姿であると同時に、セクター内で働く人々にも当てはめていくべきものです。

課題は山積しています。低い賃金レベルは、一部の人々にとっては、このセクターへの就職を決める際や、その先のキャリアを積み重ねる際の障壁となります。この問題に対処するため、私たちは文化芸術セクターに対する財政的締め付けと、団体が直面し得る資金不足を認識しつつ、インターンシップ・ガイダンスの成功を足がかりに、更なる成功例を積み重ねていきます。私たちの目標に最も顕著に寄与する団体は、自らが拠点とするコミュニティにおける役割をよく理解しているリーダーによって、適切なかたちで率いられています。芸術団体のガバナンス及びリーダー層のスキルを強化し多様性を促進するために為すべきことは多くあります。例えば、理事会のほとんどが、団体の運命を左右する文化的リーダーの後継者育成に十分な注意を払っていません。

私たちは、文化芸術団体のリーダー層とガバナンスが、このセクターの将来的な方向性について様々な視点を示すような、多様で新しい意見を内包するものであって欲しいと考えています。

p.35

現状

次世代のクリエイティブな人々

芸術、博物館・美術館、図書館は、子供の好奇心と重要な能力の発達を促します。学習と成長の場であるだけでなく、表現や想像による解放の場であり、子供や若者が、世界とそこにおける自分の立ち位置を探求し、理解し、それに挑むことを可能にします。未来のオーディエンスにひらめきを与え、子供や若者によって、そして彼らとともにつくりだされる作品を通して、次世代のクリエイティブな人々に力を与えます。すべての子供は生まれながらにして、芸術を体験し、図書館の知識にアクセスし、博物館・美術館の素晴らしい展示品を鑑賞してその背景を学ぶ権利を持っていると私たちは考えています。

私たちは、イングランドのすべての子供と若者が、人生の早い段階でこのような経験をすることを目指しています。私たちは、場所や社会的条件に関わらず、こうした体験をすべての人にとってアクセス可能とする上で、重要な役割を担っています。

すべての子供や若者が文化芸術を体験できるようにすることで、未来のアーティスト、制作者、キュレーター、そして未来のオーディエンスは、最大限に多様な生い立ちや経歴を反映した人々の集まりとなります。

この分野における私たちの投資と影響力は、近年拡大しています。

p.36

音楽と文化の教育における私たちの新しい責任と、芸術、博物館・美術館、図書館に対する権限によって、子供や若者の文化教育の強化や、素晴らしい文化芸術の創造、参加、体験についての方策に、極めて大きな影響を与えられるようになりました。

博物館・美術館は、学習支援、若者への知識の提供、そして世界最高水準のコレクションを体験することや、それらへのアクセスを活性化させる上で重要な役割を果たしていると

考えています。図書館もまた、子供と若者にとってクリエイティブな空間であり、本、映画、情報、音楽、活動、そしてインターネットを無料で開放しています。若者にとって、ひらめきを与えてくれる安全な空間であり、そこで友人と集まり、コミュニティ活動と出会い、知的好奇心の赴くままに調べ、世界に対する理解を深めることができます。

p.37

文化芸術は、一人ひとりが自分のことのように感じられる非常に魅力的なやり方で、個人、グループ、そしてコミュニティとつながることを可能にします。また、それぞれの間につながりを創り出すことも可能にします。ひらめき、理解、癒し、エンターテインメントを提供してくれます。一人ひとりの心の奥深い部分に寄り添い、私たちの生活を豊かにしてくれます。非常に豊かな社会的交流の場を提供し、知的なエンゲージメントと啓発の場を創り出します。

ダイ・リーズ (Di Lees)
帝国戦争博物館ディレクター (Director- General)

p.38

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

私たちの戦略目標

第6章

p.39

この章では、新たな領域での責務を反映し、更新した5つの戦略目標を紹介します。この機会に、内容を整理して簡潔にするとともに、それぞれの戦略目標の達成度をどのように計測するかを明確にしました。

私たちの戦略目標:

- 1 芸術、博物館・美術館、図書館において卓越性 (Excellence) が花開き、称賛されること
- 2 あらゆる人が芸術、博物館・美術館、図書館を体験し、触発される機会を持つこと
- 3 芸術、博物館・美術館、図書館がレジリエンスを有し、環境的に持続可能であること
- 4 芸術、博物館・美術館、図書館のリーダー層および従事者層が多様であり、適切なスキルを有していること
- 5 あらゆる子供と若者に、芸術、博物館・美術館、図書館の豊かさを体験する機会があること

これらの戦略目標には、複雑な相互関係があります。それぞれが支え合い、ある目標での成功は別の目標の成功に寄与します。

私たちのコア・ミッションは、次の2つの目標に集約できます。卓越した文化芸術が繁栄すること、そしてできる限り多くの人々がそこに関与 (エンゲージ) することです。これが戦略目標1と2となります。卓越性と関与 (エンゲージメント) の関連は重要で、軽視するわけにはいきません。例えば、博物館・美術館の価値は卓越したコレクションのみが作り出すのではなく、それらの作品がどのように解釈され、人々を触発し、その場に足を運んだり、作品と接したりした人々をどう変えていくかによって決まるのです。作品がオーディエンスを十分に魅了 (エンゲージ) するものであったり、挑戦的であったり、あるいは、オーディエンスとの心をつながりが生まれる時にもまた、芸術団体は卓越性を獲得するのです。

p.40

この2つの戦略目標について重要なのは、子供と若者が芸術を体験し参加できるようにすること、オーディエンスまたは未来のプラクティショナーとして関わり続けられるようにすることです。子供と若者は、私たちのミッションである「あらゆる人に素晴らしい文化芸術を」において優先的な存在であり、5つ目の戦略目標となっています。

戦略目標1、2、5は、戦略目標3、4という土台の上に築かれています。文化の提供を財政的及び環境的に持続可能にすること、そして適切なスキルを持った人材が真に多様で、現代のイングランドを反映していることを目指します。戦略目標3、4は、団体またはセクターレベルでの改善であり、その達成が、私たちのミッション全体の達成を後押ししてくれるのです。

私たちのミッション

- 1 卓越性
- 2 あらゆる人に
- 3 レジリエンスと持続可能性
- 4 多様性とスキル
- 5 子供と若者

ミッション達成を支える戦略目標

p.41

活動にあたっては、芸術、博物館・美術館、図書館間の本質的な違いと、多くの共通点を考慮します。それぞれの独自のスキル、訓練、そして目的を理解するとともに、私たちの文化生活を構成するこれら3つの領域が、より緊密に協力する可能性を視野に入れることが重要です。

これらの戦略目標は、現在から2020年までの活動の指針となるものです。文化芸術に対する私たちの助成の根拠となり、将来の助成に関する意思決定の基礎となります。目標を持つことで、私たちは明確で整合性のある活動を行うことができます。ともに活動する皆さんにとっては、私たちの意図と助成に関する決定を理解する一助となるものであることを願っています。

p.42

戦略目標 1

芸術、博物館・美術館、図書館において
卓越性が花開き、称賛されること

p.43

何をもって成功とするか

- ・アーティスト、芸術団体、博物館・美術館、図書館が、アンビションや才能、スキルの極みを表す芸術作品と文化体験を提供していること
- ・イングランドを拠点とするより多くのアーティスト、芸術団体、博物館・美術館が世界に作品を輸出し、観光客がイングランドを訪問する理由に文化芸術を挙げることで、世界的に卓越した文化の中心地としてのイングランドの地位が実証されること
- ・芸術団体や博物館・美術館の作品や図書館のサービスが、現代のイングランドの多様性を反映していること

どのようなことを行うか

- ・私たちが持つ専門知識、全国的な視野、地域の情報を活用して、芸術団体や地域の博物館・美術館の文化芸術の卓越性が求められたり、促されたりするような投資を行う
- ・平等と多様性にコミットする文化芸術団体及び平等と多様性が適用された制作活動に投資する
- ・オーディエンスやユーザーが視野を広げ、新しいアイデアを探求できるよう働きかける意欲的なプログラムを実践しているアーティストや団体に投資する
- ・私たちのコレクション体系と文化財機能を利用し、特別なコレクションを国有とすることにより、より多くの人の目に触れるようにする

p.44

- ・図書館の空間デザインとその利用法の再考を手助けし、特に文化芸術活動の促進に注力するものを奨励する
- ・芸術の才能育成に力を入れている芸術団体に投資する
- ・継続教育機関や高等教育機関と協働し、芸術の才能を引き出し、育てていく
- ・ブリティッシュ・カウンシルなどのパートナーと協力して国際交流と輸出を促進することにより、イングランド中のアーティストが同業者から学ぶことができ、各ジャンルが発展し、オーディエンスが世界最高レベルの作品に触れられる機会を設ける
- ・2012年のロンドンオリンピックとパラリンピックの文化レガシーに基づいた活動に投資する

どのように目標達成度を評価するか

- ・文化芸術セクターによる全国的な質的評価法の開発と、それを自己評価プログラムに統合することを支援する。質的評価法は、オーディエンスやユーザー、同業者の視点を含むものとする。このような評価法を用いて、ファンディング・アグリメントやピア・レビュー・プログラムの通知を行う

- ・私たちは、図書館サービスの質的評価は利用者によって行われるべきと考えており、英国勅許公共財務会計協会（CIPFA/The Chartered Institute of Public Finance and Accountancy）が行う公共図書館の利用者に対する調査等の情報源から、イングランド全域の利用者が図書館サービスをどう評価しているかの把握に努める。地方自治体、図書館サービス、主要パートナーなどのステークホルダーによる調査データを利用し、私たちの図書館サービス支援の度合いに対する利用者からの評価を理解する

p.45

- ・ステークホルダーの調査データを利用して、私たちが助成しているプログラム及びコンテンツが文化的に多様であることについて、どの程度理解されているか評価する

- ・文化芸術に対する公的助成の支援レベルを評価するために調査を委託する

- ・サービス輸出に関するデータを利用し、イングランドの文化芸術の輸出レベルを立証するとともに、国際パッセンジャー・サーベイ（International Passenger Survey）のエビデンスを利用して、インバウンド観光に対する文化芸術の影響を示す

p.46

戦略目標 2

あらゆる人が
芸術、博物館・美術館、
図書館を体験し、
触発される機会を
持つこと

p.47

何をもって成功とするか

- ・より多くの人々が、素晴らしい芸術、博物館・美術館、図書館を体験し参加する機会を持つこと
- ・素晴らしい芸術、博物館・美術館、図書館を体験する人々が増加し、より幅広い層に広がること
- ・現在、文化芸術へのエンゲージメントが最も低い人々の間で、エンゲージメントのレベルが上昇すること
- ・人々の文化的な体験の深さと質において、明らかな改善が見られること

どのようなことを行うか

- ・質の高い作品、コレクション、展覧会、プログラムをできる限り多くの、そして多様なオーディエンスに、確実に届けていくアーティストや団体に投資する
- ・デジタルテクノロジーを用いた、もしくはデジタルプラットフォームを通じた文化芸術の保存、創造、制作及び流通に投資する
- ・現在及び未来のオーディエンスのために、文化芸術団体によるデジタルコンテンツの目録作り、リンク及びアーカイビングを支援し、より多くの人々がデジタルプラットフォームを通じて文化芸術にアクセス可能となるパートナーシップを形成する
- ・図書館ネットワークと協働し、文化芸術へのアクセスを向上させる
- ・巡回公演・巡回展などに助成することで、文化芸術がより広い地域に届くようにする

p.48

- ・社会全体が地域の文化芸術の形成に参加することを奨励する
- ・地域のコミュニティ、文化芸術団体、地方自治体、民間セクター間の長期コラボレーションに投資し、とりわけ、エンゲージメントの度合いが低い場所において、感動を与えるような文化プログラムを奨励する

どのように目標達成度を評価するか

- ・助成に関するデータを利用し、あらゆる人が素晴らしい芸術、博物館・美術館、図書館を経験し、参加する機会をどの程度得ているのか評価する。データには、被助成団体への調査や、デジタル配信に関するもの、またはエンゲージメントの低い場所への巡回公演・巡回展やターゲティングに関する戦略的事業助成プログラムのエビデンスが含まれる
- ・被助成団体、テイキング・パート調査 (Taking Part Survey)、オンライン・アナリティクス、英国勅許公共財務会計協会 (CIPFA) による公共図書館利用者調査、ほか様々な信頼のおける情報源からデータを収集・分析し、文化施設がどのように人々とエンゲージメントを深めているかについて理解を深める。その際、エンゲージメントの度合いが最も低い人々に関する情報も採り入れる
- ・文化芸術セクターによる、エンゲージメントと体験に関わる質の評価の新たな全国的基準の開発と、長期的な追跡調査を支援する

p.49

本当に素晴らしい博物館・美術館とは、羅針盤と万華鏡を

組み合わせたようなものです。世界のどこに自分が存在しているのかを分からせ、星の数ほどある可能性に對して心を開かせるのです。

サリー・マクドナルド (Sally McDonald)
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン
博物館・美術館と公共参画 ディレクター

p.50

戦略目標 3

芸術、博物館・美術館、図書館がレジリエンスを有し、環境的に持続可能であること

p.51

何をもって成功とするか

- ・芸術団体、博物館・美術館、図書館が外的環境に適應する能力を実証できること
- ・芸術団体と博物館・美術館の収入源として、様々な寄付金または収益の占める割合が上がること
- ・アーツカウンシルが育成機関としての役割を担い、芸術団体、博物館・美術館、図書館への支援を行う際、レジリエンスが高まったと地方自治体やその他のパートナーに評価されること
- ・文化セクターが環境的持続可能性を取り入れ、二酸化炭素排出量を減らすこと

どのようなことを行うか

- ・団体の資金調達能力向上を支援することにより、民間からの寄付金の増額を奨励し実現させる
- ・設備投資を通じて、芸術セクターの建物やインフラに投資する
- ・団体のミッションを進化させる新たなパートナーシップの形成を支援する
- ・パフォーマンスとガバナンスの改善を促すための自己評価を行う文化芸術団体に投資する
- ・例えばバックオフィス機能の共有などにより、団体がコストを削減し効率を高められるよう手配し、奨励する

p.52

- 文化芸術団体が、データを保存し利用することによりレジリエンスを高め、新しい市場を築き、新しい収入源の検討を支援する
- 文化芸術団体が、助成金以外の代替収入源を検討することを支援する
- 文化団体が、地域コミュニティにおいて果たす役割を強化することを奨励する
- イングランドにおける、コミュニティの活気に寄与する持続可能な文化の提供という共通の目的を達成するため、地方自治体と協働する
- 芸術団体や博物館・美術館と私たちの協働から学び、情報を共有しながら、図書館業務のための新しい新興ビジネスモデルの研究開発に投資する。その結果、より多くの情報をもとに業務の遂行について決定できるようにする
- 博物館・美術館を対象とする適格性認定スキームを開発し提供する。それにより、将来計画、健全なガバナンス、コレクション管理のための長期的な戦略や、利用者アクセスの実現と業務遂行のための体系的な取り組みなどを明示できるようにする
- ブリティッシュ・カウンシル及び英国貿易投資総省(UKTI)と協働し、イングランドを拠点とするアーティストや文化芸術団体が、国際的な巡回公演・巡回展その他の国際的な流通と輸出のメカニズムを通じて新しい市場を開拓することを支援する
- パートナーと協働し、文化芸術団体が自身の環境への影響について理解し、軽減させることを支援する

p.53

どのように目標達成度を評価するか

- 被助成団体に対する年次調査のデータを利用して、収益及び寄付金からくる収入増加の成果を含む財務実績を追跡する。また、留保金と収入の割合に関する傾向を追跡し、財政介入ほか団体支援を目的として設計されたスキームの適用を申請した団体のプロフィールと数も追跡する
- 被助成団体に対する年次調査を利用して、団体が日々の運用において、どの程度効果的にデータを保存し、利用し、共有しているかどうかを判断する
- 適格性認定スキームを利用して、博物館・美術館セクターのレジリエンスに関する動向を監視する
- 地方自治体と図書館事業体が、私たちの取り組みである文化セクターにおける新興ビジネスモデルの検討についてどのように評価しているか、ステークホルダーに対する定期的な調査を用いて査定する
- 被助成団体に対する年次調査と、資金調達組織によって実施される寄付金調査を利用し、文化芸術に対して、民間からの寄付金が増加したか否かを明示する

- 年次調査により被助成団体の二酸化炭素排出量を追跡し、環境的持続可能性について団体と協働する
- 資金調達の能力強化支援を含む戦略的事業助成プログラムの評価を行った際のエビデンスを利用する

p.54

戦略目標 4

**芸術、博物館・美術館、
図書館のリーダー層および
従事者層が多様であり、
適切なスキルを有していること**

p.55

何をもって成功とするか

- 文化芸術セクター（とりわけ私たちが投資する団体）のリーダー層と従事者層がイングランドの多様性を反映しており、就職や昇進の公平な過程が公表されていること
- 被助成団体において、リーダー層の資質が発揮されるとともにガバナンスの実践がなされており、いずれも効果を表していること
- 芸術、博物館・美術館、図書館業務の従事者が適切なスキルを有していること

どのようなことを行うか

- 文化芸術セクターによる、しかるべきプロフェッショナル人材に対する投資やリーダー層育成への投資を支援し、奨励する
- 被助成団体と戦略的事業助成プログラムを通じて、人材の多様化を推進し、文化芸術セクターへの就職と昇進の方法をより公平なものにすること、リーダー層とガバナンスが多様性をさらに高めることを目指す
- 文化芸術セクターが、運営状態の良い団体の特徴の理解を深めることを支援する
- 若者が文化芸術関連の仕事に就き、昇進する機会を提供する
- パートナーと協働し、芸術、博物館・美術館、図書館におけるデジタルスキルを育成する。それによりコミュニティの参加やデジタル機能利用者の補助を含む新規デジタル関連業務の開発など、新しい活動のあり方に対応する

p.56

- 団体のリーダーについて、自らの理事会による効果的な後継者育成計画の導入を奨励する

どのように目標達成度を評価するか

- ・被助成団体に対する年次調査などの情報源のデータを国勢調査と比較し、文化セクターのリーダー層（ガバナンス担当理事会及び委員会を含む）と従事者の多様性の変化を追跡する
- ・雇用調査などの様々な情報源のデータを利用して、文化セクターで不足しているスキルを探る
- ・ステークホルダーに対して行った調査のデータを利用して、私たちが行うリーダー層及び従事者の人材育成支援の度合いに対するパートナーの考えを探る
- ・博物館・美術館が業務に関する適切な専門知識・技能を利用できているか、その動向や問題点を管理するために適格性認定を用いる
- ・リーダー層育成支援を含む、戦略的事業助成プログラムの評価のエビデンスを利用する

p.57

芸術は、毎日をまったく違ったものに変えてくれる力を秘めています。「平凡」は、大抵の場合「特別」なのだと教えてくれます。その「特別」は、日常生活の一部となったり、あるいは日常生活に干渉してきたりします。さらには、日常生活を素敵な形で中断させてしまうのです。

ナオミ・カシワギ (Naomi Kashiwagi)
アーティスト

p.58

戦略目標 5

あらゆる子供と若者に、
芸術、博物館・美術館、
図書館の
豊かさを体験する機会
があること

p.59

何をもって成功とするか

- ・より多くの子供と若者が、芸術、博物館・美術館、図書館の豊かさを体験する機会を持つこと
- ・より多くの子供と若者が、学校やそれ以外の場所で質の高い文化教育を受けること
- ・芸術団体、博物館・美術館、図書館が質の高い文化芸術体験を子供と若者に提供していること

どのようなことを行うか

- ・教育省、被助成団体、アーティスト、学校、文化的パートナー、放送局、地方自治体、高等教育機関及び継続教育機関、その他のパートナーと協働し、卓越した芸術、素晴らしい博物館・美術館、図書館をすべての子供と若者に提供すべく、一貫性のある全国的な取り組みを実現する
- ・他者との協働により、共著や共同作業のきっかけづくりとなるような地域のパートナーシップを活性化・促進し、子供と若者のための質の高い文化体験を学校の内外で提供する
- ・子供と若者による、または彼らのための、質の高い文化芸術学習体験の創造に重点的に取り組む芸術団体、博物館・美術館、図書館に投資する

p.60

どのように目標達成度を評価するか

- ・文化教育ツールキット (Cultural Educational toolkit) などを含む投資プログラム及びその他の情報源から得たデータを利用し、各地方自治体の子供と若者が素晴らしい芸術、博物館・美術館、図書館を体験する機会の評価を行う
- ・学校、継続教育、更生施設、芸術団体において、キーステージ (Key Stages) 1～5 の各学年での文化教育の幅と品質を評価する指標として、アーツマーク (Artsmark) のデータを利用する
- ・文化芸術団体と学校の間に関連を追跡調査する
- ・文化芸術セクターが全国的な質的評価基準の特定と開発を行い、それを自己評価プログラムと統合し、セクターが与えるインパクトの理解に役立てていくことを支援する。この評価基準にはオーディエンス、来場者、利用者、専門家が関与し、文化芸術体験について意見を述べる。こうした評価基準を利用して、ファンディング・アグリーメントとピア・レビュー・プログラムについて報告を行う

p.61

芸術が可能にしてくれること
現実からの解放、
政治的、個人的宣言をする
思考する
関心を高める
世界に問題提起する
物語を伝える
記憶を記録し、生かし続ける
既存の考えや世界に異議を申し立てる
世界を詩的に見る
自分が望むやり方で世界を見る

ジネブ・セディラ (Zineb Sedira)
アーティスト

p.62

あらゆる人に素晴らしい文化芸術を

結論

第7章

p.63

私たちのアンビションは、世界に誇るイングランドの文化芸術を、できるだけ多くの人々に楽しんでもらうことです。アーツカウンシルが約70年前に発足して以来、様々な表現が用いられてきましたが、これは常に中核となるミッションでした。

計画や戦略目標は、変わりゆく環境や特定の志を反映しながら、時代とともに変化を遂げてきました。近年、私たちの責務に、博物館・美術館と図書館の育成そして文化財関連の機能が加わったため、より幅広い役割を担うことになりましたが、根底にある私たちのミッションが変わることはありません。

2010年、最初の10年戦略フレームワークを発表し、私たちは新しい時代を迎えました。この文書をもって、文化芸術セクターでどのように持続可能な成長を達成していくか、そして、真の長期的変化の実現のためにどのような投資を行うかを詳細に示したからです。

この改訂版戦略フレームワークには、私たちの責務のすべてが盛り込まれ、どのように芸術、博物館・美術館、図書館のレガシーを守っていくのかを示しています。アーツカウンシルとパートナーがどのように既存の強みを活かし、機に乗じ、現在そして未来の課題に立ち向かうかを明確にしています。歴史的コレクションや、新しい作品の依頼に対して現時点で下される決定は、今後数十年の文化を取り巻く環境の体力に影響を及ぼします。また、公的助成にとって厳しい時代であることは、私たちも認識しています。自分たちだけでは、成果を出すことはできないでしょう。投資で最大限の効果を発揮するためには、公営及び民間セクターのパートナー（芸術や教育、ビジネスや科学、コミュニティや地方・中央政府など）が必要になります。入念に検討された賢明な投資、育成、支援が求められ、判断の決定過程とその理由を極めて明確に示さなくてはなりません。

2020年までにやるべきことは山積しています。この文書に続き、私たちは2015年から2018年までの期間に適用するための、次のアーツカウンシル活動計画の草案に着手します。この活動計画では、今回提示した5つの戦略目標をどのように達成していくか、より詳細な説明を行う予定です。また、文化芸術の投資家、育成者、そして擁護者として、文化芸術が国民生活に果たす役割を一層拡大させる方法を提案します。

p.64

この改訂版は、2012年のカルチュラル・オリンピアードの閉幕からわずか1年余りで公表する運びとなりました。この祭典と、オリンピックの開会式は、国民に、世界に、我が国の文化芸術のかけがえのない価値を再認識させました。革新的で文化横断的なコラボレーション、格式ある会場に展示さ

れた障害を持つアーティストの作品、新しい空間の新しいオーディエンス、多様性が高いコレクションと展覧会、全国で行われた公演やパフォーマンスでは、今までにない方法でデジタル技術が活用されていました。あらゆる立場の人達が、参加する機会を大いに楽しんでいました。地方自治体が団結し、イングランド全体が活気づく様子を目にしました。私たちが力を合わせれば、どのようなことが成し遂げられるかを垣間見せてくれたのです。本戦略が対象としている期間、私たちはこうした成功を礎として、あらゆる人に素晴らしい文化芸術という共通のビジョンを達成するために活動していきます。

人生を生きる
価値のあるもの
にする

ジェレミー・デラー (Jeremy Deller)
アーティスト

p.65

アーツカウンシル・イングランド
ザ・ハイブ
49 レバーストリート
マンチェスター M1 1FN

Email: enquiries@artscouncil.org.uk
電話: 0845 300 6200
テキストフォン: 020 7973 6564

www.artscouncil.org.uk
@ace_national
[facebook.com/artscouncilofengland](https://www.facebook.com/artscouncilofengland)
チャリティ登録番号 1036733

(ロゴ)

この文書は点字、大きいサイズのプリント、オーディオCD、電子媒体としても入手可能です。これらのフォーマットを必要とされる場合はご連絡ください。

この文書、またはアーツカウンシル・イングランドが発表する文書の完全なリストは、www.artscouncil.org.ukでダウンロードできます。

ISBN: 978-0-7287-1535-6

©アーツカウンシル・イングランド、2013年10月

執筆・編集・制作：アーツカウンシル・イングランド。
この文書は、文化芸術に関わる多くの人々の寛大な助言、深い洞察と専門性のもとで制作されました。皆様の協力に感謝しています。

私たちは透明性が高く、アクセスしやすい組織を目指しています。私たちの活動に対するご意見を歓迎します。上記のアーツカウンシル・イングランドのアドレスまで、アドボカシー及びコミュニケーション部のナショナルディレクター宛てにご意見を寄せください。

デザイン:ブラスト

www.blast.co.uk

裏表紙

www.artscouncil.org.uk

表紙

Unlocking Potential, Embracing Ambition
可能性の扉を開き、大志を抱く

芸術・映画・クリエイティブ産業の共通計画
2014年～2024年

見返し

本文書のいずれの部分も、クリエイティブ・スコットランドの書面による事前許可なしには、どのような形態であれ複製することはできません。

平等な機会

クリエイティブ・スコットランドは、機会均等政策を運用しており、オフィスは身体障害者に対応した施設となっています。一部の出版物については、ゲール語、大型活字版、点字、オーディオ形式の提供が可能です。お問い合わせは0845 603 6000までお願いいたします。タイプトークの識別番号は18001です。

本計画書は、クリエイティブ・スコットランドが電子的形態で作成しています。環境にご配慮いただき、必要でない限り印刷はお控えください。

皆様のご意見は貴重です。本文書に関するご意見はfeedback@creativescotland.comまでお寄せください。

表紙：「Island Drift」

クリエイティブ・スコットランドの依頼に基づき、ロック・ロモンド&ザ・トロサックス国立公園の協力によりNVAが制作。

写真：Alan McAteer

p.1

クリエイティブ・スコットランドについて

クリエイティブ・スコットランドは、スコットランドで生活・活動する人々やこの地を訪れる人々のために、スコットランドの芸術・映画・クリエイティブ産業を支援する政府外公共機関です。私たちの役割は、スコットランドの芸術・クリエイティブセクターにおいて個人・団体が活動や体験をできるようにすることです。その実現のため、私たちは、文化の創造を目指して素晴らしい構想を練り上げ、これに命を吹き込む人々の支援を行っています。

p.2

Edinburgh Printmakersのドアーズ・オープン・デーに参加したパキスタン・ラホール在住のアーティスト Fahd Burki。
写真：Edinburgh Printmakersの許可により転載

p.3

目次

10年後 p.6	共通ビジョン p.13	アンビションと 優先課題 p.17
-------------	----------------	-------------------------

統一テーマ p.24	私たちの目的 p.32	人間と創造性 p.41
クリエイティブ・システム p.47	政府との協働 p.52	参考情報 p.56

p.4

「Some of the Moments We Haven't Forgotten」

振付：Christine Devaney

インクルーシブ・ダンス・アンサンブルIndependance
4：Hayley Earlam, Adam Sloan, Neil Price, Kelly McCartney

写真：Brian Hartley

p.6

10年後

2014年

スコットランドは、高地から低地まで広がりのある地勢で、都市部と農村部が併存、海岸線は11,000キロメートルに及び、800近い島々があります。32の行政区画に分かれ、ここで生活・就労する人の数は530万人に上ります。スコットランドの創造的な文化は、ますます多様になっています。私たちの文化は、歴史を反芻し、問い直し、人々とコミュニティに一体感を与えています。そして、スコットランド経済において毎年約30億ポンド相当の、65,000人を超えるクリエイティブ職の雇用を後押ししているのです。

私たちが望む10年後のスコットランドの姿とは

芸術・映画・クリエイティブ産業が尊重、評価され、アーティストやクリエイティブな人々が生き生きと活躍し、誰もが、どこにいても、創造性に関心を持ち、好奇心を示すような、そんなスコットランドになっていることを望んでいます。

スコットランドの多様性と独自性は、この土地の言葉であるゲール語とスコッツ語に反映されており、これまでよりも多岐にわたる他文化からの影響を受けることにより一層高められています。10年後にはこうした多様性と独自性が、世界にも伝わっていることでしょう。

また、豊かに織りなすスコットランドの幾多の都市、街と環境は、この土地ならではの背景から誕生したものとして認識されるようになるでしょう。そして、芸術と創造性はスコットランドの特色として評価を受け、理解されることとなります。ヘルムズデールやランガム、アラプールなどの場所が、地域における創造性に着目し、深い理解を示す動きがありますが、このことはエディンバラ・フェスティバルやスコットランド国立美術館、スコットランド室内管弦楽団、ピクトリア&アルバート・ミュージアム・ダンディなどの組織と同様、スコットランドの多彩さに寄与することになることでしょう。

p.7

創造性は、多様なコミュニティ、生き立ちや社会的背景、ライフスタイルを超越し、新しい社会的な結びつきを織り上げる縦糸と横糸になっていきます。人々は自らが暮らすコミュニティの中で、創造的なことにアクセスしたり打ち込んだ

りするだけでなく、物語を語り、歌を歌い、音楽を奏でるほか、ダンス・芸術・演劇・工芸・文学・映像を通して、つながりを作ることに誇りを持つようになるのです。

自信と愛情をもって営まれるこうした活動は、スコットランド的であることとは何かを表しています。同時に、オーディエンスを、様々な文化を持っていたり、世界の色々な場所からやって来たりするアーティストやカンパニーとの、創造性に満ちた出会いに誘いもします。スコットランドの人々は美と思いやりとユーモアをもって、体験を共有し、人生を称え、存在とは何か、人間性とは何かを問い、他者との関係性を探究します。そのようなスコットランド人の精神と探究心こそ、この国に与えられた贈り物なのです。アーティストやクリエイティブな人々は、日々の暮らしに影響を与える存在になってゆくでしょう。その結果として彼らは、文化に関わる領域だけでなく、健康や経済成長、教育といった相互に関連し合う分野を所管する地方及び国レベルの政策立案担当者にとっても、助言やひらめきを与える貴重な情報源として認識されるようになるでしょう。

スコットランドには、より多くのアーティストやクリエイティブな人々が努力の対価として正当な収入を得られる環境が整うことになるでしょう。芸術・クリエイティブセクターで活動する人々は、これまでの実績を足掛かりとし、新たなスキルの獲得や、新たなネットワークとビジネスモデルの構築を、スコットランドそして世界中で行うことにより、自らの競争力を向上させていくことでしょう。新しいカンパニーや団体が誕生し、中には規模の大きなものも含まれているだろうことから、クリエイティブセクターに雇用を生み出していることも考えられます。そして作品の質は、国際的に高い評価を受け、スコットランド内においても、それが世界に通用するレベルであることが認められるようになっていくでしょう。

スコットランドはクリエイティブ産業に対して画期的な取り組みを行う国として世界に知られ、イノベーションや経済力ではスコットランドをはるかに上回る国々と競い合っています。本計画で提案しているクリエイティブ・システムは、クリエイティブ・ルネサンスを起すものとして認識されることになるでしょう。

あらゆる若者は、芸術と創造性が、教育や友人関係、社会経験、オンラインを通じて生活の一部となることを期待するようになるでしょう。そして彼らは、スコットランドの文化的背景や伝統、言語に対する深い理解を基に、力を合わせ新しい未来を築いてゆくのです。自身や子供たちをはじめ、この地を訪れ滞在する人々のためにも、豊かで堅実な未来を築こうという情熱溢れるアンビションも、その原動力です。

スコットランドは質の高い文化に根差した、温かな歓迎を示す場所となっていくますが、それを支えるため、芸術・映画・クリエイティブ産業は大きな役割を果たしています。現実世界と同じようにバーチャルな世界でも、多くの人がスコットランドに押し寄せ、観光や仕事、遊びを満喫することになります。誰であろうと、どこにいようと、すべての人が、スコットランドのクリエイティブな取り組みから、力となるものを得ることになるでしょう。

スコットランドは、クリエイティブな影響力を持つ国として一目置かれる存在になります。人間、衝動、ニーズを理解する国として、またあらゆる人のクリエイティブな可能性を大いに歓迎する国として、先頭に立っていきます。目指してい

るものが世界トップクラスのヴァイオリニストであろうと、最先端に行く建築家やデザイナーであろうと、ダンス・文章・芸術・映像・ゲーム・演劇・歌を通して人々を開放し、彼らの人生を変えたいということであろうと、あらゆる人を受け入れたいのです。

10年後のスコットランドは、素晴らしい場所になっています。また、そうなれる場所だと確信しています。私たちは、このビジョンを実現するため、スコットランドや世界の皆さんと共に取り組んでいくことを楽しみにしています。

ジャネット・アーチャー (Janet Archer)
チーフ・エグゼクティブ

p.8

場所に対する私たちの強い愛情、この土地と景観が織りなす美しさ、スコットランドの物語の奥深い豊かさ、そして、この極めて重要な21世紀という時代にあつて、問題を抱えた惑星である地球のために貢献したいという私たちの気持ちを十分に表現できるのは、芸術をにおいて他にありません。

ドナルド・スミス (Donald Smith)

Scottish Storytelling Centre / Traditional Arts and Culture Scotland

p.9

理事長あいさつ

本計画は、芸術・映画・クリエイティブ産業で活動する大勢の方々の多大なるご協力によって策定されたものです。お読みいただいた方には、この理想を共有し、その実現のためにご協力いただければ幸いです。

本計画には、これまでの実績を足がかりにさらなる発展を望む一面もあることから、継続性という要素を見て取ることができるでしょう。同時に、新たな切り口や着想も盛り込まれています。こちらは、一部に改善の余地がある、もしくは改善すべきであるとの認識によるもので、チームに新しいメンバーを加え、多くの素晴らしいプラクティショナーから貴重な専門的ご意見をいただきました。

これまでも文化芸術コミュニティや大切なスコットランドの人々のために、多くのことが成し遂げられてきました。スコットランド各地で文化の提供や交流の機会を増やしてきたことは、成功とっていいでしょう。その具体例として、地方自治体と協力したPlace PartnershipsプログラムやCreative Place Awardsといった賞の授与がありますが、どちらもスコットランド各地の多くのコミュニティを対象として、その活動を評価するものです。

その一方で、スコットランドの文化芸術の豊かさと多様性を最大限に活用し、スコットランドのみならず世界の芸術・映画・クリエイティブ産業全体のつながり合いを深めるためには、まだまだ多くの取り組みが待ち受けています。

私たちは、クリエイティブ・スコットランドの付託事項が対象とするクリエイティブ産業のすべてに対して、理想を描いています。また、ナショナル・パフォーミング・カンパニーズや博物館・美術館、ギャラリー、図書館、文化・歴史的遺産、地方自治体を介したさまざまな文化活動を含め、スコットランドの幅広い文化拠点の結びつきを強めたいという夢も

あります。

あらゆる形の結びつきの可能性を認識することが、本計画の核となります。とりわけ私たちが助成する個人や団体とは、常に可能な限り協力・連携していきたいと考えています。また、スコットランド政府をはじめ、公共・民間・非営利セクターのさまざまな国内・国際機関と連携することで、文化芸術のために利用可能なリソースを充実させていく必要もあります。こうした関係をあらゆる人々のために築き、育んでいく上で、クリエイティブ・スコットランドは育成と働きかけを行うという重要な役割を担っています。

私たちは、本計画に定めたビジョンとアンビションを実現することに焦点を絞って、すべての取り組みを進めていきます。クリエイティブ・スコットランドは芸術・映画・クリエイティブ産業をはじめ幅広い人々と協力することにより、この素晴らしい国家で素晴らしい事が実現できるよう、お手伝いをしてまいります。

サンディ・クロムブル卿 (Sir Sandy Cromble)
理事長

p.10

National Youth Choir of Scotland
指揮：芸術監督 Christopher Bell
写真：Drew Farrell

p.12

Scottish Dance Theatre の Lewis Wilkins による「Innocence」
パフォーマンス・プレイルームで行う他にはない試み。ウィリアム・ブレイクの『無垢の歌 (Songs of Innocence)』をオーディエンスが体現。
写真：Maria Falconer

p.13

共通ビジョン

私たちが望むスコットランドとは、芸術と創造性のことを、誰もが私たちの毎日やこの世界における鼓動とみなし、積極的に尊重し称賛する、そのような場所です。そして、想像力と物事への取り組みが常に広がりを見せ、芸術・映画・クリエイティブ産業が自信に溢れ、互いに結びつき、繁栄している、そのような場所です。

このビジョンを作り上げるに際しては、多くのご尽力をいただきました。

芸術・映画・クリエイティブ産業で活動する大勢の関係者が、このビジョンと計画全般について、2013年の春と秋に行ったオープン・セッション・プログラムや外部のリファレンスグループ、直接の議論を通して情報を提供してくれました。スコットランド政府や地方自治体、公共・民間・非営利セクターのパートナーはもちろんのこと、当機関の理事会やスタッフも貢献しています。また、私たちはオンラインでのコンサルテーション（意見聴取）やパブリックコメントを通じて寄せられた市民の意見も考慮しました。

p.14

スコットランドの若者によるダンス団体 YDance
写真：Paul Watt

p.16

創造性と芸術は、私たちが映し出す鏡です。その鏡のおかげで、自分たちが何者であるのか、何者になれる可能性があるのかを見ることができるようになります。創造性と芸術は、自分の弱さを認識させてくれるものであり、また、恐れを直視させてくれるものでもあります。そして何よりも重要なのは、創造性と芸術は、すべての人が備えている人間性に気づかせてくれるということです。

エイドリアン・サール (Adrian Searle)
Freight Books 出版者

p.17

アンビションと優先課題

次の5つのアンビションは、今後10年間に私たちが共同で実現する目標です。それぞれのアンビションについて優先事項を挙げており、今後3年の間に取り組んでいきます。

これは、助成のガイドライン及び意思決定行為と、私たちの開発計画の基本となるものです。

私たちが助成する個人や団体が、このアンビションと優先事項をすべて実現することを期待しているわけではありません。

しかしながら、私たちはこのアンビションと優先事項に責任を負っています。私たちが助成、アドボカシー、育成、働きかけを行う機関としての役割を果たしていく中で、今期はこれらの事柄の達成を報告したいと考えています。そのためには、被助成団体と締結するファンディング・アグリーメントの内容をより明確なものとし、計画を着実に実行するための戦略的な判断を行っていきます。

私たちは今後10年の間に、スコットランドが次のような場所になることを望んでいます。

芸術、映像／映画、クリエイティブ産業の3つのセクターで、卓越性と実験的な試みが認められ、評価されること。あらゆる人が芸術的でクリエイティブな世界にアクセスすることができ、楽しむことができること。想像力とアンビションを持ち、創造性に秘められた可能性を理解することにより、場と生活の質を変えること。スキルを備えた多様な人々がつながりあい、リーダーとして、あるいは組織の一員として活動し、アイデアを実現すること。スコットランドがクリエイティブな国として際立ちつつも、世界とつながっていること。

各アンビションの下、今後3年の間に取り組む優先事項

アンビション	優先課題
<p>芸術、映像／映画、クリエイティブ産業の3つのセクターで、卓越性と実験的な試みが認められ、評価される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い作品の創作及び制作を行うため、スコットランドの個人・団体を支援する。 ・討論、クリティカル・シンキング、リスクを負って実験的試みを行うための場を創出することで、芸術・映画・クリエイティブ産業内の連携を促すとともに、デジタル技術を最大限に活用する。 ・才能が認められる新たな人材がキャリアを高められるよう、明確な道筋を確立し、提示し、支援する。
<p>あらゆる人が芸術的でクリエイティブな世界にアクセスすることができ、楽しむことができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが助成する活動に、誰でもどこでも参加できるようにする。 ・デジタルプラットフォームの活用や積極的なコラボレーションにより、作品の展示・巡回・伝達（配給）を充実させる。 ・参加者、オーディエンス、購入者が、芸術・映画・クリエイティブ産業の真価を認め、胸を張って関わることのできる環境づくりを促進する。
<p>想像力とアンビションを持ち、創造性に秘められた可能性を理解することにより、場と生活の質を変える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体などと協働し、創造性によってコミュニティを変える支援をする。 ・コミュニティの認知度を上げ、価値を高めるような、インフラ、クリエイティブ拠点、ネットワークの整備を支援する。 ・人々のエンゲージメントと価値観を刺激するような社会活動の実践を働きかける。

どのような成果が得られるか	
<p>スコットランドにおいて、多彩な分野と様式で活動するアーティストやクリエイティブな個人・団体のコミュニティが数多く存在し、互いに結びつきながら繁栄する。その質の高い発想、作品、社会への貢献が認知され、評価される。</p> <p>アーティストやクリエイティブな人々は、経済的な面だけでなく精神的にも支えられているため、時間と空間を確保することが可能となり、活動を行ったり、示唆に富み、刺激的で質の高い作品を制作したりすることができる。</p> <p>研究、開発、クリティカル・シンキング、自らの行動の振り返りなどのすべてが、その価値を公的に認められる。</p>	<p>人生のどの段階にあらうとも、芸術・映画・クリエイティブ産業でのキャリアを積むためのさまざまな進路にアクセスできる。</p> <p>スコットランド各地で情報や支援が得られる。新人のアーティストであっても、情報や機会、仲間だけでなく、自分の作品を展示してもらう団体の「ネットワーク」にすぐにつながる事ができる。</p> <p>画期的な作品を制作・共有する機会を誰にでも提供するものとして、最新技術が高く評価される。</p>
<p>芸術・映画・クリエイティブ産業は広く受け入れられると同時に、すべてを受け入れる包括的な産業として認識される。</p> <p>芸術・映画・クリエイティブ産業がコミュニティにもたらす社会的・経済的利益が理解され、評価される。</p> <p>世代を問わず、スコットランド各地のさまざまなコミュニティ（ゲール語やスコッツ語のコミュニティなど）の人々が、芸術と創造性に、有意義な形で深く関わる事ができる。</p>	<p>人々は、生のパフォーマンスやイベント、映画、展覧会のみならず、デジタル的なアクセスの普及によって芸術や文化に触れることができる。</p> <p>私たちが支援する団体や個人が連携して創意に富んだ活動することで、一般の人々が芸術や文化に関わる機会が増える。こうした団体や個人は、人々が芸術的でクリエイティブな活動にアクセスできるよう新たな手法やプラットフォームを探究し、オーディエンスが多様な体験に参加できるように支援する。例えば、必要に応じて説明や通訳、翻訳を提供することが挙げられる。</p>

<p>芸術、創造性、文化がスコットランド全域のコミュニティと政策当局に認められ、高く評価される。</p> <p>地元の独自性の高い作品が評価・奨励される。</p> <p>文化・歴史的遺産、言語、地方自治体、アーティスト、芸術団体、クリエイティブ企業などを所管する他の政府機関との連携が強化され、都市と農村のコミュニティの資源を最大限活用できるようになる。</p> <p>コンテンポラリー作品から、ゲール人・スコット人の伝統芸術、スコットランドの言語に触発された作品にいたるまで広義のスコットランド文化が、より深く理解される。</p>	<p>スコットランドは、文化的多様性を歓迎し、スコットランドで耳にする他の言語（パンジャブ語、ウルドゥー語、ポーランド語、アラビア語など）からの良い影響を喜んで受け入れる。</p> <p>スコットランドの芸術・映画・クリエイティブ産業は互いに結びつき、認知度を向上させ、雇用機会を拡大させます。</p> <p>創造性が、いかに人々のウェルビーイングを作り出すかについての知識と理解が深まる。</p>
--	---

p.20

アンビション	優先課題
<p>スキルを備えた多様な人々がつながり合い、リーダーとして、あるいは組織の一員として活動し、アイデアを実現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見識・自信・意欲を備えた、セクターで共有できるリーダー層を、各団体と協力して育成する。 ・持続可能なビジネスモデルの構築を支援する。 ・高等教育を含むセクター間の協力により、持続的なキャリアの形成に必要な人材とスキルの強化を図る。
<p>スコットランドがクリエイティブな国として際立ちつつも、世界とつながっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な対話と交流により、芸術的でクリエイティブな活動を深めていく。 ・国際的な巡回展示や、スコットランドでの展示を支援することで、オーディエンスを引き寄せ、文化的理解を促す。 ・クリエイティブ団体やプラクティショナーによる適切なグローバル市場への参入、またはグローバル市場の開発を支援する。

p.21

どのような成果が得られるか	
<p>政府機関、教育関連機関、アーティスト、クリエイティブな個人・団体の間に強力なパートナーシップが存在し、人材とスキルを育成する。</p> <p>芸術・映画・クリエイティブ産業から多様な人材が見いだされ、育成される。学習や知識の共有、情報やネットワークへのアクセスが容易となり、人々はスキルが向上する。</p> <p>自信と広い見識に基づく多様なリーダー層により、多角的な視点が統合された判断がなされ、公的資源を最大限に生かす。</p>	<p>新しいクリエイティブ・ビジネスのモデルによって、個人や団体に安定と新たな機会を提供する。</p> <p>世界に通用する着想が新たな収益の流れを引き起こす。先んじて計画を行うことで、芸術的でクリエイティブな経済的機会を切り開く。</p>
<p>スコットランドが芸術・映画・クリエイティブ産業の重要拠点として認識される。その豊かで多様な文化は、伝統に根差しながらも実験的試みとイノベーションへの意欲を示す。</p> <p>スコットランドは、国際的な文化を受け入れ、訪れるアーティストを歓迎し、また、世界中から選りすぐった作品によりオーディエンスにひらめきを与えることで知られる。</p> <p>アーティストやクリエイティブ・プラクティショナーは、国際的な対話や交流、協働によって活動を深める機会を得られる。</p> <p>スコットランドの優れた作品が広まり、人々を楽しませる。効果的な協力関係が、新しい国際的な機会や市場の創出につながる。</p>	<p>長期的な関係やパートナーシップを築き、スコットランドや海外のアーティスト、クリエイティブ・プラクティショナー、オーディエンスのためのメリットと効果を最大限引き出す。</p> <p>欧州連合のクリエイティブ・ヨーロッパの2014-2020戦略は、私たちのアンビションと一致している。 「政策、戦略、パフォーマンスの各レベルで国際的な対話を実施しベンチマークを設定することは、セクターの垣根を越えたイノベーション、対話、評価を促進する上で有効である」</p> <p>私たちはこのアプローチを、当機関の国際関連の職務全般に適用していく。今後、どのように達成していくかについては、国際戦略を策定して説明する予定。</p>

p.22

米国テキサス州オースティンで開催されたサウス・バイ・サウスウエスト (SXSW) でScottish ShowcaseでのWithered Handのパートを演奏するKing Creosote
写真：Drew Farrell

p.24

統一テーマ (Connecting Themes)

アンビションと優先課題に加えて、私たちの活動全体を貫く4つの統一テーマがあります。

統一テーマは、私たち自身の活動と同時に、私たちが支援する活動にあてはまるものです。スコットランドの芸術・映画・クリエイティブ産業が繁栄し、人々を魅了し、評価を受ける上で極めて重要だと考えています。

助成金の申請、審査、事後評価の一環として、申請団体はこの4つの領域でどのようなことを実現していくのか説明を求めます。

4つの統一テーマ：

クリエイティブ・ラーニング
平等と多様性
デジタル
環境

p.25

クリエイティブ・ラーニング

私たちは、自らも含む各団体が敏感であり、高い順応性を備え、継続的な学習を行うことを奨励します。

学習は、次世代が、今日の成功事例からさらに歩みを進め、自分たちなりの革新を起こす礎となります。

私たちは、誰もが芸術・映画・クリエイティブ産業との関わりを通じて、自分自身に対する理解を深めることのできる機会を量的に増やすとともに、質の面でも高めていくことに注力しています。これは能力開発と雇用可能性の観点から、個人と社会にとって大きなメリットとなります。また、文化活動への参加は個人や社会全体の幸福やウェルビーイングにも大きく寄与します。

クリエイティブ・ラーニングに関する活動は、芸術・映画・クリエイティブ産業の各団体やスコットランド政府と公共サービスの他の分野との協業の下で行っています。

重要な事例の一つとして挙げられるのは、Education Scotlandなどのパートナーと協働して策定したスコットランド初のクリエイティブ・ラーニング・プラン (Creative Learning Plan) です。

クリエイティブ・スコットランドは、0歳から25歳までを対象とするナショナル・ユース・アーツ戦略 (National Youth Arts Strategy) 「Time to Shine」も推進しています。この戦略を通じて私たちは、芸術分野の若い世代と協力し、「スコットランドの子どもや若者が、芸術と創造性を通じて

活躍し、その世界で成功することを支援する」というビジョンを実現しています。

今後の活動の一部をご紹介します。

- ・私たちのスタッフが学習に対する理解を深められるように支援する。スタッフは学習の成果を、私たちの活動のすべての面に反映させていくことが可能となる。
- ・被助成団体にクリエイティブ・ラーニング活動についての報告を求める。
- ・Education Scotlandやスコットランド財政カウンスルなどの他の学習団体とのパートナーシップを強化するとともに、新たなパートナーシップも構築する。
- ・公共・民間・非営利セクターに対してクリエイティブ・ラーニングの価値を訴える。
- ・私たちのクリエイティブ・ラーニング・プランによって達成した共同活動の成果を定期的に公表する。

生涯学習により、私たちの活動全般や私たちが支援する活動が、より広い意味での社会において、芸術・映画・クリエイティブ産業の役割と影響力を高めていくことを目指しています。

p.26

平等と多様性

平等と多様性は、私たちの活動全般に不可欠であり、芸術・映画・クリエイティブ産業の質を高める上でも極めて重要です。

私たちは平等と多様性を常に活動の中心に据えることを目指しています。

芸術への参加・関わりは、平等性の促進に役立つとともに、ウェルビーイングに寄与します。多様なコミュニティ、生い立ちや社会的背景、世代の人々が、芸術に触れることで人生の大きな機会を発見する可能性があります。

平等とは、スコットランドの多様な文化を守り、アーティストやクリエイティブな人々の意見に耳を傾け、スコットランドで芸術に参加・参画する機会をできる限り多くすることに他なりません。

私たちは文化的背景が異なる人々の間に理解を促し、好ましい考え方が築かれるように取り組んでいきます。また、ゲール語やスコッツ語などスコットランド固有の文化や言語の価値を守り、奨励するという法定要件も満たしていきます。

私たちに定められた法定要件とはゲール語を守っていくことです。そのために、まず私たち独自のゲール語計画 (Gaelic Language Plan) を実施するとともに、ゲール語の認知度を高め、ゲール語との関わりを増やす上で文化芸術が果たす重要な役割を認識していきます。

また、スコットランド内外で革新性が認められている、障害のあるアーティストの活動を支援していることを誇りに思っています。私たちはアーツカウンスル・イングランドと協働し、意欲的かつ優れた作品の制作や展示を依頼し、育成支援を行っています。

今後の活動の一部をご紹介します。

- ・当機関のスタッフが平等に対する理解を深められるように支援する。それにより、真に包括的（インクルーシブ）な芸術・映画・クリエイティブ産業セクターを謳う私たちのビジョンを実現することができる。
- ・平等促進プログラム（Promoting Equalities Programme: PEP）に基づき、平等の概念を組み入れた計画立案、プログラム策定、オーディエンス開発を行うように被助成団体に求める。
- ・パートナーと協力して、不平等に対処する戦略的プログラムを実施する。
- ・法的義務に従ってスコットランドの芸術・映画・クリエイティブ産業に平等性を取り入れ、その進捗について2年ごとに平等の成果（Equality Outcomes）を発行し、報告を行う。

p.27

デジタル

デジタル技術は、スコットランドの創造性、社会、経済に絶好の機会をもたらします。

次世代ブロードバンドと4Gネットワークが展開し、新しいデジタルチャンネルが登場する中、私たちは芸術・映画・クリエイティブ産業が、インターネットと最新デジタルツールのもたらし得る利点を最大限活用できるように全力で支援します。

誰もが、最新技術を駆使する能力とスキルを備えるとともに、革新を押し進める多様なツールを活用するための自信とスキルを身に付ける必要があります。

最新のデジタルツールを取り入れることにより、組織の運営は変わるだけに留まらず強化され、利益を創出し、オーディエンスを惹き付け、動員数を増やし、クリエイティブな活動やそのプロセスに影響を与えることが可能となります。

クリエイティブ・スコットランドは、スコットランド政府のデジタル戦略の4つの柱「デジタルへの参加」「デジタル経済」「デジタルへの接続」「デジタル公共サービス」に準拠しています。

近年、仕事や家庭、携帯電話でのインターネットの利用は急激に広まっています。世界に通用する水準のサービスを提供するための最善のインフラを整備するには、農村地域を中心になすべきことが未だ残っています。しかし、デジタルによる双方向の体験をしたいというオーディエンスの期待が高まるにつれ、各団体が新しい技術を取り入れ、最新プラットフォーム上で、最新の手法を用いて作品を届ける必要性も高まっています。

私たちは、クリエイティブな個人・団体が、自らの作品を展示・販売する上で必要なデジタルのスキルや理解力を身に付けられるように力を入れていきます。当機関では、各団体のデジタル関連の発展を直接的に支援することに加えて、スコットランドの人々が誰でも優れた文化芸術に触れられるようになることを目指しています。

今後の活動の一部をご紹介します。

- ・盤石な映像／映画戦略を策定し、新たな機会と資源を開放することを目指す。

- ・想像力に富んだ最新手法でデジタル空間を利用する作品に資金を助成する。
- ・作品の制作過程を紹介するライブ配信を奨励する。
- ・次世代が今日の功績の恩恵を受けることができるように、被助成団体に対して、その芸術活動やプロセス、成果を文書にまとめ、アーカイブするよう促す。
- ・テクノロジー企業との関係を深め、技術者やプログラマーの新規採用あるいはスタッフのスキル向上を目的とした育成を行う団体を支援する方法を検討する。

今後、どの団体もデジタル思考を活動に取り入れることを期待しています。私たちも例外ではありません。今後は、団体のデジタル能力、オーディエンスの期待、私たちスタッフに求められるスキルを検討していきます。

このような取り組みを行うことにより、私たちは芸術・映画・クリエイティブ産業全体のデータをよりよい形で収集することができるようになるでしょう。その結果として、社会・経済・市民生活において、文化がよりよい形でその重要な役割を果たせるようになるとともに、オーディエンスやオーディエンスのニーズへの対応について、理解を深めることができるようになります。

p.28

環境

気候変動は私たちが現在直面している最も重要な課題のひとつです。私たちはできる限り持続可能な方法で活動することを望んでおり、スコットランドの芸術・映画・クリエイティブ産業もそうであることを願っています。

クリエイティブ・スコットランドには、スコットランドの全公共機関と同様に、2009年スコットランド気候変動法に基づき、次の法定要件が定められています。

- ・同法の排出削減目標値の実現に寄与すべく、それに最も適した方法で活動すること。
- ・そして、最も持続可能性が高いと思われる方法で活動すること

施行は2011年1月1日のことです。

スコットランド政府は2020年までに二酸化炭素の排出量を42%削減することを目標に掲げており、この目標実現に向けて、各公共機関に対しても目標値を定めるよう奨励しています。

公共機関であるクリエイティブ・スコットランドは、環境方針を定め、これを実施することと、その進捗を年に1回報告することが義務付けられています。また、組織としてのクリエイティブ・スコットランド及び私たちが支援する活動が、「環境に配慮し、持続可能なスコットランド」のために、どのように貢献しているか実証できるようにしなければなりません。

芸術・映画・クリエイティブ産業が直面している環境問題は、極めて多様かつ複雑であり、それは活動の幅の広さゆえのことです。課題としては、展示会場のエネルギー利用の管理から、海外から訪れるオーディエンス、一回限りのユニークな演目による環境への影響までさまざまです。

今後は、芸術・映画・クリエイティブ産業が、環境への影響と二酸化炭素排出量の低減についてリーダーシップを発揮しコスト削減が進むようにすることに加えて、団体やその活動に持続可能な行動が取り入れられるようにすることを目指します。

私たちはこれからもこうした動きを支援し、奨励していきます。今後の活動の一部をご紹介します。

- ・環境方針や運営計画に基づき、環境的に持続可能な方法で運営する努力をする。
- ・パートナーたちと協力し、芸術・映画・クリエイティブ産業の個人や団体のほか、オーディエンスを含む幅広い社会に対して、環境的に持続可能な行動を奨励する。
- ・二酸化炭素削減に関する当機関の寄与や、環境的に持続可能な方法での運営について報告を行う。
- ・被助成団体が持続可能な行動を採用し、二酸化炭素排出削減に対する寄与を報告するための支援を行う。

p.29

スコットランドの文化を巡っては、農村のコミュニティとコンテンポラリー・アーティストとの対話という非常に興味深い新しいムーブメントが高まりを見せています。特にハイランド地方や島嶼部では新しいプロジェクトが花開いています。これらのプロジェクトは個々のコミュニティからそれぞれの影響を受けています。過去を探究することにより、芸術作品が、帰属意識やその場所に住むこと、そして生態系に関する極めて重要な問いを投げかけようということを示しています。

ハンナ・トゥーリキ (Hanna Tuulikki)
アーティスト・作曲家

p.30

National Theatre of Scotland の「Ignition」
協力：Shetland Arts、Creative Scotland
写真：National Theatre of Scotland

p.32

私たちの目的

私たちは政府外公共機関として、スコットランド政府及び政府閣僚の支援 (sponsored) の下、スコットランド政府と国営宝くじから資金提供を受けています。

スコットランド政府の文化担当課 (Culture Division) の支援を受けているほか、学習と司法、企業、環境とデジタル、保健とソーシャルケアなど、その他の部局とも連携しています。

スコットランドにおける文化の提供という大きな枠組みの中で、私たちは芸術・映画・クリエイティブ産業に着目していきます。対象に含まれるのは、ナショナル・パフォーミング・カンパニーズ、スコットランドの図書館・博物館・美術館・ギャラリーを所管する機関、その他、地方自治体による文化等への投資です。

私たちに委託された権限は、公共サービス改革法 (スコットランド) 2010 (Public Services Reform (Scotland) Act

2010) の第4編に定められており、クリエイティブ・スコットランドの一般的役割は次のように説明されています。

- ・芸術やクリエイティブな活動に携わっている個人・団体の中から、質の高い優れた文化芸術を見だし、支援・育成すること
- ・文化芸術に対する理解、鑑賞する力を促進し、より一層楽しんでもらうこと
- ・可能な限り多くの人々が文化芸術に触れたり、参加したりするように促すこと
- ・合理的に実行可能な範囲で文化芸術の価値と恩恵 (特に国内外での価値と恩恵) を生み出すこと
- ・広い意味でのスコットランド文化を生活様式として理解することに寄与する、芸術などのクリエイティブな活動を奨励し、支援すること
- ・クリエイティブなスキルの活用を主眼とした産業や商業活動を振興・支援すること

つまり私たちの役割は、スコットランドの芸術・映画・クリエイティブ産業で活動する、あるいはこれを体験する個人や団体を支援し、優れた着想の実現に寄与することです。

委託された事項は、私たちに次のような機会をもたらしました。

- ・セクターを横断した結びつきと学習のためのパイプ役として機能する。
- ・より広い文化の体系と経済を理解し、その強化のために行動を起こすべき領域を特定する。
- ・私たちが助成する活動を、クリエイティブで芸術的、文化的、社会的、経済的発展の中心に据え、文化芸術に対する今後の公共投資の拡大を促す。
- ・芸術・映画・クリエイティブ産業の収入源の開拓・多様化を支援し、知的財産から得られる機会を最大限に高め、商業ベースのクリエイティブ系企業、アーティスト、クリエイティブ・プラクティショナーの間の連携を促す。

p.33

Funding: 助成
Advocacy: 政策提言
Development: 育成支援
Influence: 働きかけ

芸術・映画・クリエイティブ産業
互いにつながり、互いに頼りあい、互いにやりとりする

p.34

芸術

私たちは、ダンス、文学、音楽、演劇、ビジュアルアート、分野横断的な実演や活動など、あらゆる活動領域にまたがる芸術に携わる個人と団体を支援します。スコットランド政府をはじめ、地方自治体、公共・民間・非営利セクターと連携しながら、その支援を実現しています。

映画

私たちは、映像・テレビ番組の制作、複数のプラットフォームに対応するメディアを支援します。また、スコットランドにおける国際的な映画制作を振興しており、英国放送協会 (BBC) や英国映画協会 (BFI) などの機関とも協力関係にあります。現在、映像セクターやスコットランド政府と協議

を重ねながら、スコットランドの映像発展のための戦略を開発しています。

クリエイティブ産業

クリエイティブ産業への支援は、スコットランド・クリエイティブ産業パートナーシップ (Scotland's Creative Industries Partnership: SCIP) と連携して実施しています。SCIPのメンバーとなっているのは、スコットランド政府をはじめ、クリエイティブ・スコットランド、スコットランド開発公社、ハイランド開発公社、スコットランド財政カウンスル、スコットランド・スキル開発、スコットランド地方自治体協議会 (COSLA)、ビジネス・ゲートウェイです。クリエイティブ産業はさまざまなクリエイティブなスキルを備えた人々が牽引しており、知的財産を創出・活用し、富をもたらし、雇用に貢献しています。雇用の対象には広告から建築、コンピューターゲーム、工芸、デザイン、ファッション、テキスタイル、映像、ビジュアルアート、音楽、ダンス、演劇、著述・出版、写真、ラジオ・テレビ、ソフトウェア、電子出版まで、商業ベースの幅広いクリエイティブ活動が含まれています。

私たちは、年次計画を作成して各年度の活動内容を紹介するほか、その時点での芸術・映画・クリエイティブ産業の育成ニーズの概要も公表します。オンライン上で更新されるこれらの情報は、各会計年度の初めに当機関のホームページに掲載されます。

p.35

私たちの役割

私たちは資金を提供し、政策を提言し、育成を支援する組織であると同時に、機会を広げ、私たちの資源がもたらし得る効果を最大限に引き出すために、他の組織にも働きかける組織です。

助成

私たちは主に2つの組織、スコットランド政府と国営宝くじ基金が拠出した資金を助成金として交付しています。助成は、スコットランド各地の団体を支え、個人の育成を支援するほか、着想やプロジェクトに資金を拠出し、戦略的ニーズに対処するパートナーシップを構築するための手段です。今後は、3つのルートで助成を行っていきます。

- ・団体に対する3年間の助成 (レギュラーファンディング)
- ・実践的育成など、期間限定のプロジェクトを実施する個人・団体への助成
- ・パートナーと共通の戦略目標を実現することを主眼として、対象を絞り込んだ少数のプログラムへの助成

政策提言

私たちは他の組織と協力して、スコットランドの芸術・映画・クリエイティブ産業の認知度を高め、国内外を問わずその素晴らしさを幅広いオーディエンスに伝える支援をしています。スコットランド各地の個人・団体の活動を紹介することもそのひとつです。また、こうした支援は、芸術的でクリエイティブな活動とその役割——人々の生活を健康やウェルビーイング (身体的、精神的、社会的に良好な状態) という点でより良いものにするという役割——の価値と、こうした活動が地域とスコットランドの経済に果たす役割に対する認識を高めることでもあります。

育成支援

私たちは他の組織と協力して、芸術・映画・クリエイティブ産業が繁栄するための最高の環境を創出しています。その一例が、経済開発機関、スコットランド政府、地方自治体、その他の公共部門・民間部門の組織と協力して、知見と資源を共有するとともに、地域、国、海外での機会を広げるためのスキルを育成することです。私たちが育成に果たす役割は、卓越性とプレイスメイキング (場の創造) の支援に重点を置いたものです。

働きかけ

私たちは芸術・映画・クリエイティブ産業を把握している組織として、その知見や専門知識を生かし、各団体がより戦略的に活動できるように、直接・間接を問わず支援します。助成対象活動に関するデータ分析のみならず、一次・二次調査も利用しながら、エビデンスに基づく、影響力を与える存在 (インフルエンサー) としての役割を発展させていきます。また、方針説明やセクターの専門的な情報、ベストプラクティス指針を提供することで、個人・団体が機会を特定し、利用できるように支援します。

p.36

あらゆる世代が集まるスコットランドのクリエイティブ・エージェンシー・フェスティバル「Luminate」のプロジェクトの一つ「Old Skool Graffiti Project Livingston」に参加したBunty。Luminateは、Age Scotland、ベアリング財団、クリエイティブ・スコットランドが共同で運営。

写真：Eoin Carey

p.37

パートナーとの協働

クリエイティブ・スコットランドはスコットランドの文化的な生態系の一端を担うにすぎません。

私たちの活動は国内のみならず海外にも及んでおり、幅広いパートナーたちと密に協業するとともに、資金を提供し、政策を提言し、育成を支援し、働きかけを行う機関として最大限の効果を引き出すことで、芸術・映画・クリエイティブ産業に対するアンビションを実現しています。

パートナーシップは、信頼と尊敬とチームワークが醸成されている場合に最も効果を発揮します。私たちには芸術・映画・クリエイティブ産業に関する共通ビジョンがあり、これらの共通ビジョンを共有しながら、協力的で柔軟かつ強固な関係を団体や機関と築き、個々で実現する以上の成果を挙げたいと考えています。

私たちは芸術・映画・クリエイティブ産業の幅広い支援者たちと協働しているほか、地方自治体から企業庁、大学、放送局、トラスト・財団、メディアまで数多くの団体とも協働しています。

しかし重要な点は、私たちがアーティストをはじめ、映像制作者やクリエイティブ企業、さらに、オーディエンスや参加者といった受け取る側である一般市民とも共に活動することです。このような関係性をもって一緒に取り組むことで、到達範囲を広げ、資源とスキルを共有し、革新的な思考やリーダーシップを促進するとともに、新たな機会を最大限に活用するために迅速に対応することができるのです。

私たちのパートナーの一部をご紹介します。

- ・政府機関（スコットランド政府——司法・保健部局、地方自治体、地方自治体の文化トラスト、VOCAL、COSLA、英国政府、英外務省、ブリティッシュ・カウンシルなど）
- ・経済開発機関（スコットランド開発公社、ハイランド開発公社など）
- ・教育関連機関（Education Scotland、スコットランド財政カウンスル、技能育成機関、大学、カレッジ、ロイヤル・コンセルバトワール・オブ・スコットランドなど）
- ・国立の文化に関するパートナー（ゲール語省、スコットランド国立博物館、スコットランド国立美術館、スコットランド博物館ギャラリー、EventScotland、VisitScotlandなど）
- ・宝くじの収益の分配先機関（Big Lottery Fund、文化遺産宝くじ基金、sportscotlandなど）
- ・文化トラスト・財団（ベアリング財団、パール・ハムリン財団など）
- ・映像・メディア（BBCスコットランド、BBCアルバ、チャンネル4、スコティッシュ・テレビジョン（STV）、英国映画協会、Into Filmなど）
- ・ナショナル・カンパニー（ナショナル・シアター・オブ・スコットランド、スコティッシュ・バレエ団、スコティッシュ・オペラ、ロイヤル・スコティッシュ管弦楽団、スコットランド室内管弦楽団など）
- ・セクター別パートナー（Independent Producers Scotland、Federation of Scottish Theatre、Scottish Literature Forum、Scottish Games Networkなど）
- ・国内・海外の資金提供機関（イングランド、北アイルランド、ウェールズの各アーツカウンシル、国際アーツカウンシル連盟など）
- ・民間セクター（Arts & Business Scotlandとの協働など）

p.38

『アンダー・ザ・スキン 種の捕食』

主演：スカーレット・ヨハンソン

監督：ジョナサン・グレイザー

写真：JW Filmsの許可により転載

p.40

Patricia Shone

Craft Scotland によるSOFAシカゴへの出展

写真：© Craft Scotland

p.41

人間と創造性

アーティストやクリエイティブな人々と私たちの関係

変化を起こすのは、一人ひとりの人間だと私たちは考えています。

アーティストやクリエイティブな人々は、芸術・映画・クリエイティブ産業の命ともいえる存在です。彼らの才能や情熱、矜持、好奇心、努力が、私たちが共有するクリエイティブな体系をあらゆる段階で支えているのです。

アーティストやクリエイティブな人々は、芸術、映像、ライブパフォーマンス、展覧会、ワークショップ、議論、デジタ

ル体験を通して、さまざまな形で生活に彩りを添え活気づけてくれます。また、美、知性、思いやり、深遠な意味付け、ユーモアを通して、挑戦し、気持ちをかき立て、刺激し、意味を与え、物語を語り、楽しませ、結びつきを作ります。こうしたことは、自分たちの存在や世界の中の自分たちの居場所、そして私たちの可能性について、立ち止まってじっくりと考える機会を与えてくれます。

アーティストやクリエイティブな人々はそれぞれのやり方で作品に取り組み、現状の打破に挑んでいきます。新たな実践を創造し、技術的な解決法を模索することに注力する人もいれば、個人あるいは少人数のカンパニーによって、コミュニティ、社会、国家の中に価値や活力、結びつきを創出する人たちもいます。また、規模が比較的大きな団体のプログラムでは、その上演・開催に際して、あるいはパートナーとして、個々のアーティストやクリエイティブな人々を頼りにしています。

私たちは、個々のアーティストやクリエイティブな人々の活動を評価する社会づくりに貢献したいと考えており、そのために次のことに取り組みます。

- ・アーティストやクリエイティブな人々は卓越性の実現のために、着想やその活動を探求し、発展させる必要があるという認識を高めること。
- ・スコットランドを、アーティストやクリエイティブな人々が安心して暮らし、活躍できる場所にするために、アーティストやクリエイティブな人々の報酬を引き上げられる立場にいる人たちに対して、そうするよう奨励すること。
- ・アーティストとの協働やアーティストへの支払いに関する助言を公表すること。
- ・当機関の全プログラムを通じてアーティスト及びクリエイティブな人々を支援すること。
- ・アーティスト及びクリエイティブな人々は、調和の取れた繁栄する社会と健全で生産的な経済に不可欠であることから、彼らを代表して政策を提言すること。
- ・アーティストやクリエイティブな人々が活躍する機会を増やすためにパートナーと密に協業すること。作業環境全体をより良くすることができれば、スコットランドのクリエイティブ活動は、より力強いものになると確信しています。

p.42

市民との関係

クリエイティブ・スコットランドは公共機関です。

私たちはスコットランド政府から資金提供を受けるほか、国営宝くじ基金の収益を分配する責務を負う機関です。公共的な関与については、助成する団体に対して、エンゲージメントの形を理解した上で、オーディエンス、参加者、顧客との間によりよい関係を築くよう求めることで図っています。

オーディエンスとコミュニティを活動の中心に据え、私たちは社会的包摂とオープンアクセスに取り組んでいます。そうすることにより創出される機会は広範囲に及び、また意義深いものとなっています。

私たちは地方自治体を中心に、文化芸術をスコットランドの人々に届ける上で重要な役割を担っているパートナーと密接に協業しています。

この10カ年計画に基づき、今後、スコットランド各地の個人・団体の活動を効果的に取り上げ、紹介するためにメディアと協力関係を築き、助成対象の活動への認知度を向上させていきます。また、この組織のウェブサイトを作成して芸術・映画・クリエイティブ産業の幅広い活動をより広範囲に網羅し、そしてより効果的に紹介していきます。

今後3年の間に私たちは、公共的な関与のフレームワークを構築し、助成する個人・団体に対して枠組みに則った形での報告を求めていきます。それにより、提供した資金や投資を介した活動がどのような人たちに届いているか明確に理解できるようになり、芸術や文化の提供が十分ではないことが明らかになった場合には、今後の戦略的な助成においてはより適切な絞りをを行うことを可能にします。

私たちは、助成した資金がスコットランドのみならず、できる限り幅広い人々の役に立つことを願っています。私たちが助成する個人・団体には、遠隔地の農村やコミュニティに暮らしているために接点を持つことが難しく、また、経済的な理由や障害、社会的状況から芸術・映画・クリエイティブ産業へのアクセスが容易に叶わない人々といかにつながりを持つか、その点をしっかりと検討するように奨励していきます。

私たちはまた、スコットランドの文化的多様性のあるコミュニティとの交流を深めたいと願っています。そのため、私たちが助成する個人・団体が芸術的選択肢の幅を広げ、異なる生い立ちや社会的背景を持つアーティストによる文化的に多様な活動を支援するように働きかけていきます。

非営利セクターとの関係もまた、私たちにとって大切です。非営利の芸術集団は、スコットランドの人々が文化芸術に参加する機会を作る上で重要な役割を担っています。この点を認識した上で、私たちは、プロのアーティスト・団体・クリエイティブな人々を育成・輩出する非営利芸術団体を支援しています。

若い世代は、文化芸術に彩られた未来にとって大切な存在です。

そこで私たちは幅広いパートナーと協力し、スコットランド初となる0歳から25歳までを対象とするナショナル・ユース・アーツ戦略(National Youth Arts Strategy)「Time to Shine」を策定しました。この戦略の興味深い点はデジタル・プレイグラウンドの開発で、そこでは子どもや若者が芸術の将来の役割に対するビジョンを描くことができます。若い世代が想像力豊かに発想し、考え方を考えさせるほどの意見を私たちにぶつけてほしいと願っています。このデジタル空間から生まれる着想によって今後の政策が見えるようになるだけでなく、私たちが支援するセクター全体に新たな機会が開かれることを期待しています。

また、世界で高齢化が進んでいることも強く認識しています。その点を踏まえ、高齢者が自らにとって刺激的で意味のある形で芸術・創造性・文化を利用できるようにする有効な方法を構築するように被助成団体に働きかけていきます。

p.43

芸術や創造性は、現代社会になくしてはならないものだと私は思っています。スコットランドのみならず世界中の様々な人、場、物語を掘り下げる機会を与えてくれるだけでなく、生きていることの意味を探究し、表現する機会を私たちに与

えてくれるからです。

ポール・ライト (Paul Wright)
映像作家

p.45

エジンバラ・フェスティバル・フリンジの最後の週末にパフォーマンスするストリート・アーティスト
写真：Callum Bennetts
Edinburgh Festival Fringe Societyの許可により転載

p.46

エジンバラ・インターナショナル・サイエンス・フェスティバルに登場したサイエンス・コミュニケーターのCraig McFarlaneとNicola Shepherd。
いくつものイベントや展示、ハプニングで楽しませ、興味を持たせながら、物事の中には必ず科学があるということを探るプログラム。
写真：Colin Hattersley

p.47

クリエイティブ・システム

私たちは、芸術の各分野やクリエイティブセクターの多様なニーズを非常に真摯に受け止めています。

芸術・映画・クリエイティブ産業には、それぞれ独自の育成ニーズがあります。それぞれの個別戦略を介して各セクターを支援する明確な戦略的アプローチを策定していきます。

また、クリエイティブ・システム全体がどのように機能しているか、また、その動的な性質に繊細かつ敏感に 대응できるように今後の助成や支援の体制を整えるにはどうすればいいのか、こうした点について可能な限り十分に理解できるように注力する必要があります。

芸術と創造に関する各分野間の結びつきはますます強まり、重なり合う部分も増えています。その推進力となっているのは、デジタルが提供する機会、デジタル・コンバージェンス(digital convergence)、クロスプラットフォーム、そして創造性に応じた360度アプローチから得られる新たな知見とつながりです。今後も、こうした傾向は強まっていく一方でしょう。

私たちは伝統の維持を支援する上で重要な役割を担っています。同時に、未来の働き方(future way of working)についても、その発展を理解・支援することに関心があります。このため、戦略の中に分野間のクロスオーバー領域を設けていく予定です。

芸術・映画・クリエイティブ産業で活動する人の中には、いくつものキャリアを積んでいる人も多くいます。こうした人は転換可能な技術を基に、フィールドを移しながら自らの収益力とキャリアアップの機会を最大限に引き出します。その結果、いくつもの役割をこなせるようになり、さらに技術を磨いて大きな夢を実現させます。多彩なクリエイティブ形態で表現される豊かな文化を受け継ぐ人々は伝統的に順応性が高く、そうした生い立ちや社会的背景を持つスコットランドのアーティスト、クリエイティブな人々、団体、カンパニー

は多様性に富み、その好奇心は留まることを知らず、自らのスキルを幅広い活動に活かしています。

クリエイティブな世界でキャリアを積む道は数多くあり、多方面にわたる私たちの責務領域の中で、様々な形で互いに結びついています。分野を越えてコラボレーションするアーティストやクリエイティブ・プラクティショナーもますます増えています。また、助成を受けたクリエイティブな活動と商業ベースの間を行き来しながら、一方の活動で他方を支えている人もいます。

こうしたことはすべて、一直線のシンプルな手段だけで方針を決めることが、もはや適さないことを表しています。可能性を引き出す機会は、より広範囲な文化・クリエイティブ産業の中で人々を結びつけることから生まれます。クリエイティブ・スコットランドの発展に伴い、私たち自身も、既に十分に試されたモデルを保護し、礎とするだけでなく、新しい実践モデルに順応し、機敏に応えていきます。

当機関はこの複雑な状況を理解するために調査を実施します。そうすることで、私たちの働きかけにより成功への道を開くとともに、この産業で活動する人々にスコットランド内外にある機会を的確に示すことができるようになります。

人々に道を示すとともに、彼らの選択肢の方向性を検討できるようなクリエイティブ・システムを開発したいと考えています。この中にはルートマップの作成も含まれ、このマップがあれば今できるよりも、もっと楽に動くことができるようになります。この他にも、情熱、アイデア、スキル、価値観や行動が、相互に結びついたクリエイティブな生態系の一部を成す文化と経済をいかに形づくるかという点についても理解を深めていきます。

こうしたことをうまく実現するためには、クリエイティブな人々、公共機関、各機関、団体などの関係者のみならず、この分野を専門とする大学とも密に連携していく必要があります。

p.48

本質的・本来的なクリエイティブ活動から商業的なクリエイティブ活動まで

芸術・映画・クリエイティブ産業には、人々の想像力を掻き立てる優れた作品を創り出したいという共通の目的があります。どの産業もミッション主導型であり、その核となるのはイノベーションです。そして、形あるものあるいは出来事、体験など、卓越した何かを生み出す思考の体系が支えているのです。こうして生み出されたものは多くの場合、今日の社会に重要な意味を持つだけでなく、後世でも人々の記憶に留まり、称賛を受けることになります。

独自に文化を担う機関としてクリエイティブ・スコットランドには付託事項があり、その重要な役割は、アーティスト、芸術団体、映像、映画に資金を提供することから、商業ベースのクリエイティブ企業が成長し、成功を収められるように資金的な援助を行うことまで幅広く及んでいます。後者の一環として、資金の返済が可能な営利団体を選んで適度なポートフォリオを行っており、助成金を再利用し、他の人に役立てることが可能です。また、アーティストやクリエイティブな人々が自らの作品に利用できるようなアイデアを生み出し、それを磨き上げる上で役立つクリエイティブ資本の調達

の仕組みを構築することや、成長と発展のための経済基盤を維持する上でいかに支援できるかについて模索することにも関心があります。

スコットランドは非常に活気に満ちたクリエイティブな環境を用意しています。

スコットランドの**芸術セクター**は、スコットランド政府から社会にとっての本質的な価値として認識されています。私たちはこの認識を文化的価値と社会的価値の両方の観点から歓迎しています。

アーティストやクリエイティブな活動をする個人・団体は、人生を変え、新たな未来を切り拓いてくれます。芸術や創造性は、さまざまな形で人々の人生に意味を与えます。本、音楽、芸術、デザイン、ダンス、演劇、映画のない世界を想像するだけで、いかに創造性が私たちの人生にとってかけがえのないものであるか理解できます。

スコットランドの芸術セクターの強みは、経済にまで大きく寄与するほどの成功や、才能とスキルのあるアーティスト・作家の類まれなアイデア、またスコットランドの作り手、作曲家、振付家の細部にまでこだわり抜く匠の技など、多様性に富んでいることです。

芸術は、表現芸術、言語、健康、ウェルビーイングにおける取り組みを重視する「卓越のためのカリキュラム (Curriculum for Excellence)」を通じた学習に寄与しており、子どもや若者が対人能力や自信を身に付ける上で役立っています。

本質的価値は、ウェルビーイング経済学を中心として構築された理論に結びついています。これは社会が幸福でウェルビーイングを感じている場合には、生産性が向上し、経済的利益が拡大するという理論に基づくものです。

p.49

スコットランドの映像産業が劇的な成功を収めた結果、スコットランドの映像制作者の認知度は高まり、彼らのアンビションもまた大きく膨らんでいます。こうした大成功の影で、映像セクターがさらに成長していくためには、対処が必要な固有の育成ニーズも明らかになっています。スコットランドは映像・メディアのための新しい戦略アプローチが必要となっており、具体的には制作、スタジオ整備、中小企業 (SME) のための事業開発、互いに関連するスキル・イニシアチブ (公共的な関与や高等教育から、産業の参入、セクターを越えたスキル共有まで)、オーディエンス数増員策に対する投資を拡大するための財源の特定などが挙げられます。

クリエイティブ産業は、スコットランドと英国の両政府から今後の経済にとっての主要成長セクターであると認識されています。近年、スコットランドでは、クリエイティブ産業の定義を文化・メディア・スポーツ省が定めた範囲から拡大し、工芸、文化・歴史的遺産、テキスタイルの要素、文化教育まで含めています。

産業を16に分類したリストが作成されましたが、このリストはスコットランドと英国に関するデータ分析を利用し、地域ごとに、また調査の一環として実施されたセクターごとの協議で明らかにされた課題を反映したものです。産業分類の変更によって私たちは初めて、公式統計を用いてスコットラ

ンドの工芸セクターによる経済への寄与度を把握するとともに、音楽、視覚芸術、実演芸術のセクターについても個別に試算することが可能になりました。

英国のクリエイティブ経済は、経済全体を上回るスピードで成長しています。クリエイティブ産業セクターが成功しているのは、芸術・映画・クリエイティブ産業全体の強い結びつきが奏功しているためで、クリエイティブな効果と経済的利益を維持しています。クリエイティブ・スコットランドの役割は、本質的創造性と商業的創造性の両方に及びますが、未開拓市場とプレイス・メイキング (place-making) に関連した機会を提供することです。

クリエイティブ・スコットランドは、スコットランド・クリエイティブ産業パートナーシップ (Scotland's Creative Industries Partnership: SCIP) のリード・コーディネーター兼議長を務めています。私たちは密に協力して、共通戦略の可能性を試していくこととなりますが、この戦略とは、スコットランドのクリエイティブ産業に対する公共機関の支援のあり方を描くものとなるでしょう。

私たちは、芸術・映画・クリエイティブ産業を、相互に結びつき、互いに頼り合う領域と捉えて運営しています。各領域については、その分野のスペシャリストによるアプローチが必要ですが、その一方で各領域を分離して捉えることはできません。この産業はさまざまな方法で互いを育み、成長させています。ですから、スコットランドの芸術・映画・クリエイティブセクターで活動する人はみな、政策の観点からも、個々の活動領域との関連でも、セクター横断的な活動の方に力を入れることで恩恵を受けることになると考えられます。

p.50

Mark Lyken と Emma Dove の映像作品『Mirror Lands』
多様な関係をハイランド地方の Black Isle に見いだそうとする映像とサウンド・インスタレーション。Cryptic が手掛ける Cryptic Nights に出演。
写真：Alex Woodward

p.51

運営原則

私たちは、効率的かつ効果的なサービス提供に尽力しており、支援する個人・団体とパートナーにとってクリエイティブ・スコットランドとの経験が有意義なものになるように図るとともに、私たちが任されている公的な資金を有効に管理しています。

ユーザー満足度を測定し、問題を迅速かつ体系的に特定・是正することで、運営プロセスの改善を図っていきます。

説明責任を果たすことができるように、明確なサービス基準を定めます。

目標に対する進捗の測定を支援するため、活動の各領域の業績指標を明らかにする枠組みを構築しました。効果的な業績管理が組織全体に根付くように力を尽くしており、この情報をもとに、方針を定め、有効性を改善していきます。

私たちの運営原則は、前回の計画で定めたものと概ね変わりはありません。具体的には次の通りです。

- ・スコットランドの人々のために様々なことを実現させていくのだという思いを原動力に活動します。
- ・私たちの思考の中心にあるのは、常にアーティストとクリエイティブ・プラクティショナーです。
- ・私たちは連携し、協力して取り組みます。
- ・私たちはリーダーシップを発揮します。
- ・私たちは熟慮の上、十分な情報に基づき意思決定し、官僚主義を極力抑えます。
- ・私たちはスタッフとスペシャリストの助言に資金を投じ、スコットランドの文化の発展を促進し、そのための提言を行います。

クリエイティブ・スコットランドの設立から4年間、これらの原則を日常業務に取り入れるために一層努力をする必要があると認識してきました。理事会はすでにお伝えしたように組織体制の変更を約束しており、ホームページでも公表しています。私たちは、原則に従って活動するとともに、活動のすべてに原則が反映されるようにスタッフ全員に向けた明確な手引書を作成します。

私たちは意見に耳を傾け、学習する組織となるように全力で取り組みます。つまり対応と適応を怠らず、支援する個人・団体ができる限り安定するように図る組織となります。

p.52

政府との協働

政府外公共機関 (NDPB) であるクリエイティブ・スコットランドの活動は、スコットランド政府の戦略「ナショナル・パフォーマンス・フレームワーク」(National Performance Framework: NPF) に沿ったもので、スコットランド政府による、以下の全体目標の実現を支援するものです。

「更なる成功を収める国を築くことに行政及び公共サービスを集中させ、持続可能な経済成長を促進させることにより、スコットランド全体が繁栄する機会をもたらすこと」

NPFではスコットランド政府が実現を目指す16の成果 (National Outcomes) を定めています。このすべてについてクリエイティブ・スコットランドの活動は少なからず貢献をしていますが、今後は、ここに示す通りそのうちの7つを用いて、私たちの活動の成果を測っていきます。

スコットランド政府が目指す成果「ナショナル・アウトカム」 1)	クリエイティブ・スコットランドの戦略的アンビション				
	芸術・映画・クリエイティブ産業全体の卓越性と実験的試みが認められ、評価される	誰もが芸術的でクリエイティブな世界を体験し、楽しむことができる	想像力とアンビションを持ち、創造性に秘められた可能性を理解することにより、場と人生の質が変わる	多様で能力に優れ、互いにつながり合うリーダー層と従業者によって、着想に命が吹き込まれる	スコットランドはクリエイティブな国として際立ちつつも、世界とつながっている
ナショナル・アウトカム 2 スコットランドの潜在的経済力が余すところなく発揮され、市民の雇用機会が増加し、その質が向上する			○	○	○
ナショナル・アウトカム 3 より良い教育を受け、より高いスキルを習得し、さらなる成功を収め、研究とイノベーションで高い評価を受ける	○			○	
ナショナル・アウトカム 4 若者は学習の成果を上げ、自信に満ち溢れ、社会に実のある貢献をし、信頼できる市民となる		○		○	
ナショナル・アウトカム 7 スコットランド社会の深刻な不平等に対して取り組みを行う		○	○	○	
ナショナル・アウトカム 13 強固で公平かつ包摂的なナショナル・アイデンティティ（国家の同一性・国民性）に誇りを持つ		○	○		○
ナショナル・アウトカム 14 消費と生産から生じる、スコットランドと世界の環境への影響を軽減する	○	○	○	○	○
ナショナル・アウトカム 16 公共サービスの質が高く、常に改善を図っており、市民のニーズに効率的かつ機敏に対応する	○	○	○	○	○

【脚注】

1) <https://www.scotland.gov.uk/About/Performance/scotPerforms/outcome>

芸術は、私たちがどこから来て、何者であり、この先どこに向かうかを理解する手助けをしてくれます。創造性は現代社会において、物質的な成功を収めるために無くてはならないものですが、それと同時に、私たちの未来に、情緒的な意義や価値を与えてくれるものでもあるのです。

ニコラス・セロタ卿 (Sir Nicholas Serota)
テート館長

Drake Music Scotlandでは、さまざまなツールやメソッドを用いて、誰もが積極的に音楽づくりに携われるようにしている。Figurenotes（譜面上の色・形と楽器に貼られたシールをマッチさせて演奏する方法）はシンプルな方法で、キーボードやギターが楽にできるようになる。
写真：Anne Binckebanck

参考情報

本計画をゲール語でお読みにになりたい場合は、
www.creativescotland.com/ourplansをご覧ください。

私たちの活動について最新情報をお受け取りになりたい場合には、こちらまでお申し込みください。メールでニュースレターをお送りします。

www.creativescotland.com/updates

クリエイティブ・スコットランド及び活動内容について詳しい情報をお知りになりたい場合は、電話またはメールにて以下までお問い合わせください。

Tel: +44(0)845 603 6000

Email: enquiries@creativescotland.com

p.57

経済的にも政治的にも、ありふれた規則に縛られることのない場所があることは、誰もが知っていることです。そこは瞑想的な空間で、人生について深く理解するための場所、あるいはその深みに到達する可能性を秘めた場所です。そこは、光や温度、生命の響きに気付いたり、個人または集団としての自分自身に気付いたりするための時間と空間でもあります。その場所が、心に火をつけるのです。

フルール・ダーキン (Fleur Darkin)

芸術監督

Scottish Dance Theatre

裏表紙

Waverley Gate
2-4 Waterloo Place
Edinburgh EH1 3EG
Scotland UK

249 West George Street
Glasgow G2 4QE
Scotland UK
代表：+44 (0) 330 333 2000
お問い合わせ：+44 (0) 845 603 6000
enquiries@creativescotland.com

www.creativescotland.com

twitter: @creativescots

ISBN: 978 1 85119 204 5

2014年4月

国営宝くじの収益による助成を受けています

イングランド及びスコットランドにおける
文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査
報告書 別冊

【委託元】 独立行政法人 日本芸術文化振興会

〒102-8656 東京都千代田区隼町 4-1

【受託先】 学校法人東成学園

(調査担当部署) 昭和音楽大学 舞台芸術政策研究所

〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生 1-11-1

発行日 平成 30 年 9 月

*無断複写・転載はお断りします。
